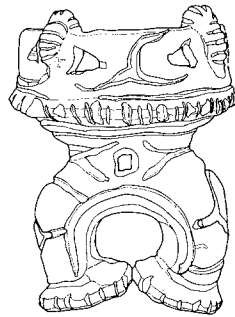


# 市原市文化財センター年報

昭和 60 年度



財団法人 市原市文化財センター

## 序

(財)市原市文化財センターも、設立後早くも4年が経過し、昭和61年度で5周年を迎えようとしております。昭和57年4月、事務職員2名、技術職員3名で出発しましたが、昭和60年度は事務職員6名、技術職員15名と組織の充実が図られ、事業量も飛躍的に増加し、新たな転換点を迎えようとしています。

昭和60年度の発掘調査は帝京技術科学大学建設による下鈴野遺跡、国分寺台区画整理事業に伴う諏訪台古墳群、根田遺跡、都市計画道路君塚・小田部線建設に伴う山田橋表通遺跡など15件実施され、その結果、多くの重要な成果が得られております。特に、根田遺跡では、弥生時代後期の方形周溝墓の埋葬施設に、銅製の腕輪が5点装着された人骨が2カ所から検出され、全国的にも注目されております。

今日の文化財をとりまく状況は、開発との調整、発掘調査による記録保存の基本的な在り方などについて、極めて困難な局面を迎えており、市民レベルでの文化財保護、活用が重要な課題となっております。

当センターでは、市民の方々に文化財をより一層理解して頂く機会として、遺跡見学会、第1回遺跡発表会などを実施し、又、簡単なパンフレット「私たちの文化財」を発行しました。遺跡見学会は下鈴野遺跡、千草山遺跡などで計4回行い、多くの市民の方々をはじめ、市外、県外からの参加者も少なくありませんでした。第1回の遺跡発表会は、約280名の参加者により昭和61年3月9日(日)五井会館で開催し、職員による昭和60年度調査の成果報告の後、筑波大学教授、岩崎卓也先生から「古墳時代の東国と市原」という貴重な御講演を頂きました。また「私たちの文化財」も今日までに5号発行され、一層市民の方々のお手許に届くよう努めて行きたいと考えております。

今後、発掘調査によって得られた多くの成果をもとに、郷土市原の歴史を研究し、様々な機会を設けて市民の方々の身近な文化財となるよう努めたいと思います。

最後に、当センターに対し、常に御指導と御協力を賜っております千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、心より感謝致します。

昭和61年12月20日

財団法人 市原市文化財センター

理事長 星野一郎

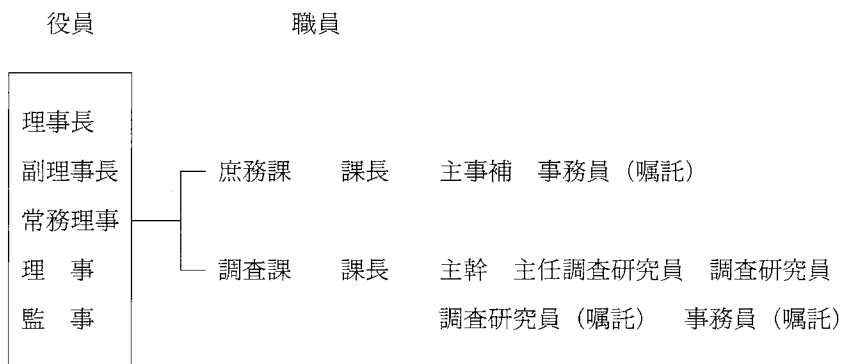
## 目 次

序	
I 機 構	1
II 昭和60年度事業概要	2
III 昭和60年度調査概要	7
1. 御蔭目浅間神社古墳	9
2. 山田橋表通遺跡	11
3. 千草山遺跡	16
4. 烏堀込貝塚	22
5. 椎津中林遺跡	26
6. 諏訪台古墳群	30
7. 根田遺跡	32
8. 外迎山遺跡	41
9. 唐沢遺跡	46
10. 山見塚遺跡	49
11. 南富士台遺跡	53
12. 下鈴野遺跡	56
13. 中間ヶ広遺跡	58
14. 大羽根城郭跡	61
15. 郡本遺跡	62
16. 土字下原遺跡	63
17. 奉免上原台遺跡	65
IV 昭和60年度受贈図書一覧	66

# I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員及び職員から構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、理事、監事をもって構成され、昭和60年度の職員は、事務職員6名（内市都市公社出向職員1名）、技術職員15名（内市出向職員12名）であり、その組織及び氏名は下表のとおりである。

## (1) 組 織



## (2) 役 員

職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	教育委員会 教育委員 教育指導部 会長	星野 一郎
副理事長	教育委員 教育指導部 会長	横濱 辰夫
常務理事	専 任	内藤 隆
理 事	早稲田大学 名誉教授	滝口 宏
理 事	和洋女子大学 教授	寺村 光晴
理 事	姉崎神社 司	海上 信久

職 名	役 職 名	氏 名
理 事	市企画部長	松崎 良一
理 事	市総務部長	斎藤 栄亮
理 事	市都市部長	中島 英夫
理 事	市総務部 財政課長	松下 隆
監 事	市会計課長	白鳥 一夫
監 事	教育委員会 総務課長	松本辰之助

## (3) 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田丸 萬富
	主 事 補	大鐘 光江
	事 務 員 (嘱 託)	秋田 晴美
	事 務 員 (嘱 託)	藤沢ひとみ
	事 務 員 (嘱 託)	石渡あゆみ
調査課	課 長	清藤 一順
	主 幹	石田 広美
	主 幹	山口 直樹
	主 任 員 調 査 研 究 員	宮本 敬一
	調 査 研 究 員	米田耕之助

所 属	職 名	氏 名
調査課	調 査 研 究 員	田中 清美
	調 査 研 究 員	近藤 敏
	調 査 研 究 員	高橋 康男
	調 査 研 究 員	田所 真
	調 査 研 究 員	浅利 幸一
	調 査 研 究 員	大村 直
	調 査 研 究 員	木對 和紀
	調 査 研 究 員 (嘱 託)	鈴木 英啓
	調 査 研 究 員 (嘱 託)	半田 堅三
	調 査 研 究 員 (嘱 託)	田中 新史
	事 務 員 (嘱 託)	高浦 貞子

## II 昭和60年度事業概要

### 1. 理事会の開催

昭和60年度の理事会は、次のとおりに開催された。

第1回理事会	昭和60年5月28日	於 市原市役所 901会議室
議案第1号	昭和59事業年度事業報告について	
議案第2号	昭和59事業年度歳入歳出決算について	
第2回理事会	昭和60年11月26日	於 市原市市民会館第3会議室
議案第1号	昭和60事業年度事業計画の変更について	
議案第2号	昭和60事業年度補正予算(第1号)について	
第3回理事会	昭和61年3月28日	於 市原市役所 602会議室
議案第1号	昭和60事業年度事業計画の変更について	
議案第2号	昭和60事業年度補正予算(第2号)について	
議案第3号	昭和61事業年度事業計画について	
議案第4号	昭和61事業年度歳入歳出予算について	
議案第5号	人事規程の一部改正について	

### 2. 会計監査

昭和60事業年度の会計監査は、昭和61年5月23日、財団法人市原市文化財センター馬立事務所において、白鳥一夫、斎藤崇雄両監事により実施された。

### 3. 昭和60事業年度受託事業

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺 跡		事業内容	契約年月日	契約金額	終了年月日	精算金額
				名称及び種別	面積・数量					
1	新規	都市計画道路五井駅 東口線建設に伴う埋 藏文化財調査	市 原 市	御蔭目 浅間神社古墳 (古墳)	㎡ 800 古墳1基	本 調 査	60. 5. 1	10,612,474 円	61. 3.25	10,612,474 円
2-a	継続	都市計画道路君塚小 田部線建設に伴う埋 藏文化財調査	市 原 市	山田橋遺跡 (集落跡)	6,000 5,000	確認調査 本 調 査	60. 7. 1	3,455,300	61. 3.25	3,455,300
2-b							60. 7.31	25,486,000	61. 3.25	25,486,000
3	継続	文化施設建設に伴う 埋藏文化財調査	市 原 市	千草山遺跡 (集落跡)	15,000	本 調 査	60.11. 1	60,000,000	61. 3.31	60,000,000
4-a	新規	市道166号線改良 工事に伴う埋藏文化 財調査	市 原 市	馬塚辺貝塚 (貝塚・ 集落跡)	9,200 1,600	確認調査 本 調 査	60. 5.10	7,265,000	61. 3.31	7,265,000
4-b							60. 7.25	9,536,000	61. 3.31	9,536,000

番号	継続又は新規	事業名	委託者	遺跡		事業内容	契約年月日	契約金額	終了年月日	精算金額
				名称及び種別	面積・数量					
5	継続	市道111号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	中林遺跡他(炬穴群)	960㎡	本調査	60.8.16	5,286,000円	61.3.31	5,286,000円
6	新規	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(1)	市原市	諏訪台遺跡(古墳・集落跡)	14,000古墳13基	本調査	60.4.1	128,734,386	61.3.31	128,734,386
7	新規	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(2)	市原市	根田遺跡(古墳・集落跡ほか)	1,400古墳1基					
8-a	新規	姉崎カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財調査	平和農産工業株式会社	唐沢遺跡他(古墳ほか)	86,900	確認調査	60.4.1	21,300,000	61.3.31	21,230,318
8-b				唐沢遺跡他(古墳ほか)	15,400	本調査	60.7.1	58,256,000	61.3.31	57,365,821
9	新規	県道鶴舞牛久線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	千葉県	南富士台遺跡(集落跡)	350	本調査	60.5.1	3,357,000	61.3.31	3,357,000
10	継続	(仮称)帝京技術科学大学建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	下鈴野遺跡(古墳・集落跡)	32,220	本調査	60.4.8	88,291,096	61.3.31	88,291,096
11	継続	下水処理場関連工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	菊間手永貝塚(貝塚・集落跡)	12,000	整理	60.4.1	4,160,000	61.3.31	4,160,000
12	継続	都市計画道路草刈西広線建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	西山遺跡(集落跡)	2,770	整理 報告書刊行	60.8.15	8,505,000	61.3.25	8,505,000
13	継続	市道114号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市	下中貝遺跡他(塚・集落跡)	2,000	整理 報告書刊行	60.4.17	5,676,000	61.3.31	5,676,000
14	継続	浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	花和田遺跡(塚・集落跡)	2,000塚1基	整理	60.7.1	2,098,000	61.3.10	2,098,000
15	継続	国府小学校プール建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	上総国府跡(推定地(中世館跡・墓跡))	500	整理 報告書刊行	60.4.1	4,000,000	61.3.31	4,000,000
16	継続	今富郵便局建設に伴う埋蔵文化財調査	関東郵政局	大宮遺跡(集落跡)	1,221.99	整理 報告書刊行	60.7.1	1,481,319	61.3.10	1,481,319
17	新規	国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(3)	市原市	神門古墳群(古墳)台遺跡他(集落跡)	41,700	基礎整理	60.4.1	23,883,000	61.3.31	23,883,000
18	新規	文化財保護思想の啓蒙と普及小冊子作成	市原市				60.9.13	800,000	61.3.31	800,000
19	新規	帝京技術科学大学開運道路(一般道路)建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市	中間ヶ広遺跡(古墳・包蔵地)	1,900古墳1基	本調査	60.12.25	7,964,000	61.3.31	7,964,000
20	新規	高滝カントリークラブ建設工事に伴う埋蔵文化財調査	森永開発株式会社	大羽根城跡(中世城郭)	160,887	測量調査 報告書刊行	60.12.25	5,234,000	61.3.31	4,661,017
21	新規	市原信用組合郡本支店建設に伴う埋蔵文化財調査	市原信用組合	郡本遺跡(集落跡)	360	本調査	61.2.20	2,457,000	61.3.31 (61.4.25)	397,531
22	新規	東林寺墓地造成に伴う埋蔵文化財調査	宗教法人 東林寺	土字下原遺跡(集落跡)	250	本調査	61.2.20	1,034,000	61.3.20	920,791
23	新規	市原ゴルフ倶楽部増設工事に伴う埋蔵文化財調査	サンヨー食品株式会社	上原台遺跡(古墳群・包蔵地)	40,900	確認調査	61.2.25	10,871,000	61.3.31	9,399,775

#### 4. 職員研修

- (1) 職員研修会                      昭和61年1月23日                      於 市原市市民会館  
上総国分尼寺について  
奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財発掘技術者専門研修報告  
主任調査研究員                      宮本敬一  
千葉県における埋蔵文化財の現状と課題  
千葉県教育庁文化課 副主査 天野 努
- (2) 職員現場研修会                  昭和60年10月4日  
(財) 千葉県文化財センター  
千葉市 有吉北貝塚  
市原市 川焼台遺跡ほか  
(財) 印旛郡市文化財センター  
佐倉市 大山遺跡  
千葉市埋蔵文化財調査センター  
施設
- (3) 外部研修への参加  
埋蔵文化財技術者専門研修（遺跡保存整備課程）  
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター  
昭和60年12月2日～昭和60年12月20日                  1名  
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修  
京都府  
昭和60年10月17日～昭和60年10月18日                  2名  
昭和60年度市町村埋蔵文化財担当職員講習会  
昭和60年5月14日～昭和60年5月16日                  1名  
昭和60年10月15日～昭和60年10月17日                  1名

#### 5. 印刷物の刊行

- (1) 報告書  
山田大宮遺跡  
潤井戸西山遺跡  
大羽根城郭跡  
村上城跡

能満上細工多・番面台遺跡

(2) 小冊子

上総国分寺跡

6. 普及活動

(1) 遺跡発表会

一般参加者 約280名

昭和61年3月9日

於 五井会館

昭和60年度発掘調査成果の発表

担当職員

特別講演

「古墳時代の東国と市原」

筑波大学教授 岩崎卓也



(2) 遺跡見学会

下鈴野遺跡

昭和60年9月21日

山田橋表通遺跡

昭和60年11月16日

千草山遺跡

昭和61年2月15日

諏訪台古墳群

昭和61年3月22日





(3) 「話題になった文化財展」協力 於 県立房総風土記の丘

「いちはらの原始・古代」

昭和61年 3月 4日～昭和61年 3月23日

(4) 印刷物の刊行

「私たちの文化財」1～3号・特集号

市原市文化財センター年報 昭和57・58年度

市原市文化財センター年報 昭和59年度

市原市文化財センター「案内」

報告書等の刊行及び頒布

## 7. 昭和60年度決算報告

### 収 入

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	予算現額に 比し決算額 の増減	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
(款) 事 業 収 益	541,465,000	△ 48,886,000	492,579,000	506,781,928	14,202,928	
(項) 事 業 収 益	540,486,000	△ 59,529,000	480,957,000	495,145,808	14,188,808	
(項) 事業外収益	978,000	3,628,000	4,606,000	4,620,298	14,298	
(項) 雑 収 益	1,000	7,015,000	7,016,000	7,015,822	△ 178	整理費引当金戻入
合 計	541,465,000	△ 48,886,000	492,579,000	506,781,928	14,202,928	

### 支 出

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	不 用 額	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
(款) 事 業 費	541,465,000	△ 48,886,000	492,579,000	506,781,928	△ 14,202,928	
(項) 受託事業費	502,854,000	△ 49,382,000	453,472,000	465,390,835	△ 11,918,835	
(項) 研究事業費	4,385,000	773,000	5,158,000	5,200,995	△ 42,995	
(項) 普及事業費	3,562,000	459,000	4,021,000	3,979,686	41,314	
(項) 一般管理費	28,294,000	1,634,000	29,928,000	32,210,412	△ 2,282,412	
(項) 予 備 費	2,370,000	△ 2,370,000	0	—	—	
合 計	541,465,000	△ 48,886,000	492,579,000	506,781,928	△ 14,202,928	

### III 昭和60年度調査概要

今年度の発掘調査は、確認調査を4遺跡、本調査を13遺跡実施した。特に、10,000㎡以上の大規模な本調査が下鈴野遺跡など4遺跡で行われた。また、検出された遺構、遺物は、先土器時代から近世まで広範囲に及んでいる。

先土器時代では、山田橋表通遺跡などでナイフ形石器が出土しているが、特に目立った検出はなく、今後の調査に期待したい。

縄文時代では、まず竪穴住居跡については、下鈴野遺跡で早期稻荷台期1軒、諏訪台古墳群下層遺跡で早期茅山期の大型住居7軒、烏堀込貝塚で中期加曾利E期6軒、千草山遺跡などで中期加曾利E期2軒などがあげられる。また、炉穴が、中林遺跡で約85基検出され、諏訪台古墳群下層でも多くみられる。さらに、下鈴野遺跡では、陥穴が43基検出されている。

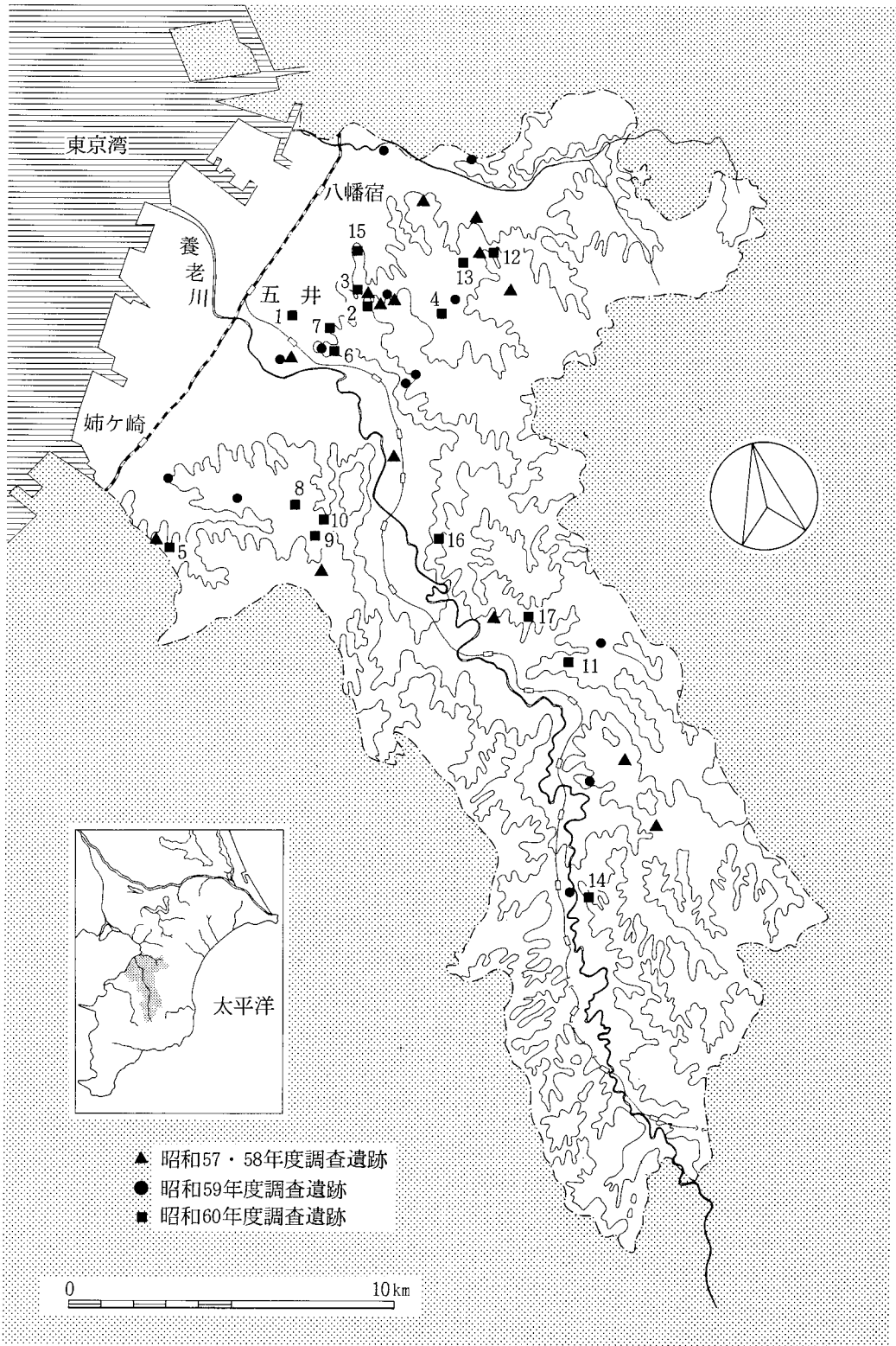
弥生時代では、諏訪台古墳群下層より中期宮の台期の方形周溝墓が多数検出されているが、特に根田遺跡では後期の方形周溝墓主体部から銅釧5点が人骨に伴い、菅玉、ガラス小玉などとともに出土し、県内では初めて、東日本でも希少であり、注目される。また、竪穴住居跡は、山田橋遺跡で後期のもの36軒などが検出されている。

古墳時代では、まず、古墳の調査として、諏訪台古墳群で前期から終末期にいたる各種の古墳群が調査されている。また、御蔭目浅間神社古墳が部分的な調査であるが、小規模な前方部を持つ前方後円墳と判明し、周溝部より円筒、形象の埴輪片を多く出土している。さらに、下鈴野遺跡で5基（円墳4、方墳1）、外迎山遺跡で古墳2基、根田6号墳などの調査があげられ、木棺直葬の主体部が、いくつか検出されている。竪穴住居跡は、下鈴野遺跡で前期五領期34軒などが、また、千草山遺跡で後期鬼高期43軒などがある。

奈良、平安時代では、山田橋遺跡で、側溝を伴う幅約6mの道が検出され、隣接する稻荷台遺跡で検出された道と連結すると考えられ、奈良時代の官道と推定されている。方形周溝状遺構の検出も多く、外迎山遺跡で28基、下鈴野遺跡で9基などがあげられ、下鈴野遺跡や千草山遺跡では、いわゆる地下式横穴墓を伴うものも1基ずつ確認された。また竪穴住居跡や掘立柱建物跡は、千草山遺跡、山田橋遺跡などで数軒検出されている。

中近世の時代では、大羽根城跡の測量調査がある。中世の山城で石川城跡に次ぐ、大規模な施設を有している。また、鎌倉街道といわれる、いわゆる街道跡と思われる古道跡が中林遺跡で検出されている。

さらに、確認調査ではあるが、唐沢遺跡や山見塚遺跡で炉穴群や縄文時代後期の貝塚を伴う集落跡そして、方墳などが認められている。



昭和60年度調査遺跡位置図

- |             |          |           |           |          |
|-------------|----------|-----------|-----------|----------|
| 1：御産目浅間神社古墳 | 2：山田橋遺跡  | 3：千草山遺跡   | 4：鳥堀込貝塚   | 5：中林遺跡   |
| 6：諏訪台古墳群    | 7：根田遺跡   | 8：唐沢遺跡    | 9：外迎山遺跡   | 10：山見塚遺跡 |
| 11：南富士台遺跡   | 12：下鈴野遺跡 | 13：中間ヶ広遺跡 | 14：大羽根城郭跡 | 15：郡本遺跡  |
| 16：土宇・下原遺跡  | 17：上原台遺跡 |           |           |          |

ござめ せんげんじんじや  
1 御蔭目浅間神社古墳

**事業名** 都市計画道路五井駅東口線建設に伴う埋蔵文化財の調査

**所在地** 市原市五井字蔭目3,888 他

**調査期間** 昭和60年5月1日～7月31日（本調査）

**調査面積** 800 m<sup>2</sup>

**調査概要** 遺跡は、内房線五井駅より東南へ約1kmの地点に在り、養老川の開堆した海岸平野右岸の標高5～6mの微高地に占地する。周辺は、明治以前からの古い村落を残しているものの、駅から比較的近距离にあることから近年のほ場整備や宅地造成に伴い地形変化の激しい地域である。

古墳は、遺跡名の示すように富士山神社が御奉されており、周囲の地形同様改変が著しく、現況では墳丘長14m前後、高さ3.1mを測る。

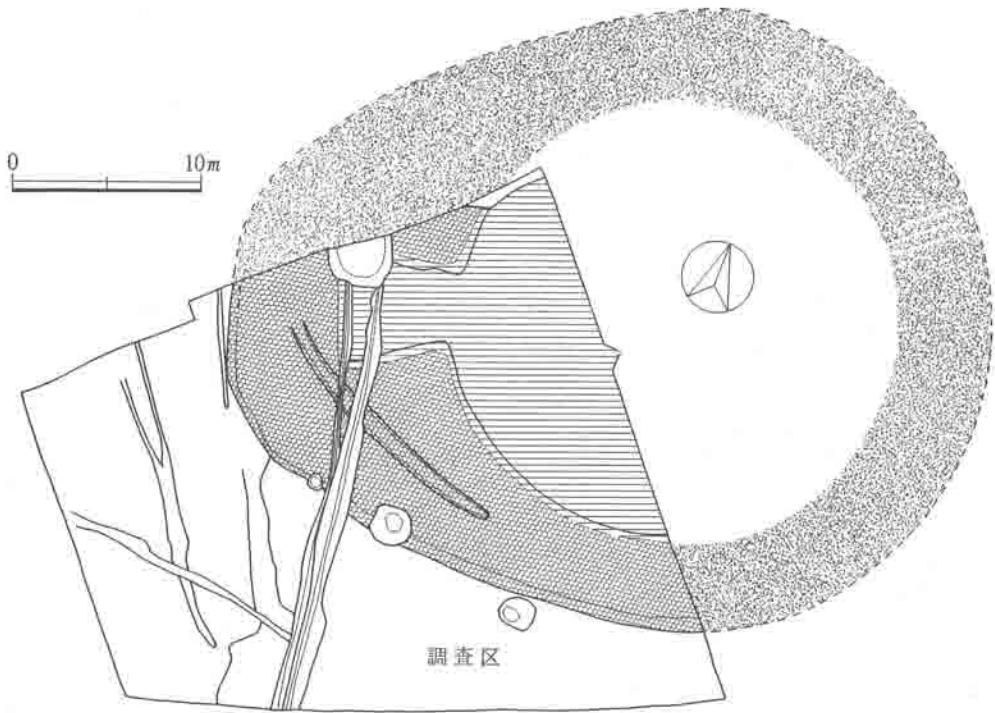
調査の結果、予想外に古墳の変形がはなはだしく、旧表面から2.9mを測る盛土は、下層の1.3mが築造当時のものであるのに対し、上層の1.6mは新たに盛土されているもので、これは浅間様を奉るのにさいして行われたものである。したがって盛土範囲もかなり削り取られており、この削平は墳丘下以外の調査区全域におよぶものであった。

古墳の平面形は、西南西に小規模の前方部を有する前方後円墳と復元でき、規模は墳丘長29～30m・主軸長40～42m・後円部径約24m・前方部長6mと推定できる。周溝は、墳丘下の旧表面上からの比高差は最深部1.0m・最浅部で0.6mを測る。幅は後円部で5～6m前後・前方部で6mである。周溝の外形は、前方部がやや直線的な卵形である。

遺物は、埴輪片がほとんどで、土器類は極めて少ない。また前方部周溝内からは周溝外から投げ込まれた状況で奈良～平安期の土師器杯類を主体とする土器が埴輪片と混在して出土する。埴輪片は、そのほとんどが周溝内からの出土であり、墳丘からは数点出土するだけである。周溝内全域にわたって埴輪片が出土しているが、特に前方部くびれ部南側に集中しほとんどが円筒埴輪であるが、形象埴輪も若干見られる。形象埴輪には、馬・ニワトリ・人物がある。

この他に、溝4条・土壇2基が検出されているが、溝4条は近世で、土壇2基も古墳以後の所産である。また墳丘下からは、縄文後期や古墳時代前期の土器片が出土している。

（浅利幸一）



御産目浅間神社古墳復元図



御産目浅間神社古墳近景

## 2 山田橋表通遺跡

**事業名** 都市計画道路君塚小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査  
**所在地** 市原市山田橋字大田328他  
**調査期間** 昭和60年7月1日～7月31日（確認調査）・8月1日～12月26日（本調査）  
**調査面積** 6,000㎡のうち600㎡（確認調査）・5,000㎡（本調査）

**調査概要** 本遺跡は北の村田川、南の養老川に挟まれた市原台地上標高32m前後に位置している。台地は海岸平野から拳指状に侵谷され、本遺跡は八幡海岸で東京湾に入る新田川の能満台の水源域を北にして、南を国分寺台を大きく侵刻し山倉ダムに至る溺れ谷との分水嶺にある。

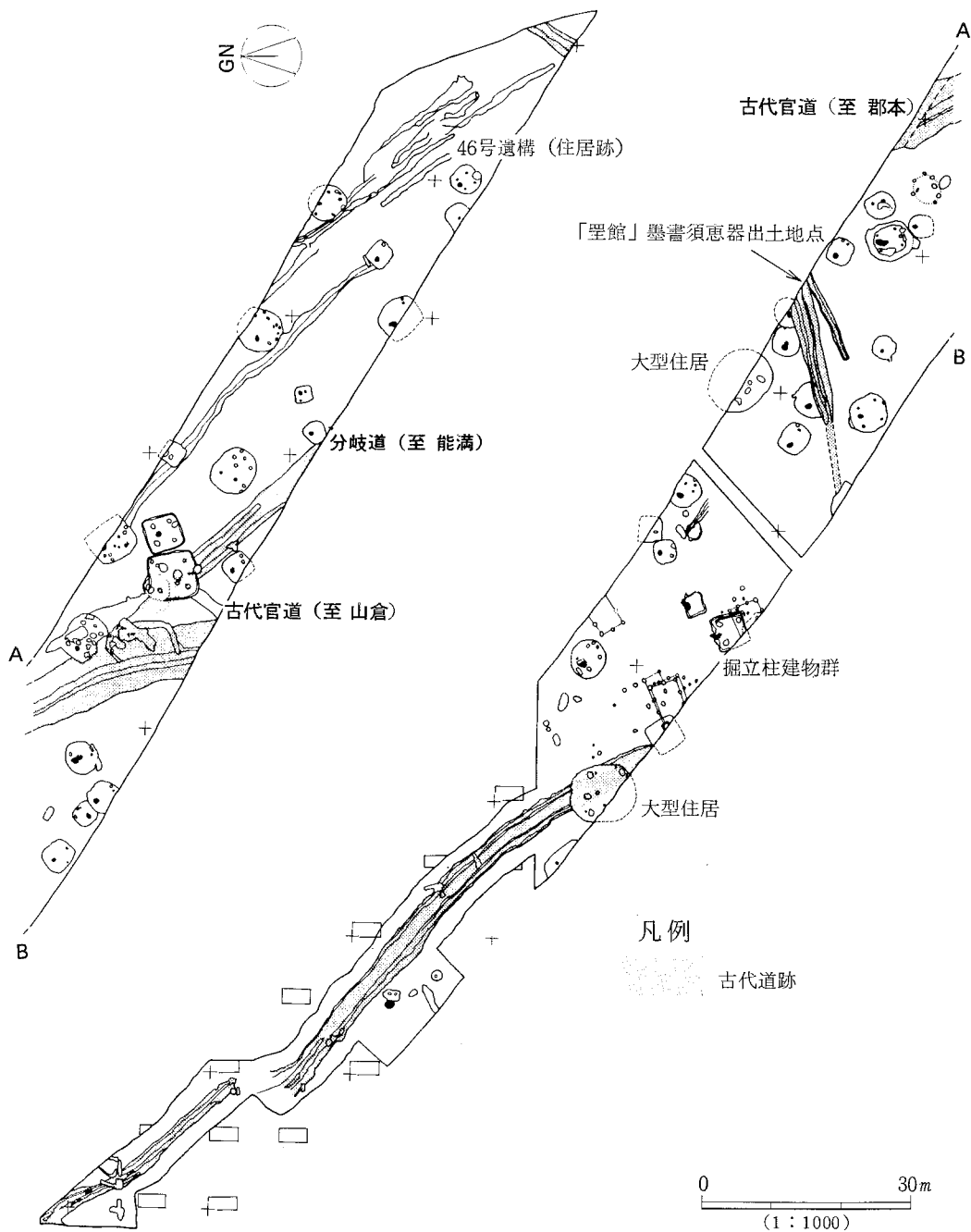
調査の結果表通遺跡では先土器時代のナイフ形石器、剝片と礫が数点出土している。これらは平安時代竪穴式住居跡の床面下で検出されたが、それ以上発見できなかった。出土層位はVI層(AT)下と考えられる。縄文時代中期後半の加曾利E末の土器片が谷の緩斜面と、焼土を伴った土壌から出土したが当該時期の住居跡は発見できなかった。縄文時代後期加曾利B式期には住居跡と考えられる柱穴が円形に配置されて検出されたが炉が未検出である。先土器時代～縄文時代までは遺物、遺構量は極めて少なく生活の表舞台となっていない。

弥生時代後期久ヶ原式期になると調査区域中央部の南へ開く谷を中心に集落が営まれるようになり、弥生後期を通して36軒の竪穴式住居跡が検出された。調査区は幅20m程であり他に2倍以上の住居跡が眠っている可能性がある。竪穴式住居跡の中に長軸8m以上の大型住居跡が2軒あり、調査区250mに渡って面的に間断なく弥生後期全般に渡って住居跡が点在する。住居跡の中で北東端の46号遺構（出土遺物、出土状態掲載）は12個体分一括遺物が出土し良好な組み合わせをもっている焼失住居である。しかし全般に遺構数の割に遺物は非常に少量である。

弥生後期に続き古墳前期五領式期には住居跡が7軒あるが弥生時代と区別が出来ないものがある。当該期は前時期と比較して住居跡の平面プランの方形化と貼床化が見られるようである。集落は谷を隔てて2分されており弥生時代より縮小し、後に続かない。五領式期以後古墳時代の遺物遺構は全く見られない。北方向500mには千草山遺跡で大規模な古墳時代後半の集落が存在するので、集落が移動したのであろう。

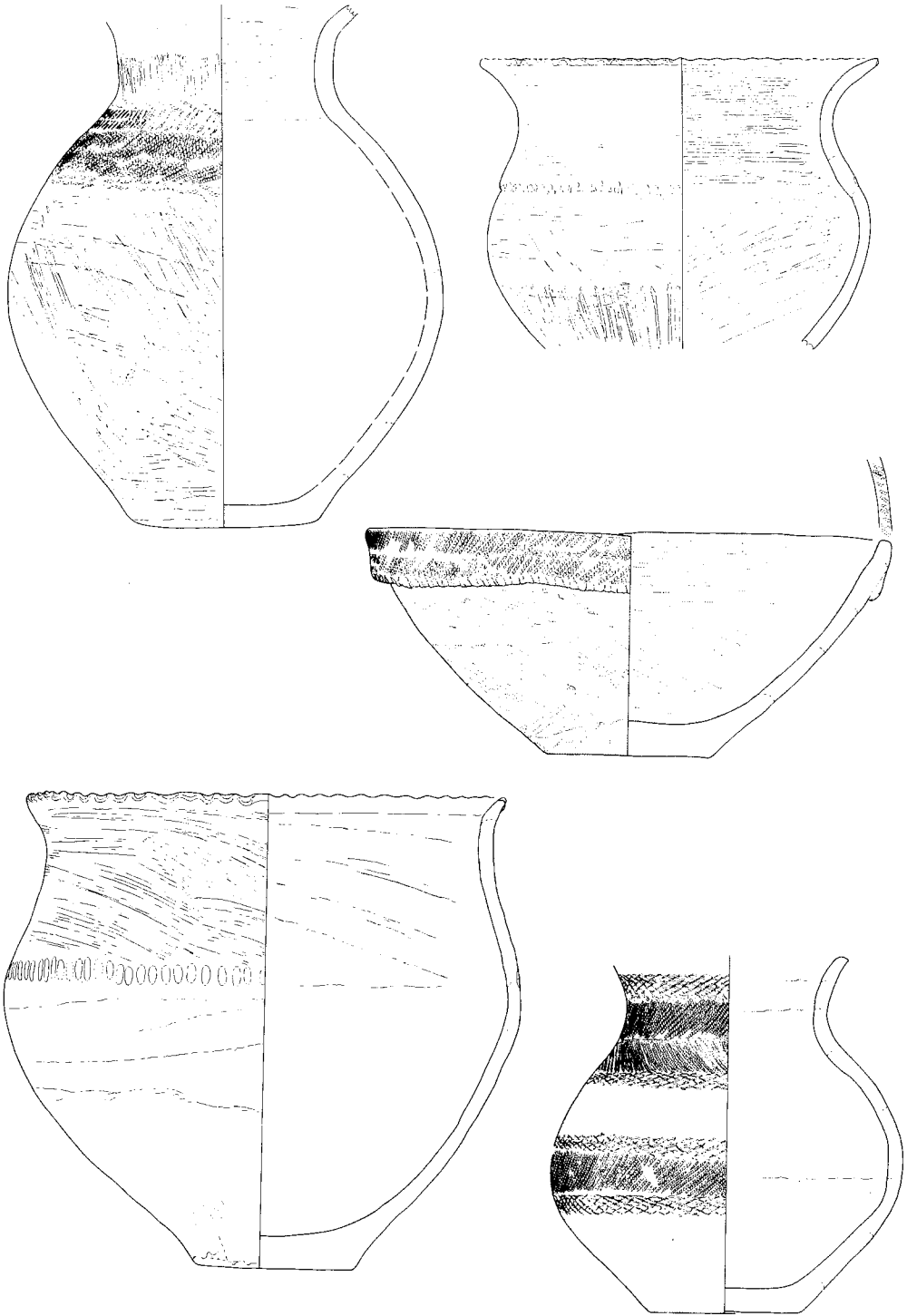
奈良時代8世紀には、調査区を南北に横切る道路が存在する。道路跡は幅6mで調査区内で分岐し、分岐道は東へ向い幅は3mで側溝を設けている。恐らくは能満上細工多遺跡に連絡するものと考えられる。幅員6mの道路は航空写真、地図、国分寺台区画整理事業地内の稲荷台遺跡G地点の結果から、確認調査前より古代道路の存在は考えられていた。地図の畦では幅12mあり実際の道の2倍であるが道路の影響範囲が両側3m位あるのではないかと考えられる。他に主線に平行している支道や、直角に分岐するものがある。道路覆土中からは8世紀後半の





山田橋表通遺跡全体図





0 10 cm

(1:3)

山田橋表通遺跡46号遺構出土器

須恵器や、布目瓦等を出土し、中世の古瀬戸片まである。また支道からは「聖館」と墨書された須恵器も出土している。平安時代9世紀になると主線と平行支道、支道の三条に囲まれた区域に竪穴式住居跡が3軒と掘立柱建物が4棟存在した。これらは2時期以上の建直しがあり、竪穴式住居跡脇に一基だけではあるが木炭を多量に使用した土壇墓がある。中には五点の土師杯が埋納されており、それらは9世紀第二四半紀頃と考えられている。

中世には道の路線内以外には遺構遺物がなく、路線内に土壇、掘立柱建物、周溝、葉研堀等が検出されている。周溝内からは皇宋通宝が4点出土している。

当遺跡は弥生時代後期になって拠点集落が形成され古墳時代前期まで長く継続された様だ。奈良時代の道路跡は規模、出土遺物等から古代官道と考えられ、旧東海道の可能性がある。古代官道は市原郡衙推定地の郡本までの経路は既に知られており、本調査で山田橋から山倉までの路線が確定したことになる。古代官道の両側には官衙群、寺院が集中し、古代上総国の中心部を通るメインストリートの様相を呈している。現在でも山田橋には北海道、亥の海道、表道あたまのまへ、ごきのみまへ、おおた、おおはし五三ノ前（御座ノ前）、大田、大橋と官道に沿って道路に関する字名が残り、官道は山倉ダム下の字大橋地区内の土橋を通り山倉、大坪へと南下していくと思われる。（近藤 敏）



山田橋表通遺跡46号遺構出土状態

### 3 千 草 山 遺 跡

事業名 文化施設建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満字東千草山1476地先他

調査面積 15,000 m<sup>2</sup> (本調査)

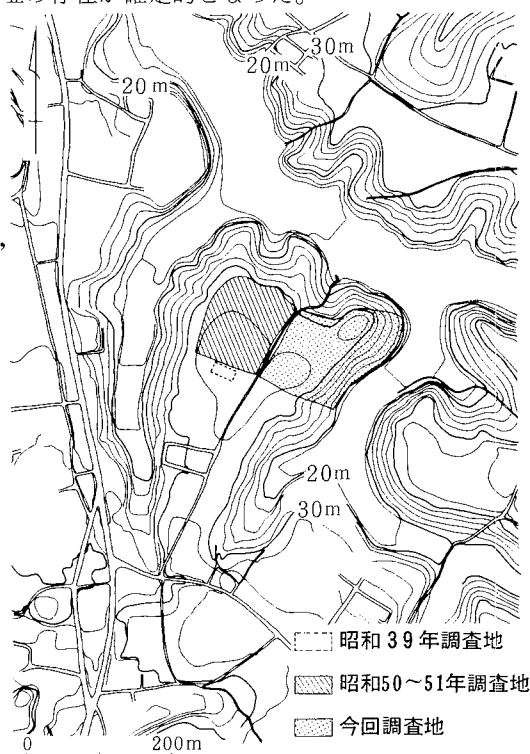
調査期間 昭和60年11月11日～昭和61年3月31日

調査概要 遺跡は、養老川と村田川に挟まれた通称「市原台地」と呼ばれる標高20～30mの洪積台地上に位置し、東京湾からは、約6km入った地点である。立地としては、八幡宿方面より東京湾に注ぐ、五所川などの幾つかの小河川の上流で、南側を除く三方を小谷に囲まれた標高30m前後の舌状台地上である。千草山遺跡の総面積は、この舌状台地全域と想定され、約80,000m<sup>2</sup>の規模をもつと考えられる。

千草山遺跡の調査は、過去に二度実施されている。最初の調査は、昭和39年に千葉県教育委員会の平野元三郎氏を中心に、台地中央部やや西寄り付近（ここではA地区と仮称する。）の試掘調査が行われ、「数個の礎石を伴う基壇」が確認され、また、大量の布目瓦や鉄釘などが出土した。さらに、出土瓦の中に、上総国分寺の創建期と同範の二十四葉蓮華文鑑瓦が認められたことなどから、当時から言われていた寺院址の存在が確定的となった。<sup>注(1)</sup>

昭和50年から51年にかけて、市原中学校の建設に伴い、遺跡の北西部約10,000m<sup>2</sup>の調査が行われ、(ここではB地区と仮称する。)縄文時代早期から前期の炉穴8基、中期の竪穴住居跡1軒、古墳時代後期の竪穴住居跡58軒、円墳1基、奈良、平安時代の竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡10棟などが検出された。特に、奈良、平安時代の竪穴住居跡からは、鉄釘を出土した小鍛冶遺構や神功開寶、「寺」名を有する墨書土器が出土し、これらの住居跡は、千草山廃寺址と何らかの関連があるものと推察された。また、この調査時において、上総国分寺と同範の均正唐草文軒平瓦が1点出土している。<sup>注(2)</sup>

今回の調査は、文化施設建設に伴い、千草山遺跡の北東部約15,000m<sup>2</sup>が対象となった。(ここではC地区と仮称する)調査の結果、縄文時



遺跡周辺の地形及び調査区域図



今回の調査地区遺構全体図

代早期から中世頃と考えられる数多くの遺構を検出した。特に、弥生時代の遺構としては、後期の竪穴住居跡が2軒検出され、SI 131号住居跡は、長径が10mを越す大型住居である。また、B地区の調査も同様であったが、古墳時代後期の竪穴住居跡が最も多く、今回の調査でも47軒を検出した。さらに、奈良、平安時代の遺構は、竪穴住居跡5軒 (SI105,106,107,108,140)、掘立柱建物跡4棟 (SB101,102,103,104)(SB102は、やや不整形ではあるが東西に庇を持つ可能性がある。) 方形周溝状遺構3基 (SX101,102,103)(SX103は、いわゆる地下式横穴墓を付設する) 二重に囲む方形の区画を呈すると推定される溝3条 (SD101,102,103) 土壇1基(SK104)などが検出されている。これらの遺構も、千草山廃寺址との関連が考えられるが、ここでは、SX103

別表 今回検出した遺構

時期	土器型式	種類	員数
縄文時代	早・前期	茅山式 炉 穴	8基
	中期	加曾利E式 竪穴住居跡	2軒
弥生時代	後期	久々原式 //	2軒
古墳時代	後期	鬼高式 //	47軒
	//	//	土 塙 1基
奈良時代		方形周溝状遺構	3基
平安時代	国分式	竪穴住居跡	5軒
	//	竪立柱建物跡	4棟
	//	溝状遺構	4状
	//	土 塙	2基
	//	竈 骨 器	1基
不明		土 塙	1基

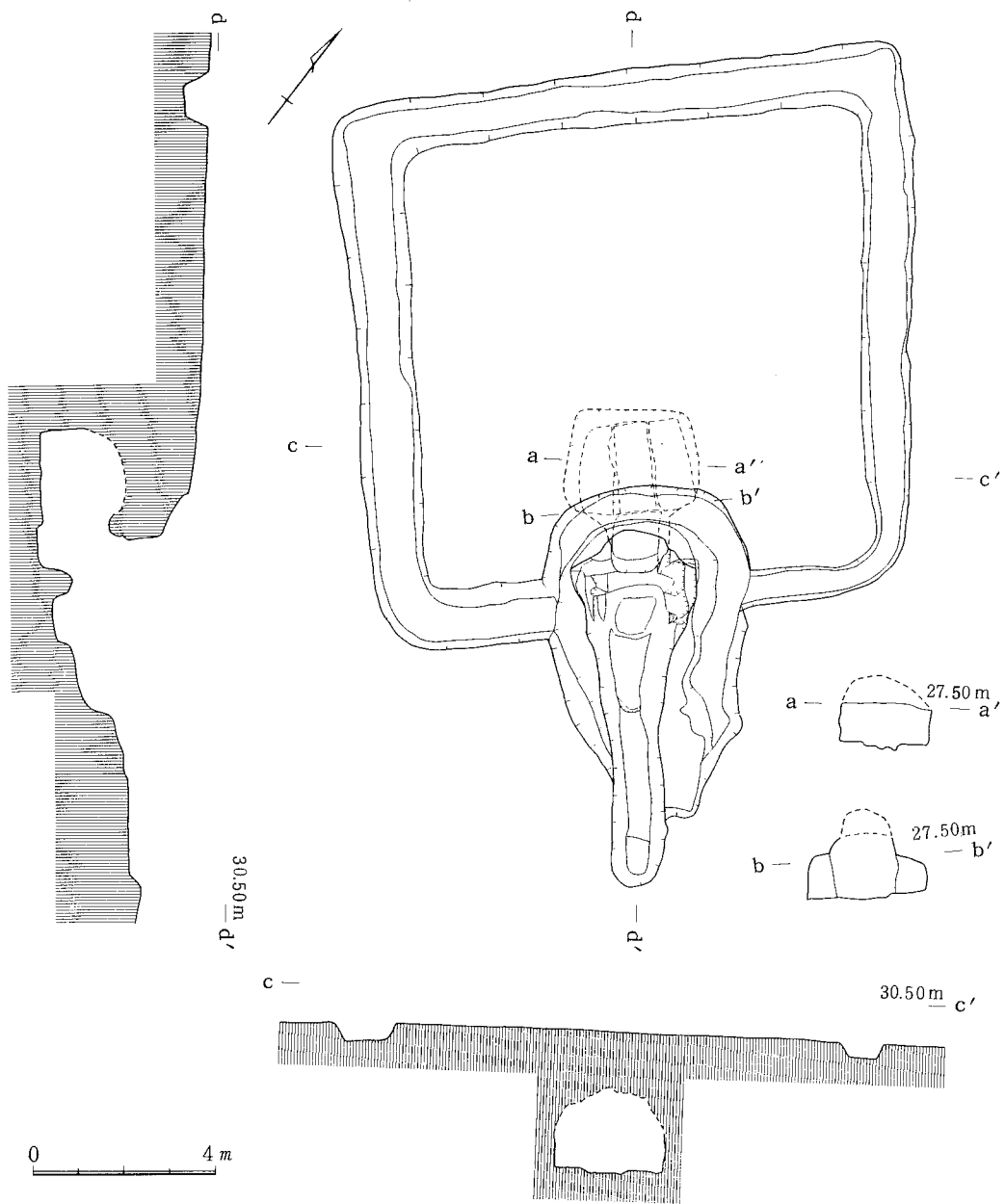
方形周溝状遺構とSD101,102,103溝状遺構とSK104土塙をとりあげて、若干の説明を加えることにしたい。

SX103方形周溝状遺構は、いわゆる地下式横穴墓を伴う形態を呈する。方形周溝については、主軸方位がN-40°前後-Wを示し、各溝の規模は、北西側溝が長さ12.60m、幅1.06m~1.22m、深さ0.50m~0.60m、北東側溝が長さ11.70m、幅0.63~1.15m、深さ0.26m~0.50m、南東溝は長さ11.0m、幅0.57~1.37m、深さ0.13m~0.35m、

南西溝は、長さ11.90m、幅1.14m~1.58m、深さ0.23m~0.60m、を測る。平面形体は、ほぼ正方形で、立地については、南東方向に傾斜する変換部に位置する。南東側溝のほぼ中央に存在する地下式横穴墓は、主軸方位がN-38°-Wを示し、方形周溝の主軸と同様である。形状は、横穴に似た形体を呈し、緩やかに降る墓道状の落ち込みをもち、埋納部の入口が狭く、埋納部は、平面形体が奥壁が狭い台形状を呈し、天井は、既に落下していたが、ドーム状と考えられる。床部は、中央入口に向かって方形の溝が存在し、二体埋葬可能な形体をとっている。各部分の規模は、墓道状の落ち込みが、長軸約8.25m、埋納部の入口付近の幅が1.37m、深さ1.90m、埋納部は、奥行1.95m、高さ約2.00m、奥壁の幅1.92m、高さ約1.60m、前壁の幅2.60m、高さ約2.00mで、天井部最高部分のローム漸移層からの深さは、約1.20mと考えられる。埋納部床中央の方形溝は、長さ2.02m、幅0.90m~1.06m、深さ0.06m~0.13mを計る。出土遺物は、埋納部南西側床部分より、人骨片、北東側より馬の歯が数点検出された。当遺構は、古墳時代末~奈良時代中葉にかけて、市原地域を中心とする特徴的な墓制形態と考えられており、SX101,102を含め、更に検討が必要である。<sup>注(3)</sup>

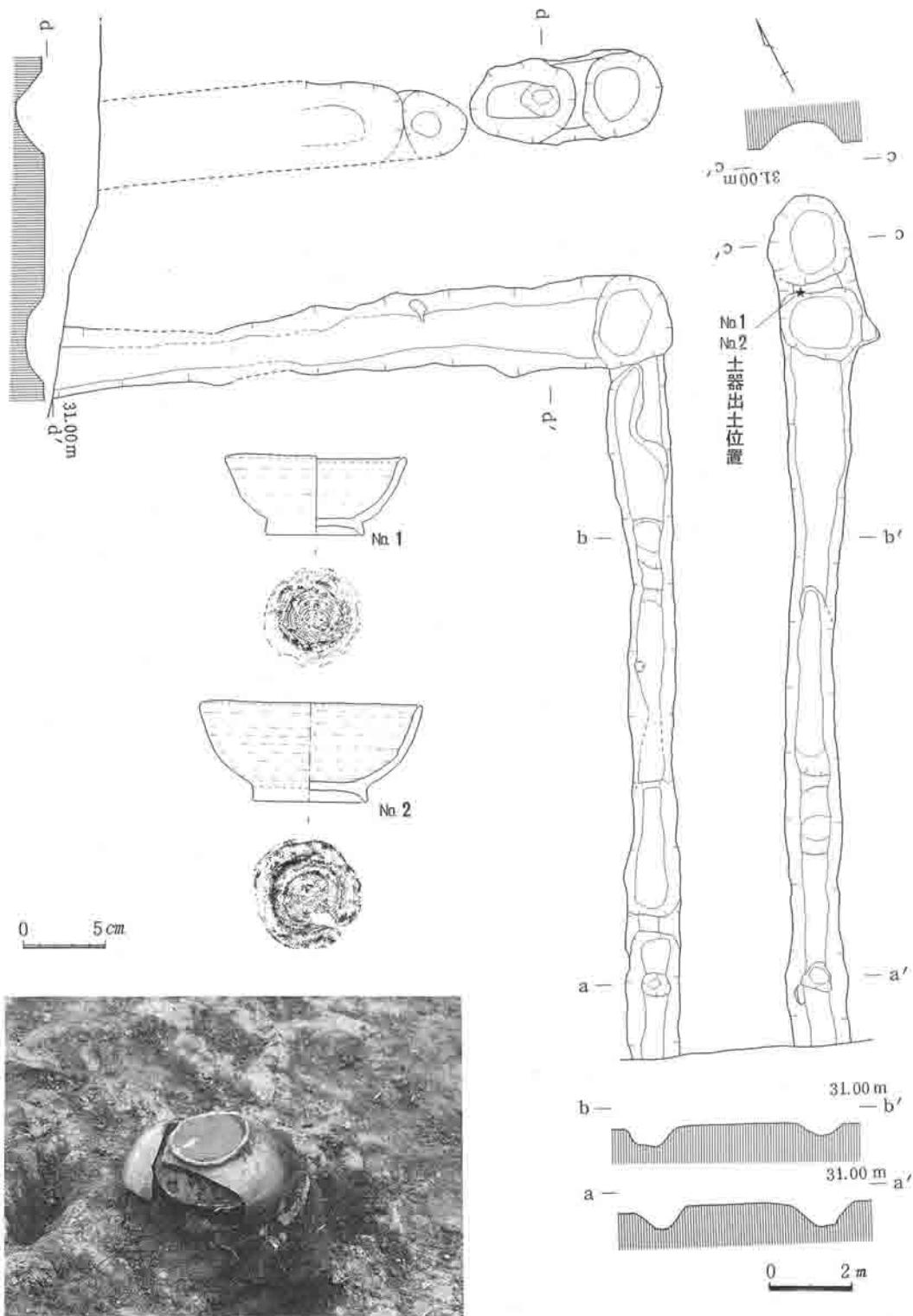


SX103方形周溝状遺構（西側より）後方中央部に地下式横穴墓が存在する。



SX103 方形周溝状遺構実測図

次にSD101,102,103 溝状遺構及びSK104土壇は、溝状遺構について全掘がなされていないが二重に囲る方形の区画を呈している。SD101は、その内側に位置し、ほぼ直角に曲がっている。SD102は、外側に位置し、南西方向に延びて途切れ、SK104土壇が連なる。SD103は、北東方向に延び方形区画の隅部分で途切れている。SD102とSK104は、土層上部で結合していた可能性が大きい。内側の溝と外側の溝との間隔は、SD101北側溝とSD102が3.25m～3.80m、SD101



SD101～SD103溝状遺構，SK104土塋平面図及び出土遺物実測図出土状況写真



### SD101・102・103溝状遺構及びSK104土壇（北側より）

東側溝とSD103が 2.60m～3.00mの距離をもつ。各溝，土壇の規模は，検出した範囲内で，SD101北側溝が，長さ 15.00m，幅1.30m～2.20m，深さ0.20m～0.55m，SD101 東側溝が，長さ19.20 m，幅1.00m～1.50m，深さ0.30m～0.50m，SD102が，長さ9.00m，幅約2 m前後，深さ0.50m～0.60m，SK104 土壇は，長さ約4.70m，幅約2.00m，深さ0.36m～0.56m，SD103が，長さ20.90m，幅約1.00m～2.00m，深さ0.30m～0.65mを測る。主軸方向は，SD101 東側溝とSD103を測り，N-35° 前後-Eを示す。各溝土壇とも，立ち上がりは，逆台形状で，底部は，不規則に幾つかの土壇状の落ち込みが存在する。出土遺物は，SD103の底部より，土師器杯形土器が，No 1が上でNo 2と口縁部で重なった状態で検出した。No 1は，椀形を呈し，器高 4.9cm，口径11.1cm，底径 6.1cmを計る。焼成は，良好，色調は，内面が暗褐色から茶褐色，外面は茶褐色を呈する。成形は，ロクロ水挽き，底部が右回転糸切り離しの後，高台を付す。調整は，外面が横方向のヘラナデとミガキ，内面は横方向のヘラミガキを施す。No 2は，椀形を呈し，No 1より大型で，器高 6.1cm，口径13.7cm，底径 7.0cmを計る。焼成は，普通，色調は，外面が黒色及び褐色，内面は，黒色で，いわゆる内黒である。成形は，ロクロ水挽き，底部は回転切り離しの後，高台を付す。調整は，外面が無調整，内面は，横方向のヘラミガキを施す。この様な遺構は，寺院等の範囲を区切る溝の可能性はあるが，千草山廃寺址との関係については，今後，他の遺構との関連及び，A，B地区とのかねあいも含め，検討を行いながら整理を行っていききたい。

（田中清美）

注(1) 平野元三郎 市原市上総国府関係遺跡 千葉県遺跡調査報告書 昭39 千葉県教育委員会

注(2) 安藤鴻基他 千葉県市原市千草山遺跡発掘調査報告書 昭54年 市原市 千草山遺跡発掘調査団。

注(3) 田中新史「古墳時代終末期の地域色—東国の地下式等土壇墓を中心として」古代探叢 II 早稲田大学出版部 昭58年



からず ほり こみ  
4 鳥堀込貝塚

**事業名** 市道 166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査  
**所在地** 市原市能満字上味噌柵2133-1 地先他  
**調査期間** 昭和60年 5月15日～7月31日（確認調査），8月1日～10月15日（本調査）  
**調査面積** 9,200㎡のうち 920㎡（確認調査），1,600㎡（本調査）

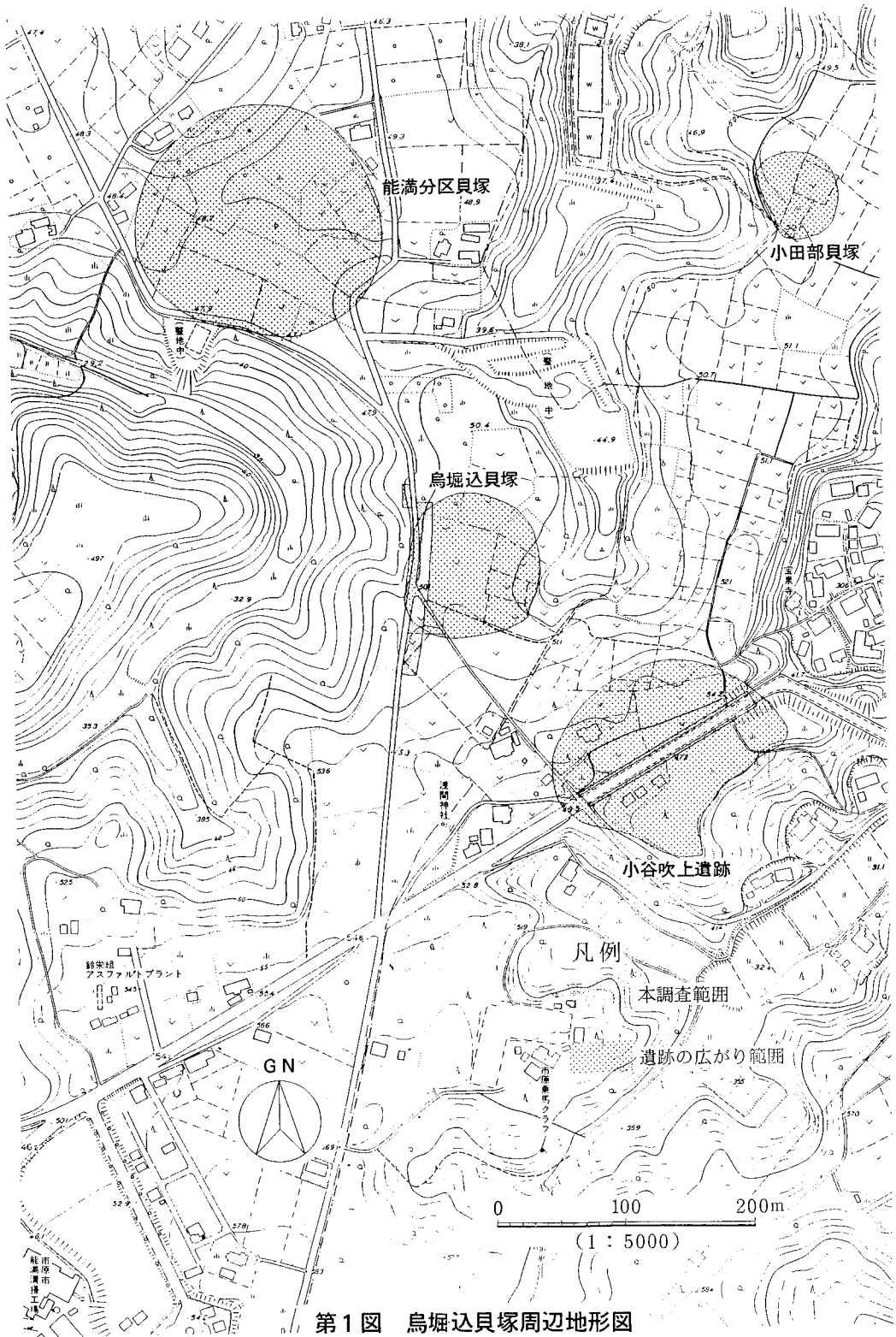
**調査概要** 調査は，県道五井・本納線と都市計画道路君塚・小田部線を南北に結ぶ，市道166号線の改良工事に先行して行われた。今回の調査は，都市計画道路との交差部分から北方500mの部分までを範囲として，まず10%の確認調査を行い，のち本調査を行った。

遺跡は，村田川支流の神崎川の支谷の台地上にあり，現道の東方の畑には，貝殻の散布が見られ，これが，鳥堀込貝塚の本体と考えられる。今回の調査範囲の北端部分より西方の畑にも広範囲に貝殻の散布が認められる。分区貝塚である。また，南端の交差点から東方へ約 200mの部分は，現在は切り通しとなっているが，小田部・小谷吹上遺跡として調査され，縄文時代中期の遺物，遺構を数多く検出している（第1図）。これら各遺跡相互の関係については，いまだに不明な点も多いが，縄文時代中期を中心とする遺跡ばかりであり，付近一帯が，中期において，長期間生活の場となっていたことがうかがえる。

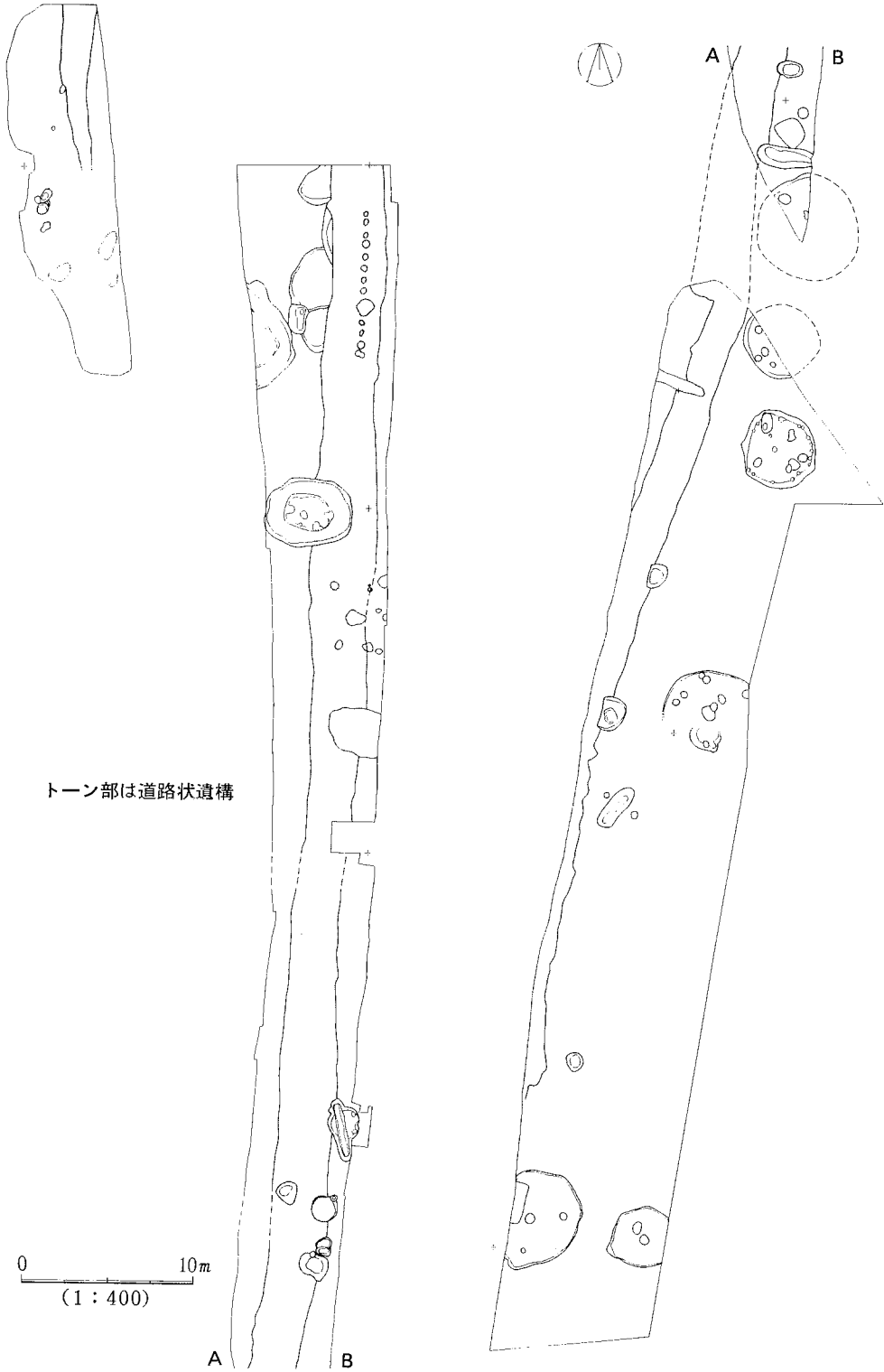
確認調査の結果，北側の分区貝塚寄りの部分では，縄文時代中期，後期の土器片が出土したが，遺構は検出されなかった。中央部分では，同じく中期の土器片が多量に出土し，住居跡・土壇が，数箇所確認された。南側の部分では，遺物・遺構ともにほとんど検出されなかった。結局，遺構・遺物ともに比較的集中して検出された，中央部分 1,600㎡について本調査を行うこととなった。

本調査の結果，住居跡10軒を検出した他，人骨を伴う小竪穴2基，炉穴，集石遺構などを検出した。また，多くの土器片，石器が出土したが，土器は加曾利E II～III式を主体としているようである。表土中，あるいは，覆土中からの出土がほとんどであり，遺構に伴うものは，炉体として使用されたもの以外は，ほとんどないという状況であった。

路線の拡張に先行する調査であり，検出された住居数も少なく，さらに完掘し得た住居跡はわずかに2軒という状況から，集落全体の動きを復元するのは困難であるが，わずかに傾向らしきものもうかがえるので指摘しておく。ベッド状の遺構を有する2軒の住居跡がともに北側で検出され，ほぼ中央にやや掘方の深い（確認面から約50cm）住居跡3軒，南寄りに浅い（約10cm）住居跡が3軒と，形態的に類似する住居が，まとまっているようにも見える。それからただちに，北から南へといった動きに帰着するものではないが，集落における何らかの動態の反映であると考えておきたい。



第1図 烏堀込貝塚周辺地形図



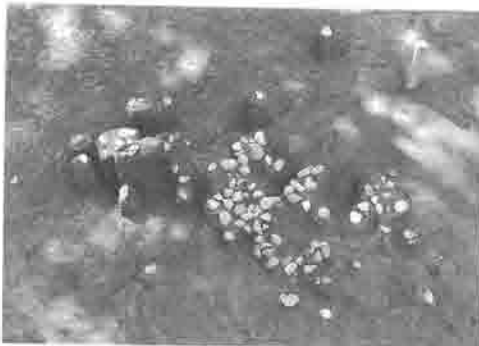
第2図 烏堀込貝塚遺構配置図

人骨を伴う小竪穴は2基検出された。1基は、径約2m、深さ約50cmのほぼ円形の土壇で、ほぼ中央部に、成人男性のものと思われる人骨が横臥屈葬の状態で検出された。頭位方向はほぼ南で、両腕をともに、折りまげて肩の前まで上げている状態であった。また、この小竪穴の覆土中から、イボキサゴのブロックが検出されている。被葬者とのつながりを直接示すものとは断定し難いが、興味深い。もう1基の方は、径約1m、深さ約1.5mで、底面が部分的に上端よりも広がる土壇である。頭骨の一部と思われる人骨片が、底面より約40cm浮いた場所で検出された。遺存状態は極めて悪く、現在までのところ、年令、性別共に不明である。

貝殻の散布は中央部分で認められたが、イボキサゴ、ハマグリを主体とし、カキ、マチガイツメタガイなどが認められた。他に獣骨も見られたが、種は不明である。これらの点については、整理の過程で明らかにすべき課題である。

また、北端の、現道より西側の飛び地の部分で、集石遺構が検出された。集石というほど集中した出方ではないが、ややまとまりをもっていることは確かである。径10cm前後の円礫がほとんどである。多数の礫に火を受けたような感があったが、どのような経緯を経たものかは不明である。なお、近接する部分に、炉穴が存在するところから、何らかの関係があったことも考えられるが、推測の域を出ない。

(高橋康男)



集石遺構



小竪穴人骨出土状況



ベッド状構造をもつ住居跡



完掘した住居跡

しいづなかなかばやし  
5 椎津中林遺跡

事業名 市道 111号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市椎津2196他

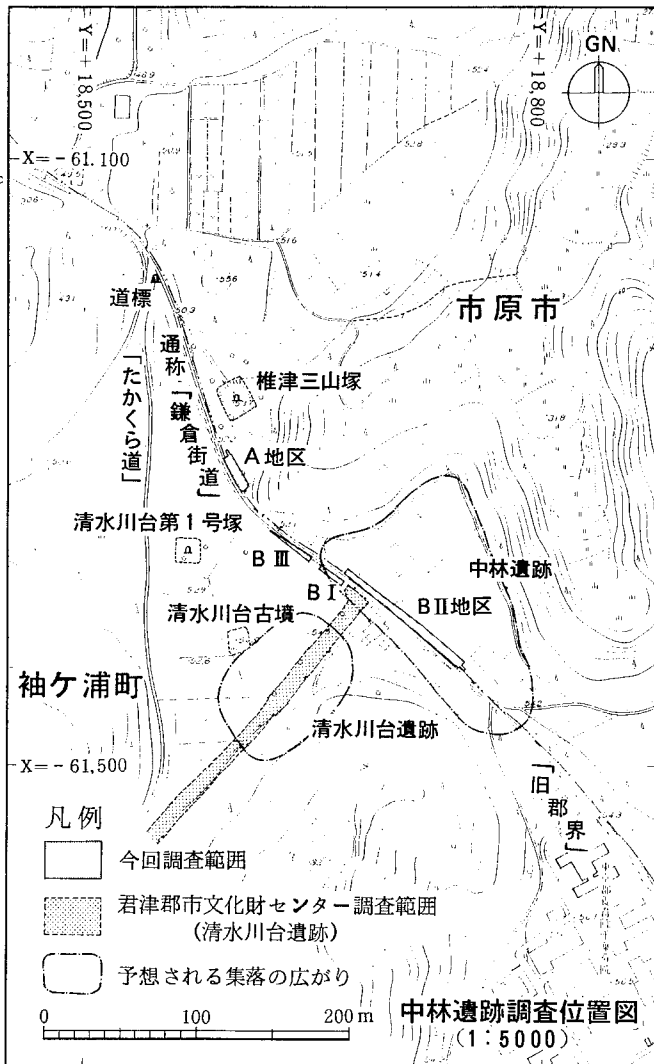
調査期間 昭和60年 8月16日～9月30日（本調査）

調査面積 960㎡

調査概要 中林遺跡の発掘調査は、昨年度に実施した確認調査の結果に基づく本調査で、遺跡の地理的環境については昨年度の年報で触れたのでここでは省略する。調査地は現道の両側にまたがり、北からA・BⅢ・BⅠ・BⅡ地区の4箇所からなる。BⅡ地区の85基の炉穴群からなる縄文時代早期後半の集落跡と、各地区で検出された現道に平行する4条の中・近世の道路跡が主要な遺構である。

現道の東側（市原市側）に位置するA地区では、幅2～3mの溝状の道路跡03が現道に沿って走る。この路面からは寛永通寶と推定される鉄銭が1枚出土しており、江戸時代中・後期まで遡る可能性はある。この道路跡の南延長部はBⅡ地区でも検出されている(37)。この道路跡03に斜交する幅0.7～0.9mの溝01からは遺物の出土をみなかったが、03に先行することは明らかで、埋土の状態からみて中世以前に遡るであろう。同じく03に斜交する小溝02は、その走向からみると、03に関連性をもつ遺構である。03の東肩に重なる不整形の土壌06の時期・性格は不明である。

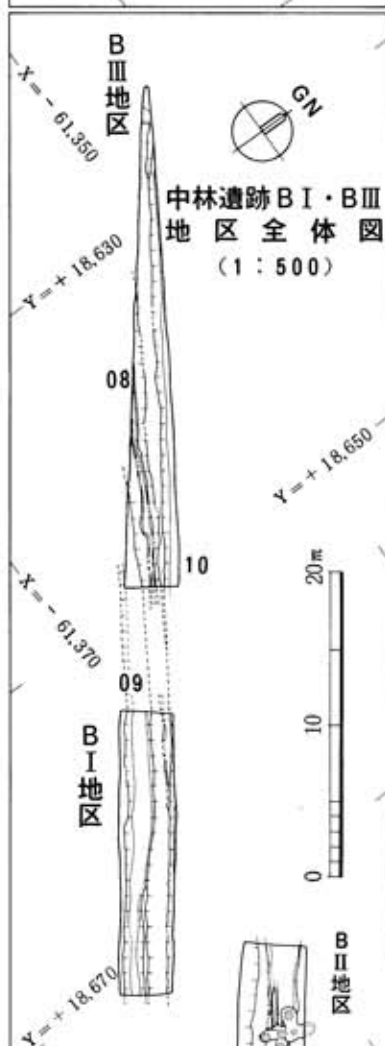
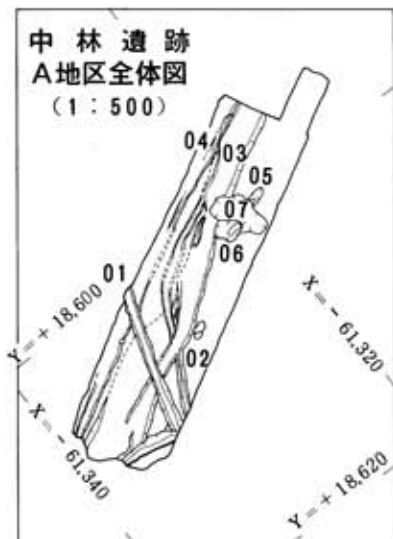
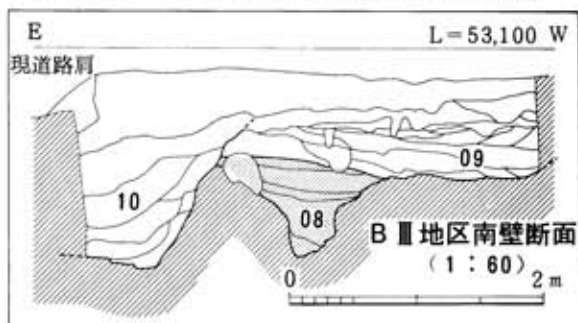
次に、現道の西側（袖ヶ浦町に属する）に位置するBⅢ・BⅠ地区でも、現道の前身と推定される

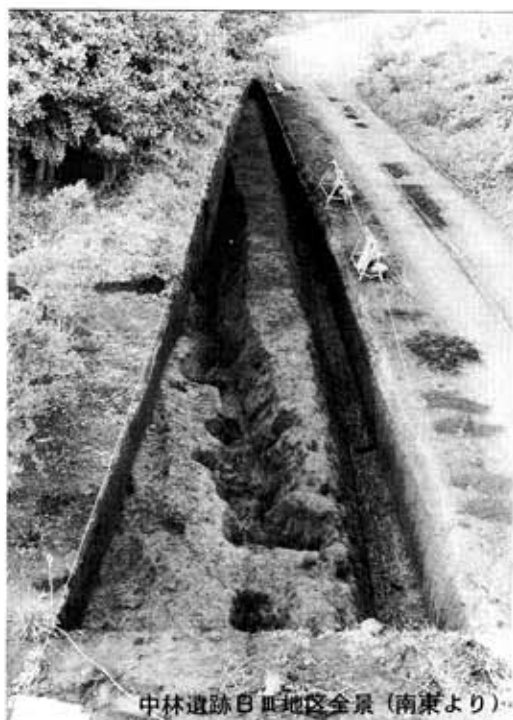


溝状の道路跡が3条検出された。このうち10は現道に平行して走り、08はB I地区では10と交わり、共に10に壊されている。08断面は、壁上半部の傾斜が緩いのに対して下半部は急で、浅い溝の中央を一段と深く掘り下げたような特徴的な形状をしている。この溝は三者の中では最も古く、出土遺物は皆無だが、今回の調査範囲で通称「鎌倉街道」に関わるものがあるとしたらこれを措いて他にはない。調査区に挟まれた現道は、左右に若干移動しながらも、中世以来存続してきたものと推定される。この「鎌倉街道」にもかつては両側に土塁があったという伝えもあり、袖ヶ浦町下新田から市原市立野にかけての分水界上を走る本道から天羽田付近で分岐し、椎津・姉崎方面に至る支道と思われる。同時に、この道は望陀郡との境界でもあり、郡界に移動がなければ、古代にまで遡る古道であった可能



中林遺跡A地区全景（南より）

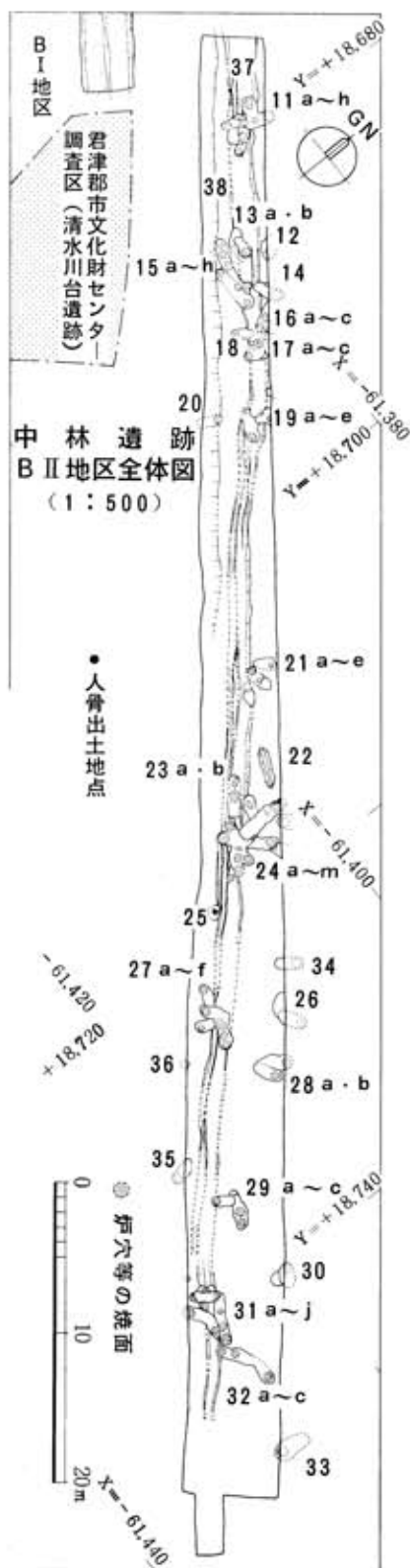




中林遺跡BⅡ地区全景(南東より)

性もある。なお姉崎方面に至る古道としては別に、光風台小学校裏手の立野山ノ神の祠の角から分かれて、今富・海保を経て姉崎神社に至る尾根道がある。この沿道にも「大道」のかいたう小字があり、分水界を走り、大字境でもあるなど鎌倉街道と共通した特徴を有する。今回の調査地を通る「鎌倉街道」も、本道から外れた袖ヶ浦蔵波に「鎌倉街道」の小字が残るのも、内陸を通る本道と海岸部の要地を結ぶ支道も鎌倉街道と呼ばれたことを物語るものであろう。

BⅡ地区は、今回の調査対象地の中核で、縄文時代早期後半の集落跡を縦断している。この地区は植木畑で、植木の移植が繰り返された結果、移植穴やごみ穴による攪乱が無数にみられ、調査を難行させた。85基の炉穴群は調査区の北から南まで比較的均等に分布するが、単独のものは稀で、最大で15基の重複がみられる。そうした重複を中心とする10群前後のまとまりとして把えることができる。こうしたまとまりが、一定



期間継続的に営まれた生活の一単位を示すのであろうか。個々の炉穴は長径 2 m 前後、短径 0.7～0.8 m で、深くした一端に直径 0.5 m 前後の焼面を伴う通有のタイプである。24 群の中に比較的大きなものを含む。土器の出土は概して少ない。これは、遺存状態が不良なためばかりとはいえないようである。

他に、この地区のほぼ中央で、縄文時代の陥し穴を 1 基検出した(22)。時期は不明だが、炉穴群とは共存しないことだけは確かであろう。また、中央部の道路ぎわに検出された小規模な炉跡 25 は、縄文時代の炉穴とは全く異質な構造で、恐らく歴史時代に属するものであろうが、金属滓などを伴わず、性格は不明である。B II 地区と道路を挟んだ西側には、1982 年に君津郡市文化財センターによって調査された奈良時代後半に中心を置く鉄生産に関わる小規模な集落跡清水川台遺跡が存在するが、今回の調査範囲内には当該期の住居跡はみられず、住居が道路の東側までは及んでいないことが明らかになった。しかし、炉跡 25 は時期・性格も不明であるから、清水川台遺跡との関連については保留せざるをえない。

なお調査に先立ち、B II 地区中央部の道路を挟んだ向い側で、側溝工事に際して成人の頭蓋骨が近世の掘鉢と伴って出土した。幅 2～3 m にわたって黒色土の落ち込みがみられたとのことであるから、全身骨が埋葬されていたものと思われる。道路の東側には、この埋葬骨に関わるような遺構は検出されなかった。

(宮本敬一)

注 1 「椎津中林遺跡」(『市原市文化財センター一年報昭和 59 年度』1985 年)

注 2 佐久間豊・小石誠・光江章『清水川台遺跡発掘調査報告書』(財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第 2 集 1983 年)



中林遺跡 B II 地区全景 (北西より)



炉穴 31a～j (手前) と 32a～c (西より)



## 6 諏訪台古墳群

**事業名** 市原市国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市村上 902番地他

**調査期間** 昭和60年4月1日～昭和61年3月31日（本調査）

**調査面積** 13,000㎡

**調査概要** 昭和49年度（上総国分寺台遺跡調査団調査分）から断続的に行われている諏訪台古墳群の調査である。今回調査を実施した地区は台地の西南にあたる一角で、眼下の養老川及び水田地帯を隔てて姉崎古墳群の形成されている台地に面している。調査前の景観は植林後の荒蕪地であり、諏訪台古墳群全体の中でも前期及び後期の古墳が密集し、墳丘の形状を比較的に良く留めた地域である。検出された遺構は、縄文時代早期の住居跡及び炉穴群から奈良・平安時代の遺構までに至り、各時期の調査において多くの成果をあげることができた。

以下、時期別の特筆事項を拾って、調査の概要を瞥見しておきたい。

縄文時代早期——当該期の所産と考えられる炉穴群及び住居跡を検出した。特に住居跡では長軸長13.5m、深度約1mを測る略台形の大型住居跡が検出され、これに隣接する同時期の住居跡からは、ハマグリを主体とする貝層が検出されている。尚、茅山期の貝層及び包含層は、今年度調査区の西側にあたる61年度調査区域内に広く分布している。

縄文時代前期——従前より知られている関山期の環状集落のうち、南限に当たると考えられる6軒の住居跡を検出した。

弥生時代中期——58年度調査によって検出された宮の台期の方形周溝墓群が、本年度調査区内にまで分布していることが明らかとなった。東限は61年度調査予定地区に延びているものと考えられる。

古墳時代前期——古墳時代前期の古墳群〔方墳系〕は、東京湾に面した台地先端部に集中して築造されている。しかし、今回の調査によって、台地先端ながらも養老川に面した台地南側縁辺にも2基の古墳（前方後方墳）が検出され、前期古墳の南限を把握することができた。

古墳時代後期——前方後円墳及び円墳が検出されている。このうちの2基の前方後円墳は、円墳として構築したのちに前方部を区画したものであった。

古墳時代終末期——後期の円墳群を取り囲む様な形で、58・59年度調査区と同様に方墳群が築造されている。尚、今年度調査区域内からは、前方後方墳は検出されなかった。

この他に、7世紀末～9世紀代と考えられる掘立柱建物跡と竪穴式住居跡及び方形周溝状遺構・地下式土壙墓などが検出されている。当遺跡の調査は、61年度調査予定地をもって終了するので、終了を待って総括的な紹介を行いたい。

（田所 真）



諏訪台古墳群遺構配置図

## 7 ねだ 根 田 遺 跡

**事業名** 国分寺台区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査  
**所在地** 市原市惣社 789-1 他  
**調査期間** 昭和60年4月1日～昭和61年3月31日（本調査）  
**調査面積** 1,400㎡

**調査概要** 房総半島の中央部を南北に流れる養老川河口域の右岸台地は、嘗て上総国分二寺の建立された地として国分寺台と呼ばれ、研究者間には古くより衆知の所である。

当国分寺台は、昭和47年から宅地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査が施行されており、数々の多大な成果を上げてきている。

今回、調査結果の概要を紹介する根田遺跡も、かかる国分寺台の造成により破壊を受けることとなり、昭和60年度に調査を実施したものである。

根田遺跡は、国分僧寺と尼寺との間に聳える市原市庁舎の西北方 750mの台地西端部の標高20mに位置している。

第1図中、トーンを被せた地点が調査地点であり、その北側一帯には、竪穴住居跡に代表される弥生時代・古墳時代の集落の広がりを見ることが

できる。これら集落は、国分寺台遺跡調査会によって発掘調査が行われた御林跡遺跡と、東西に入り込む小支谷の北側部は、一遺跡で 1,000軒にのぼる住居跡の確認された台遺跡である。

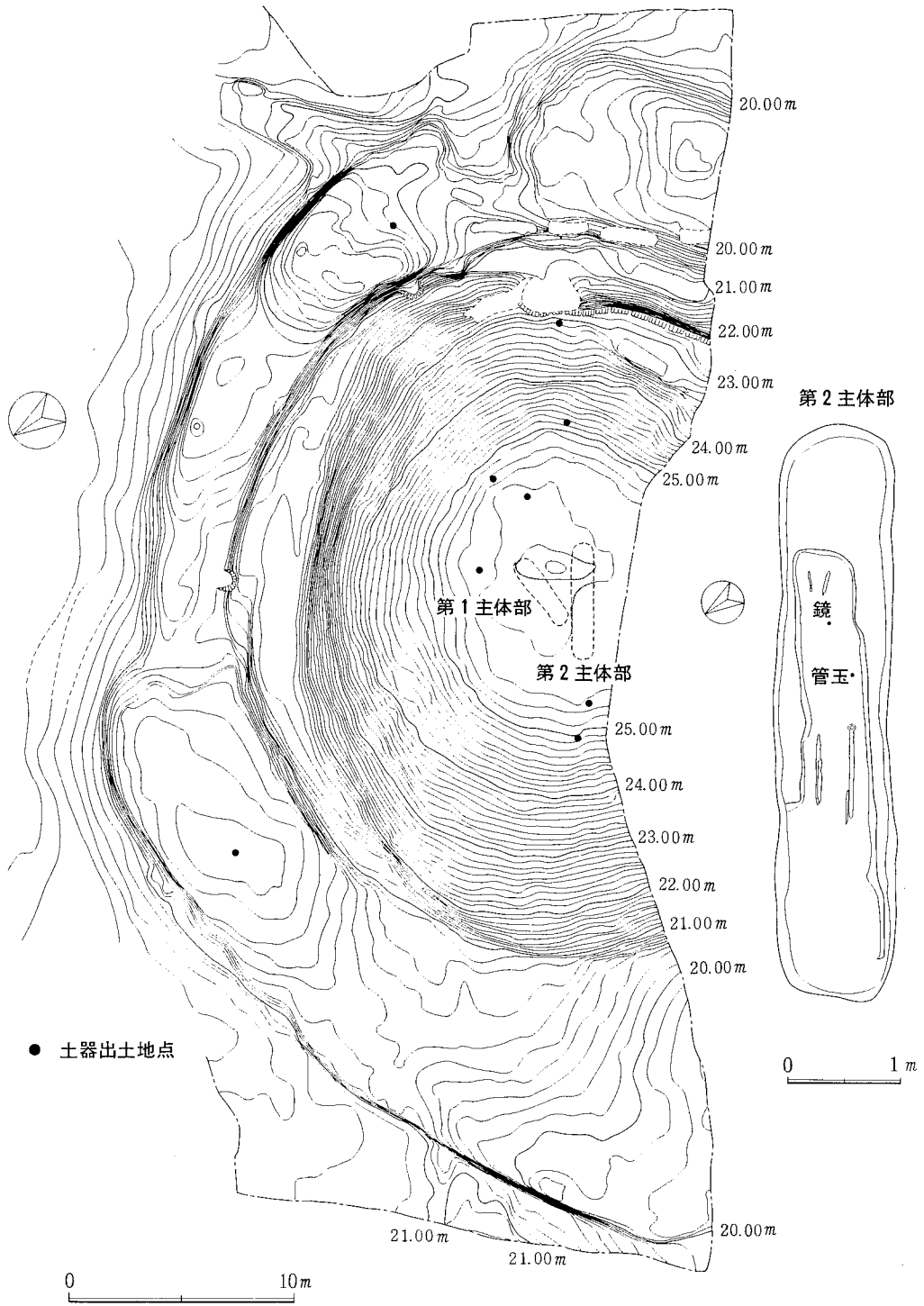
根田遺跡は、第1図の現況地形図中においても古墳としての高まりが良く捉えられるものであり、調査着手以前から大型の古墳と、その下層部には周囲の状況に鑑み、弥生時代住居跡群の存在が予想されていた地域である。調査の結果、古墳及び住居跡・方形周溝墓群を検出している。以下、古墳及び下層から検出された遺構・遺物について概要を報告する。

### 古墳

根田古墳は、台地西縁辺に連なるように点在し一群を成すが、今回の調査は内1基のみについてである。当古墳は根田第6号墳としての名称が与えられているが、別名辺田1号墳の呼び名も用いられている。今回の報告にあたっては、根田古墳群の一角という観点から、根田第6



第1図 根田6号墳の位置及び周辺図



第2図 根田6号墳全体図及び第2主体部内遺物出土状態図

号墳の名称を用いることにした。

第2図に示すように、当古墳は、周溝外径約52m、墳丘高3m余を計る大型古墳である。

形状的には、古墳の南側半分程が調査対象外となっているため、全体については捉えられてはいないものの、調査を施行した北側部についての観察結果から、古墳の全体像について大凡把握できるものと思われる。

墳丘部は、底面部で直径31m、頂上部で直径10mを計る円形を呈している。周溝部を見ると正円形を呈するものではなく、西側部分において溝幅が著しく広がり、また周溝底面に至る掘り込み深度も、西側部分は他に比べ極めて浅くなっている。このことから、西側部の未調査地域に前方部乃至は張り出し部が付設され、前方後円墳となる可能性もある。

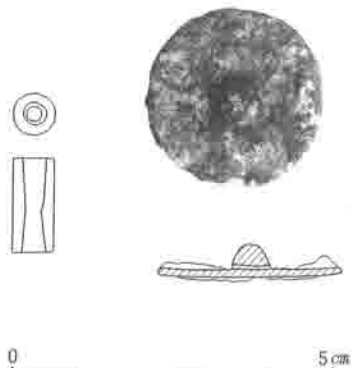
また、本古墳に重複して後世の道路跡が2ヶ所において認められている。一つは、古墳東側部において周溝内充滿土壌を掘り込むように東西方向に、上部幅2～3m、底面幅1～1.5m、深度1～2mの規模を有する道路状遺構があり、一つは、古墳墳丘部の北側部で墳丘を取り巻くように幅2m程の道路状遺構が見られる。これら道路状遺構の所属時期については、明確に捉えることができないものの、墳丘を切る北側部の道路状遺構からは常滑の大型甕の一部破片が検出されており、中世以降に求めることが可能である。

古墳に伴う内部施設は、第2図に見るように2基検出されている。いずれも木棺直葬によるものであるが、主軸線の方角・規模・伴出遺物等に相違が見られる。図中、第1主体部としたものは、主軸線がほぼ東西に向けられているもので、長軸3.4m、短軸1mの隅丸方形を呈するものであるが、第1主体部からは、何ん等遺物の出土は見られなかった。一方、第2主体部からは、第3図に示した小型銅鏡・管玉をはじめとして第4図に見るような素環頭大刀、大刀、短剣、槍鉋などの鉄製品が検出されている。

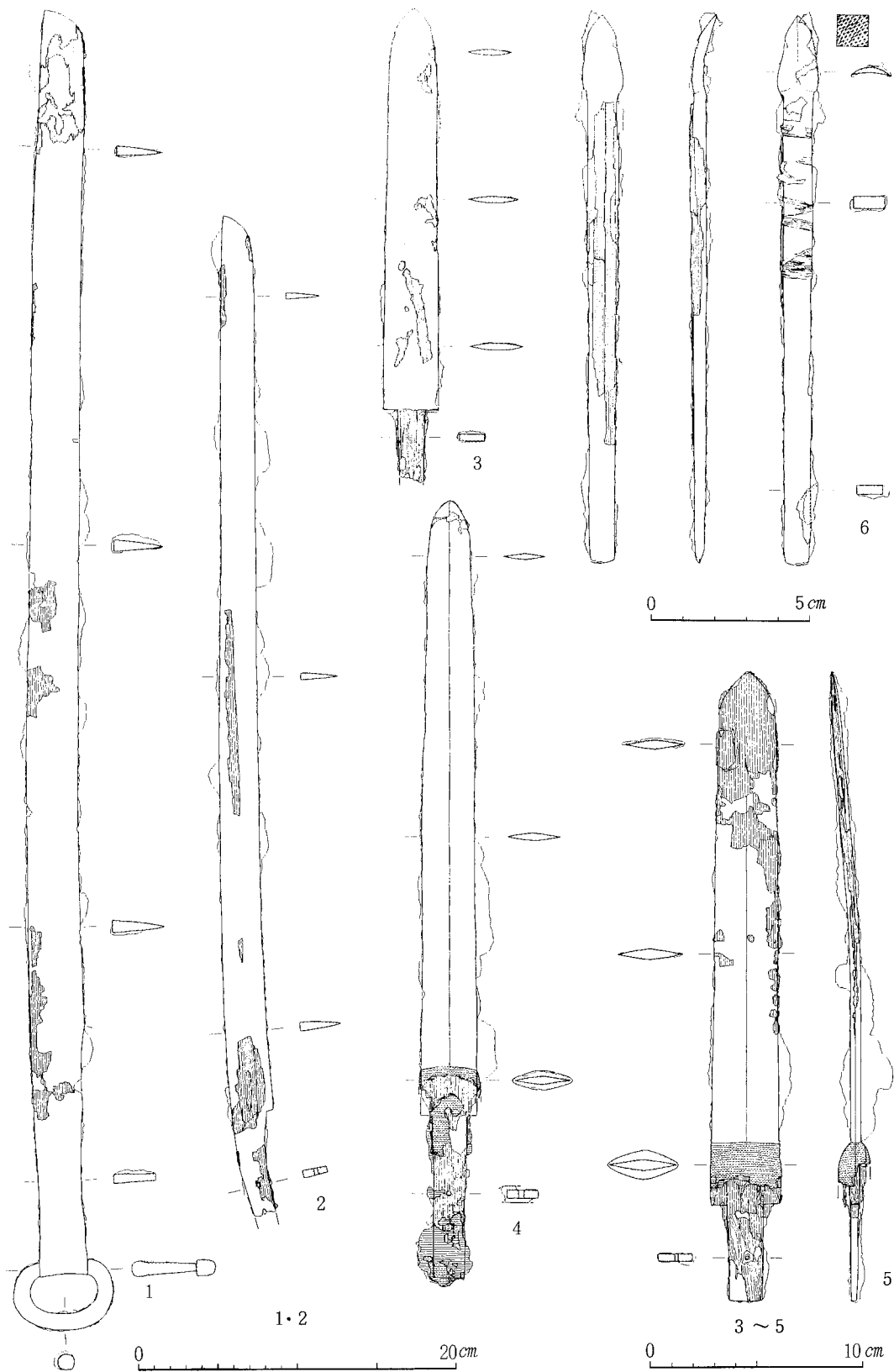
これら遺物の出土状態から遺体安置に際しては、東西方向に掘られた埋葬施設に、頭部を東側に向け、脚部を西側にして埋葬安置されたものと思われる。

遺物の検出状態は、第2図の第2主体部内遺物出土状況図の如く、素環頭大刀、大刀、短剣が両脚部の脇から切先を下向き（西側）にして、また、短剣（槍？）、槍鉋が頭部から穂先を上向き（東側）にして出土し、管玉を胸に、鏡が頭にといた位置から検出されている。

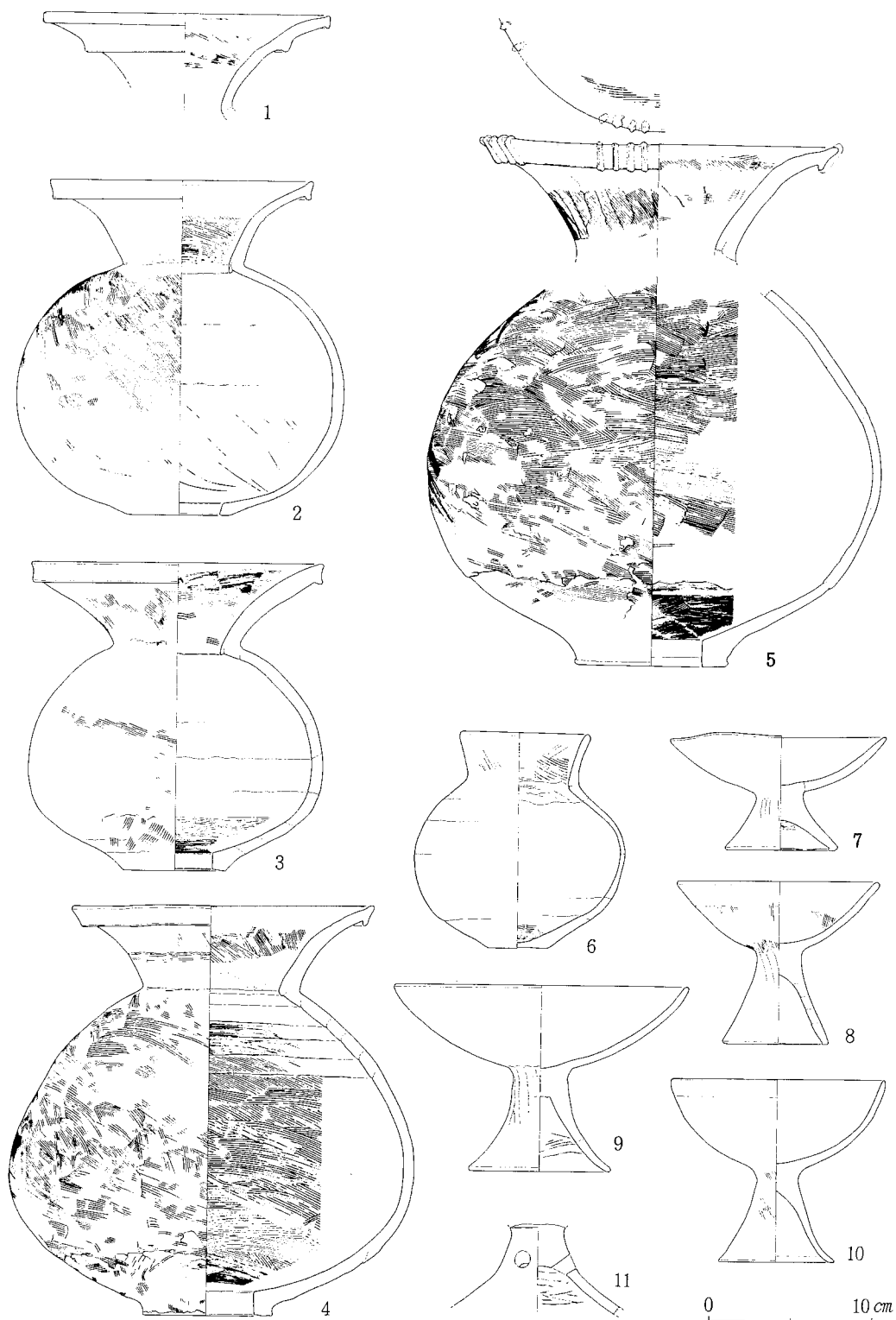
これら鉄製品の現況を瞥見すると、いずれも一部に木質部の残存付着が見られるものであり、特に槍鉋には拡大図に見るように穂先の部分などに布の付着もあり、埋葬時に槍鉋が布に巻かれていた状況を見てとれる。



第3図 管玉、小型銅鏡図



第4図 第2主体部内出土鉄製品図



第5図 墳丘上及び周溝内出土土器図

第4図3～5は、いずれも短剣としたが、3については他に比べ短身であること、関の作りの違い、切先の向きを異にしての出土等といったことにより、槍である可能性が極めて高い。

1の素環頭大刀は、長さ83cmを有する。身の部分には他の鉄製品と同様に、部分的に木質の付着を見る。環部は中空に作られ、片方の端部を把部に連結させるが、他の一方は離れ、関部は、2の大刀が刃関を明瞭に見せ、茎と身の境が明確であるのに比べ非常にゆるやかで、把と身との境が明確でない。

これら棺内より検出された副葬品類は、いずれも棺底の同一レベルからの出土である。

また、木棺を埋め戻した後に、棺上面部で突き固めたように硬く締った面が検出され、更にその上部から、祭祀に関連すると思われる多くの土器片が、第2主体部から南側にかけた範囲を中心として検出されている。

本古墳に伴出する土器類には、他に第5図の土器類を挙げることができる。これらには、大別二種があり、一つは図中1～5とした壺形を呈する器種であり、一つは、6～11とした広口壺、高杯の類である。壺形を呈する土器類は、いずれも表裏面共にハケ目調整痕を顕著に残すものであるが、口縁部に幾つかの相違を認めることができる。1・2とした口縁部に一巡する稜線をもつもの、貼付による懸垂文をもつもの(5)、一巡する沈線文を刻むもの(4)などであるが、いずれも焼成前による底部穿孔を特徴とする。当初から底部穿孔といった様相を呈するところから、これらを土器と呼んで良いものか疑問ではあるが、今回は土器として置いた。

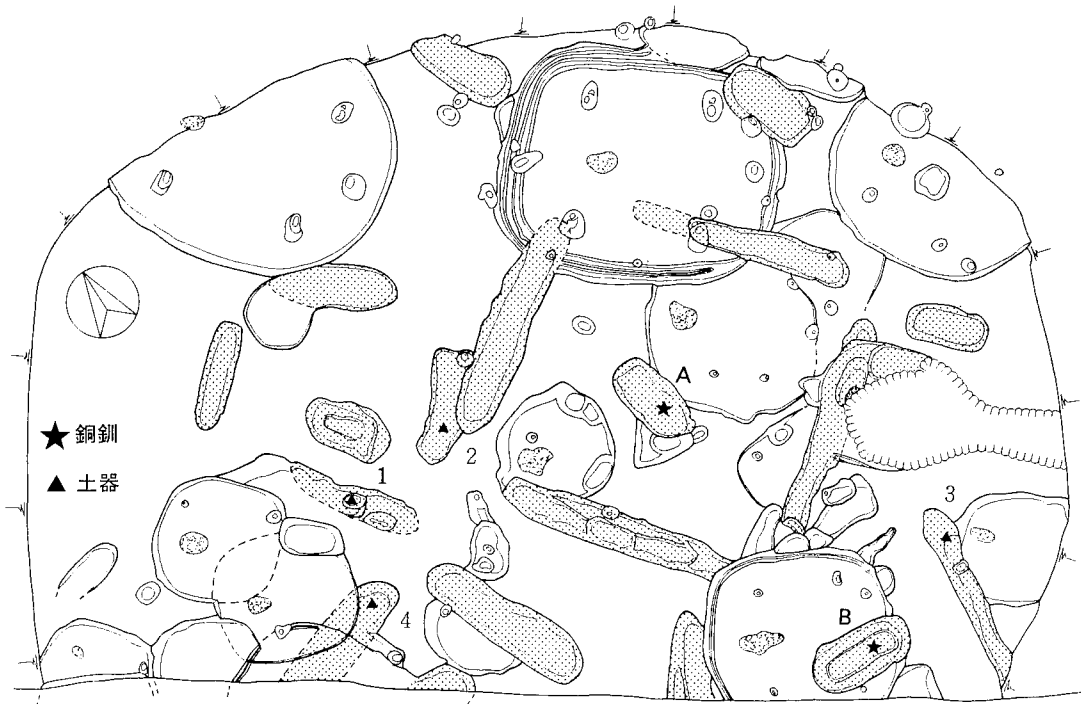
これら底部穿孔土器出土状況を見ると、第2図中●で示した地点から、ある程度のまとまりを持って出土しているもので、その様相から、テラス状に成形された墳頂部において内部施設を取り囲むように配置されていたものと思われ、その一部が後に、墳丘斜面あるいは周溝底までころがり落ちたものと解釈される。一方、第5図6～11に掲げた高杯を主とする一群は、墳丘上には見られず、周溝内充滿土壤中から検出されたものである。これらの土器は、今回の市原市文化財センターによる調査以前に、国分寺台遺跡調査会が当古墳の北側部分を調査した際に、周溝の一部を調査し、その折り検出されたものである。出土時の状況は、いずれも周溝底面より浮いた状態で検出されているとのことであるので、1～5に掲載した底部穿孔土器ほどには、本古墳と密接な関係を有さないかも知れない。が、古墳の北側隣接地では、この高杯を主とする時期の竪穴住居跡等の遺構は確認されていないので、この種高杯類が、本古墳に何ん等かの関係を有するものと判断し、図を掲げ示すこととした。

#### 下層遺構

根田第6号墳の下には、下層遺構として弥生時代後期の竪穴住居跡及び、方形周溝墓が検出されている(第6図)。

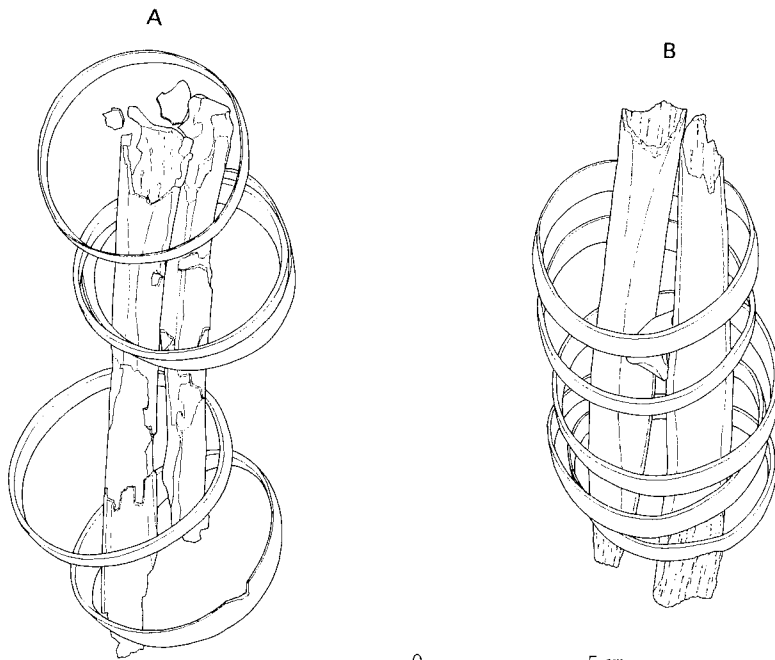
竪穴住居跡は、隅丸方形を呈するもので、計15軒検出され、長軸8mに及ぶ大型のものから





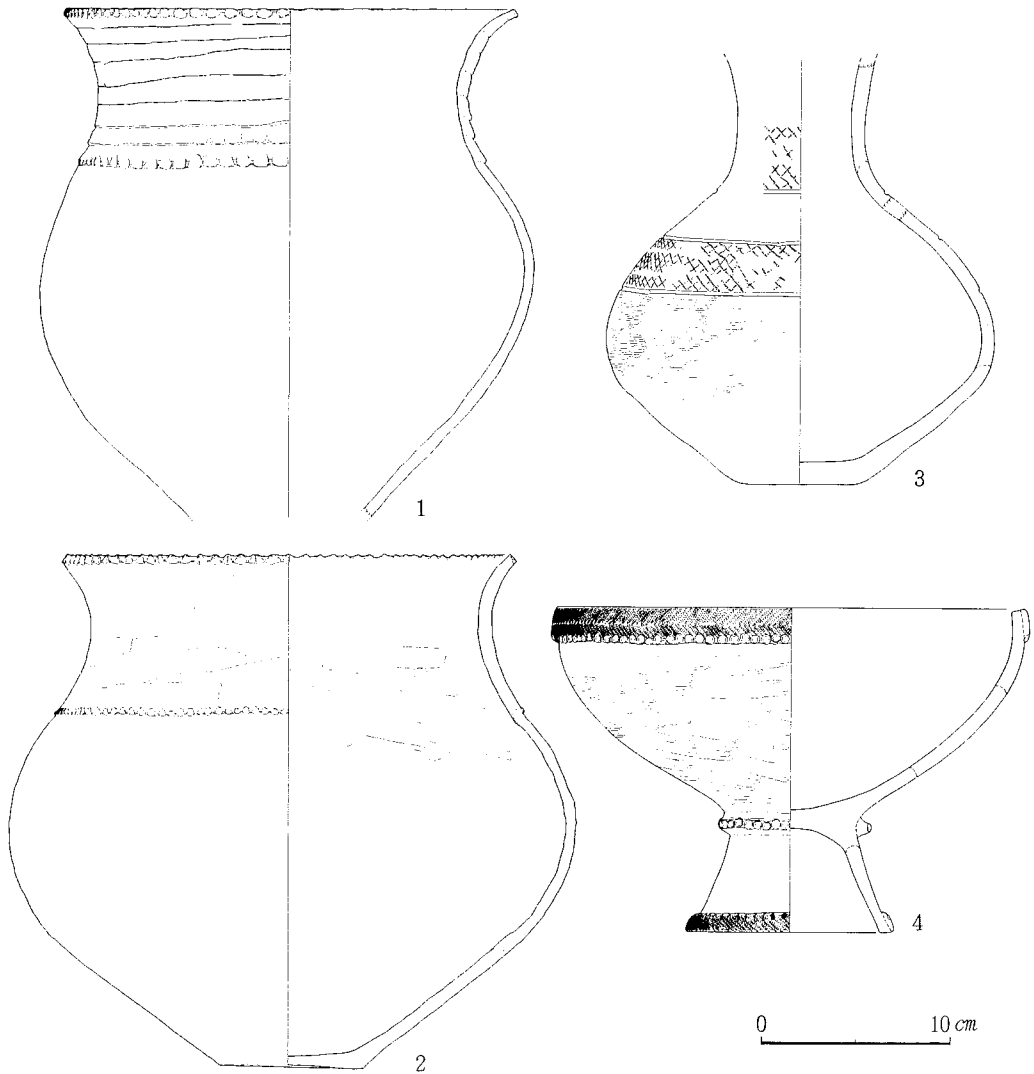
第6図 住居跡・方形周溝墓関連図

0 10m



第7図 銅釧検出状態図(A・B)

0 5cm



第8図 方形周溝墓周溝内出土土器図

径3mと極めて小型のもの等が見られる。

方形周溝墓は、これら竪穴住居跡と重複し、住居跡を切る形で検出され、4基分が確認されている。全体の形状を把握できるものは2基のみであり、他は、一部乃至大部分が未調査区域に跨がり存在している。方形周溝墓からは、第8図に示した土器類が出土している。1～4とした土器は、それぞれの番号が、第6図中の方形周溝墓内に▲で示した地点から出土し、それぞれの番号に対応している。出土状況を見ると、方形周溝墓を構成する溝中の一隅に偏在する傾向にあり、溝中央部からの出土はない。

型式学上、これらの土器間に若干の時間的幅が認められるものと思われる。このことは、第

6 図中の方形周溝墓を一見しても、方向性の違い、あるいは溝同士の重複などは、これらの方形周溝墓構築にある程度、時間的幅の存在を予想させるものである。

4 基検出された方形周溝墓の中で、特に二つの方形周溝墓が目される。それは、2 基の方形周溝墓主体部からガラス製小玉とともに銅釧が検出されたことである。いずれも 5 点ずつ出土し（第 7 図）、出土時の様子から銅釧を腕に装着した状態が明確に捉えられるものである。

銅釧の錆によって、釧部分にあたる骨が腐食せず良く残存し、図に見るように骨の形状から、尺骨及び橈骨であることが見てとれ、往時、これら銅釧が腕輪として用いられていたことを明瞭に把握することができるものである。

第 7 図で A・B とした銅釧は、第 6 図中の A・B とした主体部から検出されたものであり、主体部の底面より若干浮いた状態で、主体部の主軸線と、尺骨・橈骨の方向がほぼ直角に交わるような状態で出土していることから、埋葬時に被葬者は腕を曲げ、腹部の上に手を乗せた姿勢をとっていたものと想像される。更に、B とした図中、尺骨と橈骨との間に指骨の一部が挟まれ残存していることによって、腕は両腕共に曲げられ、腹部上で手を重ねるようにしていたものと考えられる。

銅釧は、全て板状を呈し、直径 5.5cm、幅 1cm、厚さ 1mm を平均値とするもの（第 7 図 A）と直径 5.8cm、幅 1cm 強、厚さ 1mm を平均値とするもの（同 B）であり、それぞれ 5 点の内では似た値を示すものの、A と B とでは大きさに若干の相違が認められる。また、これら銅釧には、つなぎ目等が一切見られず、大きさも均一的なことから鑄造された可能性が極めて高いものである。

弥生時代におけるこの種銅製品の発見例は全国的にも決して多いものとは言えず、西日本に比べると、東日本では更に稀少である。特に東関東以北での出土例は少なく、東日本における弥生時代青銅器の研究上貴重な資料を得たことになる。弥生時代の青銅製品の内、銅鏃、銅釧、銅環、銅鏡、小・小型銅鐸などが東日本でも発見されている。この内数量的には銅鏃が圧倒的多数を占め、次に銅釧の出土例が多いと思われるが、これら銅釧は、完形品としての例は少なく、そのほとんどが破片の状態で出土し、関東域では神奈川・東京・埼玉からの出土例が多く管見に入っている。出土状態では、根丸島、三殿台に代表されるように、破片として住居跡内出土に見る如く、集落に関連した例が多く、今回報告した根田遺跡例のように、墓跡から完形品として、更に腕装着の状況を明確にしての出土は、関東域では極めて稀な例であろう。

また、上層の古墳から検出された素環頭大刀についても、関東域での当該期出土例は稀少であり、貴重な資料を得たことになる。

（米田耕之助）

## 8 外<sup>そと</sup>迎<sup>むかい</sup>山<sup>やま</sup>遺跡

**事業名** 姉崎カントリークラブゴルフ場増設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市風戸字入口ノ沢1163番地他

**調査期間** 昭和60年4月29日～6月20日（確認調査）

昭和60年7月1日～11月30日（本調査）

**調査面積** 26,300㎡のうち 2,630㎡（確認調査）・15,400㎡（本調査）

**調査概要** 外迎山遺跡は養老川の中流域左岸に灌ぐ小河川の形成する支谷と、東京湾に灌ぐ椎津川支流によって形成される支谷との分水界をなす標高81m前後の台地上に位置する。

調査はゴルフ場増設工事に先立つものであり、2×4mグリットを基本とする遺構確認調査の結果に基づき、15,400㎡が本調査の対象地域となった。

本調査の結果、下記の遺構が検出された。

縄文時代 住居跡1・炉穴3（以上早期）

古墳時代後期～平安時代 方墳2・方形周溝状遺構28・火葬墓6・土壇1

中～近世 溝1・道路状遺構1

時期不明 土壇24

縄文時代の遺物は、早期・中期・後期の土器片が遺跡南側の緩斜面に点在していたが、早期に比定される遺構の他は検出できなかった。

古墳時代後期～平安時代にかけての遺物は、当該期の遺構数に対して少なく、若干の土師器・須恵器が検出されたにすぎない。また、当該期の遺構はすべて、いわゆる「墓」と考えられるものだけで、住居跡等は検出できなかった。

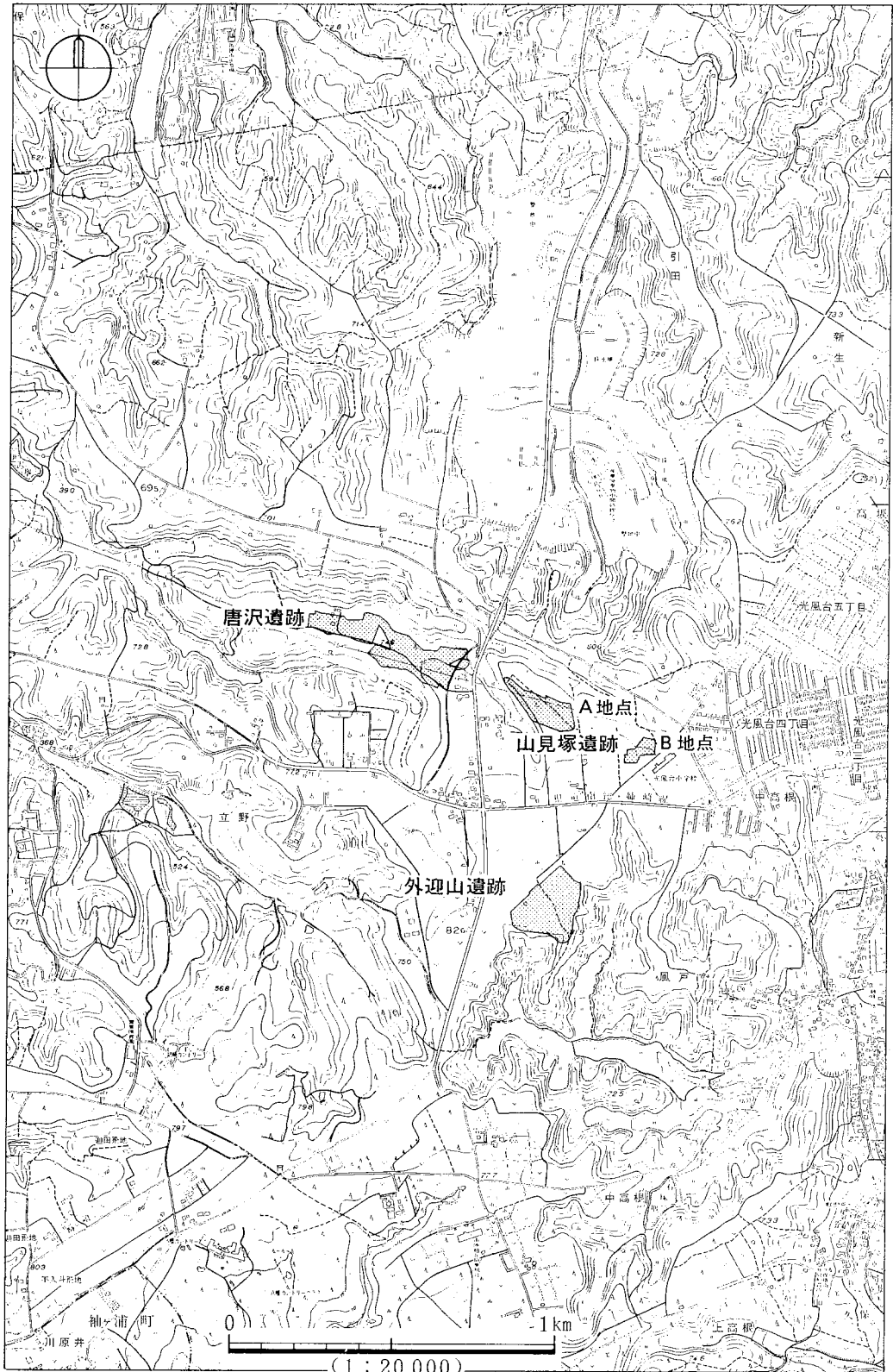
中～近世にかけての遺物は、1707年の宝永火山灰が遺跡のほぼ中央を走る溝の覆土の最上層付近に、厚い所で約10cm前後の堆積がみられ、この層の前後に古銭（寛永通宝）数枚と若干の陶器等が検出された。また、遺跡西側を走る現道が土塁を伴うものであり、概知の「鎌倉街道」と考えられる重要候補地であった為、土塁に対して2本のトレンチを設定して調査を行ったが、中世まで遡る確証は得られなかった。しかし、付近の字名に「大街道」「鎌倉街道」という地名が残っており、現道直下あるいはさらに西側に「鎌倉街道」が存在する可能性が高い。

以上のことから本遺跡は、古墳時代後期～平安時代にかけての墓域としての性格が強いものであり、墳墓の変遷を考えるうえで重要な遺跡であるといえよう。

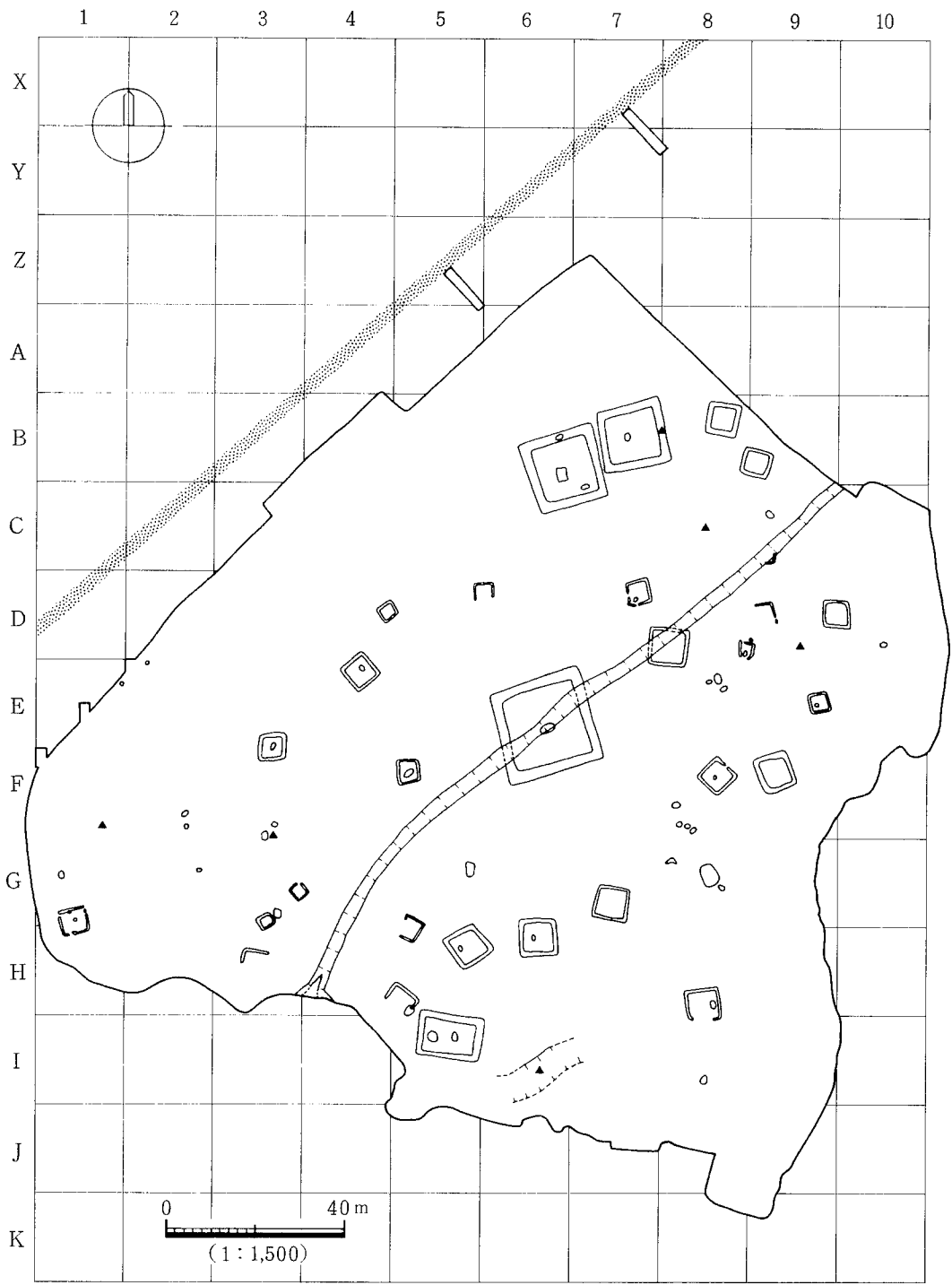
尚、外迎山・唐沢・山見塚の3遺跡は、事業名が同じであり、なおかつそれぞれの遺跡が非常に接近して存在していることから遺跡位置図等は、3遺跡で共用することにした。

報告書刊行は昭和62年3月31日の予定である。

（木對和紀）

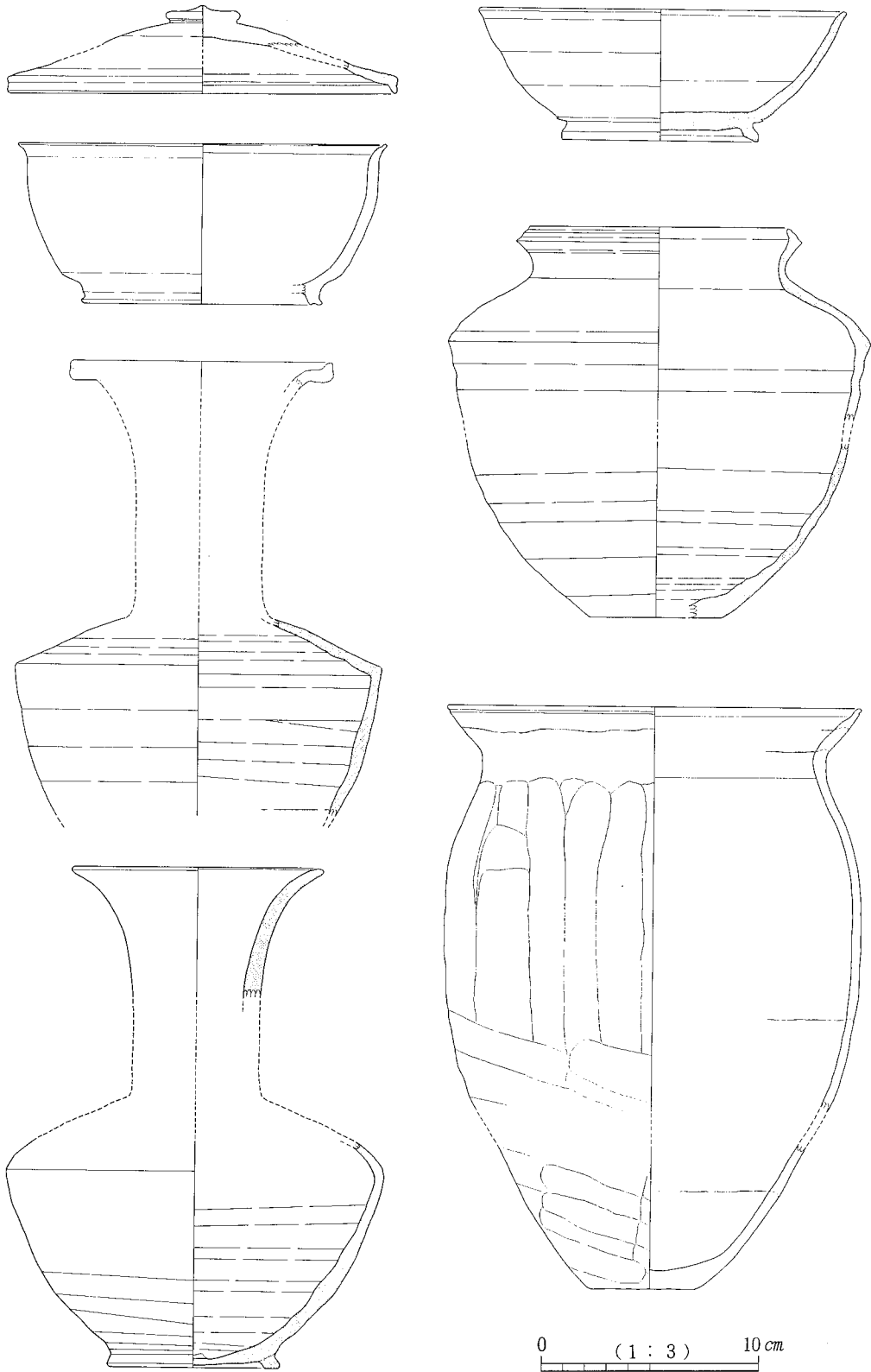


外迎山・唐沢・山見塚 遺跡周辺地形図

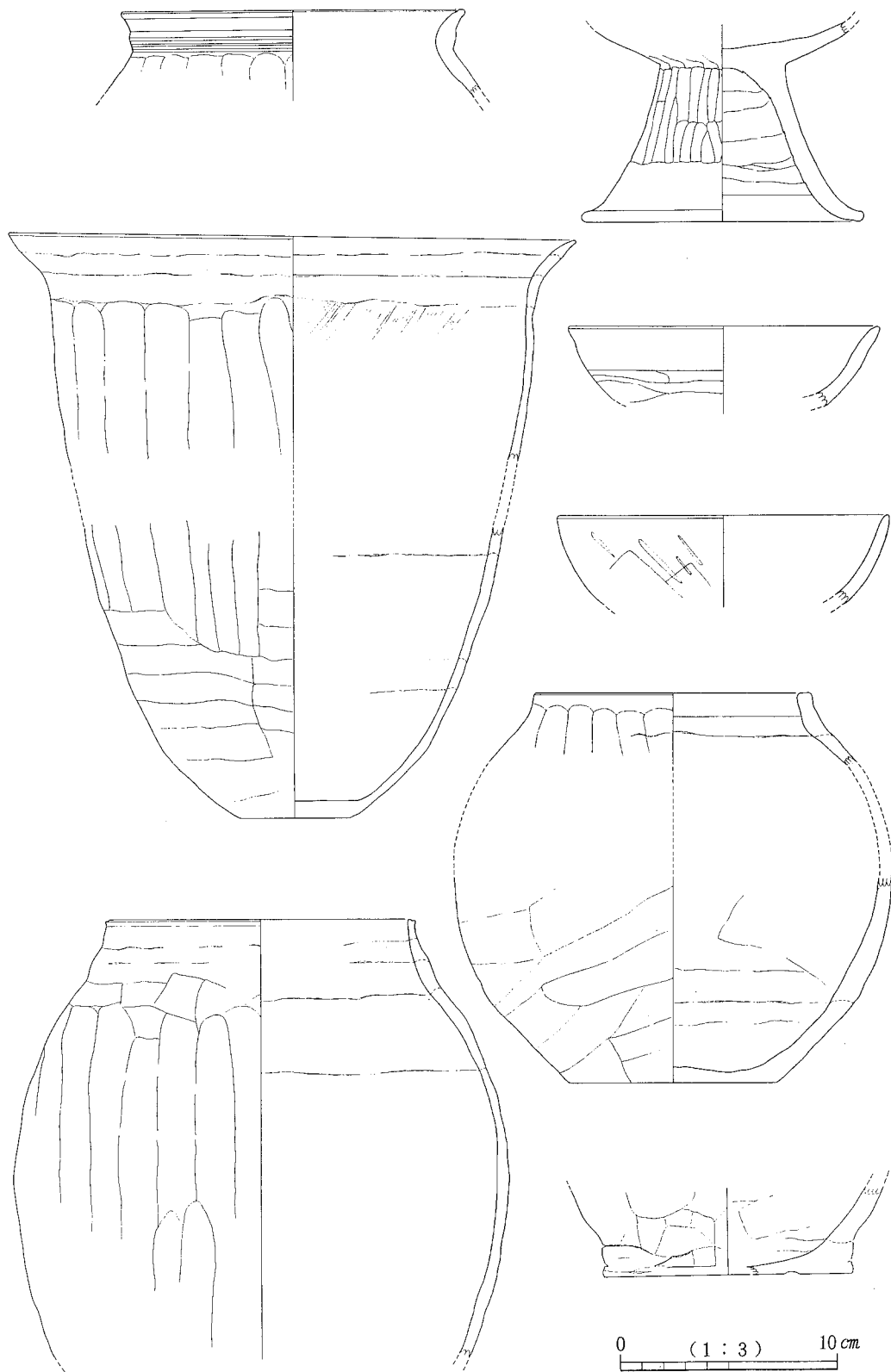


- ▲ 蔵骨器出土地点
- ▨ 現道（推定鎌倉街道）

外迎山遺跡



外迎山遺跡出土遺物 1



外迎山遺跡出土遺物 2



## 9 唐 沢 遺 跡

**事業名** 姉崎カントリークラブ増設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市立野唐沢 295-1 番地他

**調査期間** 昭和60年4月18日～8月31日（確認調査）

**調査面積** 42,350㎡のうちの 4,235㎡

**調査概要** 本遺跡は椎津川支流の最奥部、養老川小支谷との分水界近くに位置し、南から西に向って湾曲しながら伸びる長さ 1,300m、幅100～300mの細長い舌状台地上に立地している。確認調査はこの台地のほぼ中央部を東西 550mの範囲で行った。対象地は北東部と中央南側が緩斜面となっている他はほぼ平坦面で、標高は68～72mである。

遺構は総て縄文時代のもので、早期茅山式期の炉穴が21基と本遺跡の主体をなし、調査区中央部に19基が集中して大きな一群を形成し、北東緩斜面に2基の小群が確認されている。また、調査区南東部には、早期撚糸文式土器、中期加曽利E式土器、後期堀之内式土器を伴う土壌がそれぞれ1基ずつ確認されている。

出土遺物は縄文時代の土器、石器、礫が大部分を占め、覆土を掘り下げていないため遺構に伴うものは少なく、包含層中のものが主体をなしている。この包含層中の土器は早期～晩期に渡って出土しており、以下の分布傾向を示している。

早期撚糸文系土器群……南東部の撚糸文土器出土遺構を中心とした区域と中央南側の区域から多く出土するが、両者とも集中度は低い。

早期条痕文系土器群……中央部の炉穴群と一致する範囲で集中する。北東部の炉穴群周辺は極めて少ない。

前期前半土器群……中央部西寄りと北東端部に集中するが、両者とも密度は低い。関山～黒浜式土器が主体を占める。

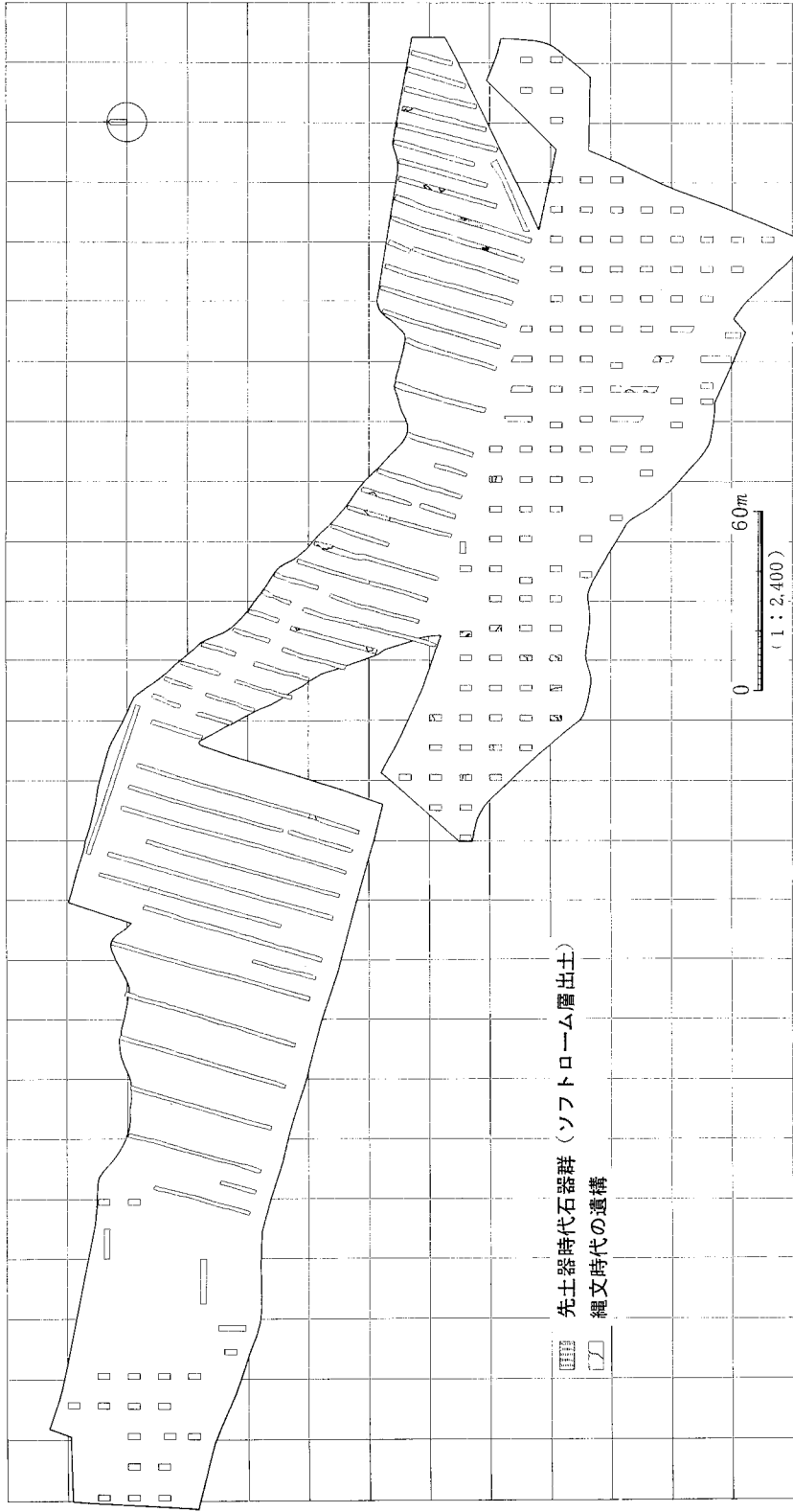
中期後半土器群……遺構が確認されている東南部に若干集中するのみで総数は極めて少ない。加曽利E式土器が主体である。

後期前半土器群……遺構が確認されている東南部の他に、北東端部に集中しているが密度は低い。堀之内式、加曽利B式土器が出土している。

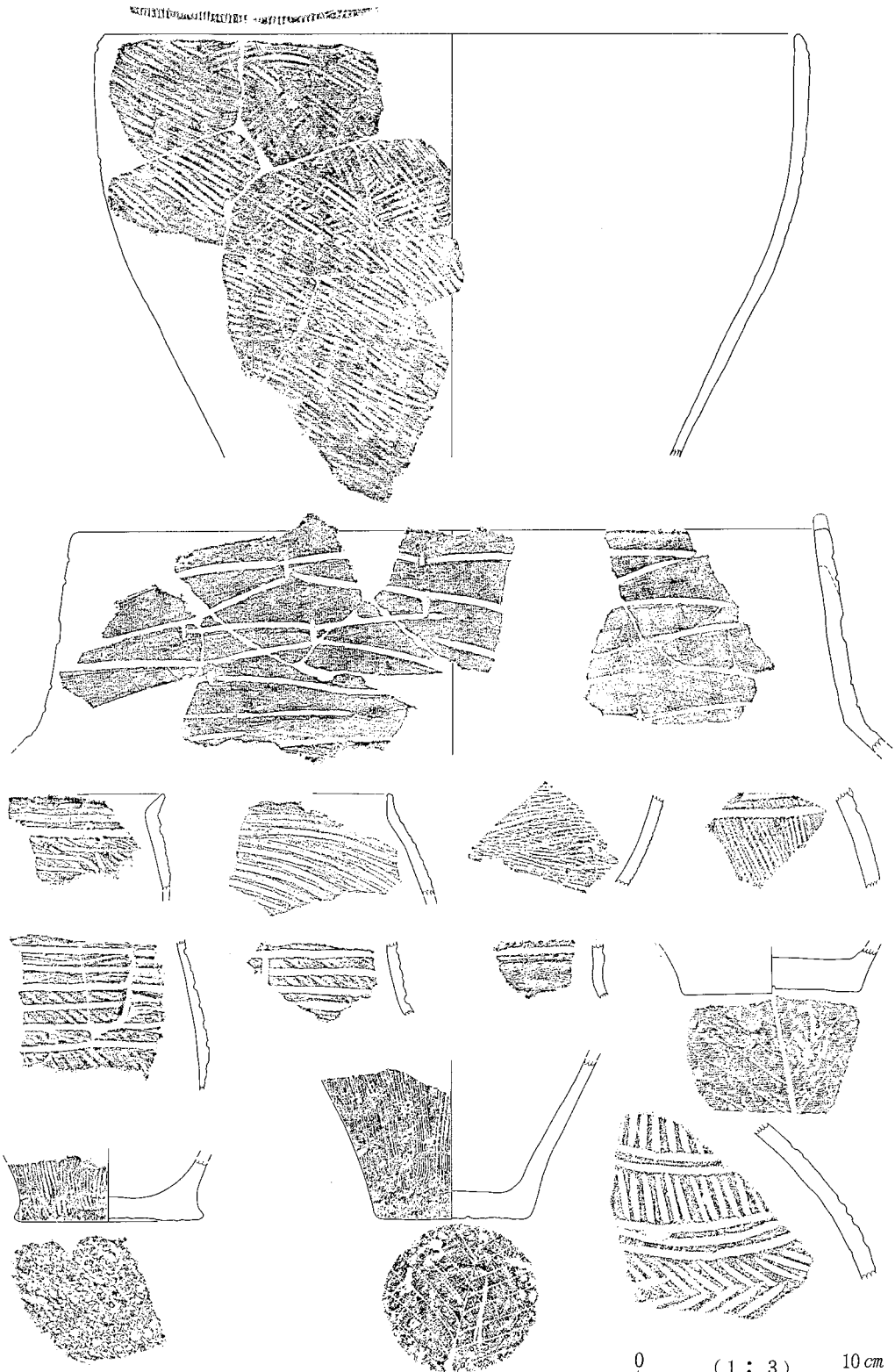
晩期土器群……全体の点数は少ないが、I-19グリッド周辺を中心に集中して出土している。沈線文と条痕文土器からなるが、弥生時代中期前半と思われる土器も若干混入している。

以上の他に、ソフトローム中より先土器時代の剥片が4点と、表土中より歴史時代の鉄鏃が1点出土している。

尚、本遺跡の位置は前掲「外迎山遺跡」中の1/20,000図に示した。 (山口直樹)



唐沢遺跡トレンチ配置図



唐沢遺跡出土遺物

## 10 やま み づか 山 見 塚 遺 跡

**事業名** 姉崎カントリークラブゴルフ場増設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市立野字山見塚 306-1 番地他

**調査期間** 昭和60年4月18日～7月31日（確認調査）

**調査面積** 18,250㎡のうち 1,825㎡

**調査概要** 山見塚遺跡は、養老川中流域左岸に灌ぐ小河川と、東京湾に灌ぐ椎津川支流によって形成される支谷との分水界をなす標高78m前後の台地上に位置する。

調査区域は、西側のA地点と東側のB地点にゆるい谷を隔てて分かれており、狭義においては、それぞれ独立した別の遺跡と考えられた。

調査は、ゴルフ場増設に先立つ遺構確認調査であり、調査後は盛土保存（盛土してその上にゴルフ場を増設するという方法）が協議されていた。

調査の方法は、2×4mグリッドを基本としたが、A地点においては、東側半分の現況が植林地であった為、木根列にそったトレンチ法を採用することにした。

### A地点

A地点において確認された遺構は下記の通りである。

縄文時代 集石1（早期）・住居跡19・土壇6・貝ブロック14ヶ所（以上後期）

古墳時代後期～歴史時代 方墳（方形周溝状遺構）9・土壇4・溝6

時期不明 溝4

縄文時代早期の集落は、調査区北東端部に集石遺構を伴う遺物包含層として検出されている。

縄文時代後期の集落は、調査区中央を空白部として住居跡を環状に配しており、調査区南東部を除く包含層中に極めて多量の土器・石器が散布している。調査区中央から北東にかけては貝ブロックが多く、調査区外に存在する貝塚に続いているものと考えられる。

古墳時代後期から歴史時代の遺構は、方墳（方形周溝状遺構）を主体として、調査区東側台地縁辺部に連っている。遺物は極めて少なく、若干の土師器・須恵器を検出したにすぎない。

### B地点

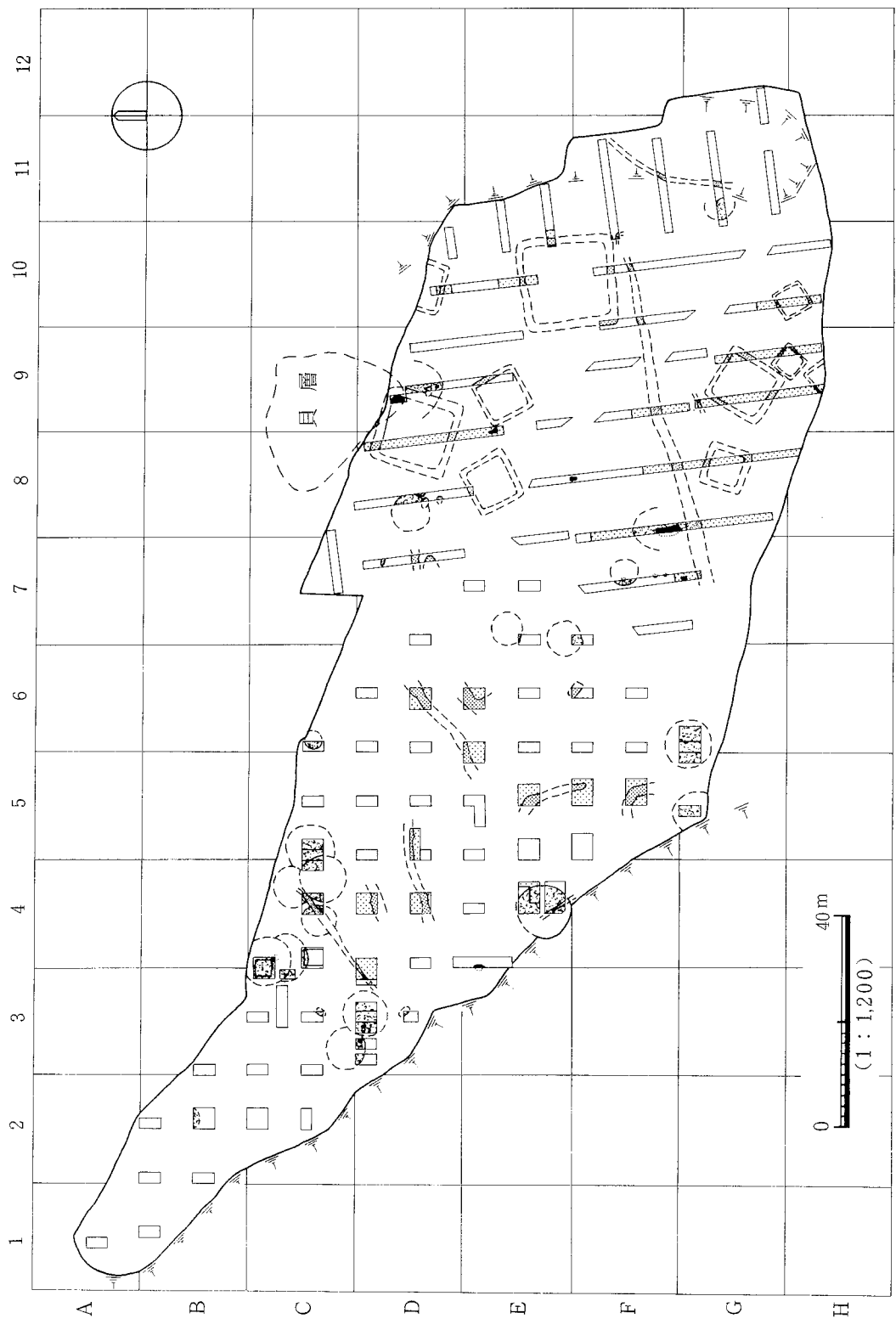
B地点において確認された遺構は下記の通りである。

古墳時代後期 円墳1・焼土ブロック1ヶ所

奈良時代 方形周溝状遺構1

近世以降 溝5

古墳時代後期の古墳は、調査区西端部に位置し、墳丘・周溝ともに現地表でとらえられる。墳丘は高さ約80cmで、大部分は機械による掘削で盛土が露出してしまっている。調査の結果、



山見塚遺跡A地点



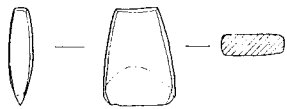
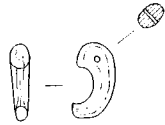
- Ⅲ層 (ソフトローム) 上面までの確認
- ▨ Ⅱb層 (新規テフラ) 上面までの確認
- ▧ 縄文時代の遺構
- 縄文時代の貝層
- ▩ 古墳時代の遺構
- ◻ 近世以降の遺構 (時期不明含む)

山見塚遺跡B地点



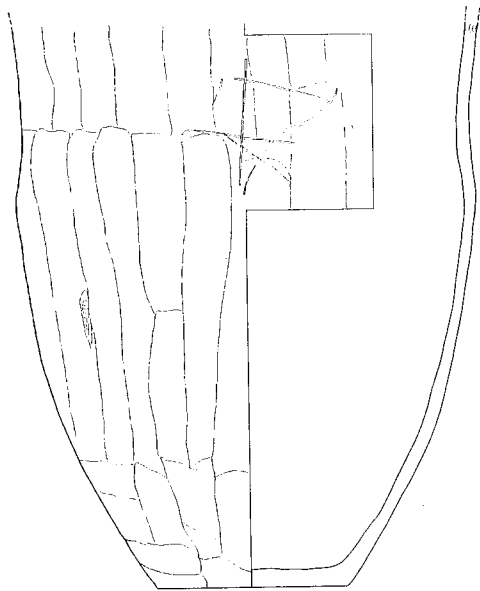
0 (1:3) 10 cm

山見塚遺跡B地点出土遺物



山見塚遺跡A地点出土遺物

0 (1:2) 6 cm



直径約20m前後の円墳であることが確認された。また周溝覆土上面から当該期の土師器片数点が検出されている。

焼土ブロックは調査区の北東端に一ヶ所確認されている。焼土上面より古墳時代後期の土師器片が出土していることから、付近に同期の住居跡等の遺構の存在が考えられる。

奈良時代の方形周溝状遺構は、調査区の南東端に検出された。付近より奈良時代の土師器甕・須恵器蓋が出土している。

古墳時代以降の溝状遺構は5条確認された。基本土層II a層を掘り込んでいるため、比較的新しい時期のものと考えられる。遺物は5条とも検出されなかった。

A地点・B地点のソフトローム層以上の基本土層は、I層—攪乱表土層。II a層—自然堆積黒色有機質土層。II b層—自然堆積新期テフラ層。II c層—自然堆積暗褐色有機質土層。の4層に分けられる。このうちA地点の縄文時代後期の遺物はII c層上位部～II b層中に集中しており、また古墳時代後期の遺物確認面はII b層上面であった。B地点の基本土層もA地点と同様であるが、北西端のグリッドにおいては、古墳時代後期以降に何度か流水によって谷が埋没していく過程と考えられる土層が検出されている。A地点のII b層までの表土からの深さは30～60cm、B地点では30～70cm前後であった。

以上のことから、山見塚遺跡は縄文後期の貝塚を伴う環状集落址と、古墳時代後期から続く古墳群としての性格をもつものであった。

1979年、田中新史氏によって紹介された中高根古墳群は、<sup>(1)</sup>前方後円墳を含む13基からなる古墳群であったが、大規模な宅地造成の為そのほとんどが消滅し、現在では埴輪を有する4号墳が、光風台小学校前に存在するのみとなってしまった。しかし今回の調査期間中に、B地点周辺に新たに5～6基程の古墳が存在することが確認され、山見塚A地点・外迎山遺跡<sup>(2)</sup>を含めたこの養老川中流域左岸一帯に一大古墳群を形成していたことが注目される。

報告書刊行は昭和62年3月31日の予定である。

(木對和紀)

註

- (1) 田中新史「煙滅しつつある中高根古墳群を悼む」 『伊知波良』 2 1979年
- (2) 昭和60年度 財団法人市原市文化財センター調査

## 11 みなみ ふじ だい 南富士台遺跡

**事業名** 県道鶴舞牛久線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市大字鶴舞字南富士台1028-5 他

**調査期間** 60年5月17日～60年7月13日（本調査）

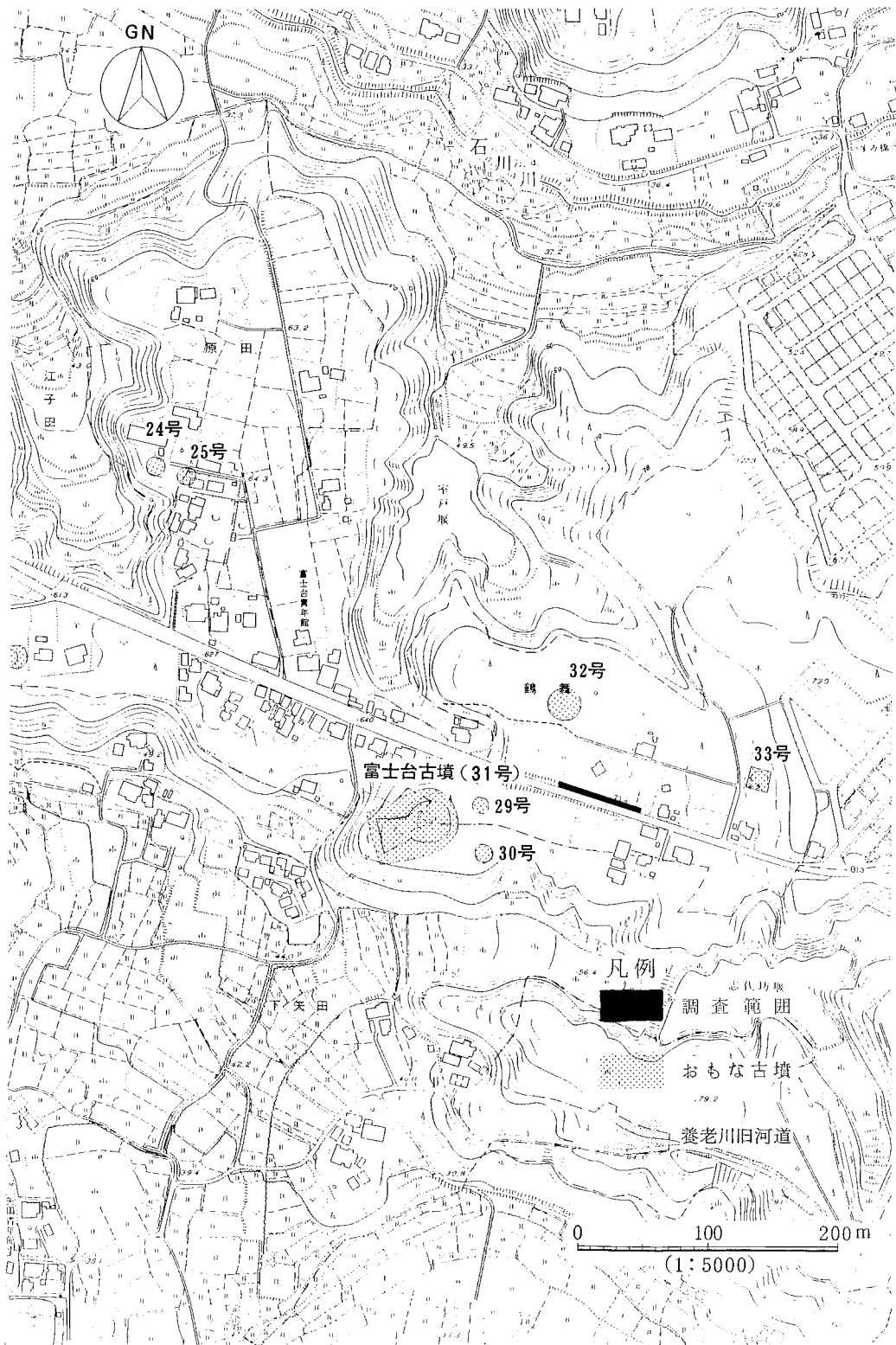
**調査面積** 350m<sup>2</sup>

**調査概要** 本遺跡は清澄山系に源を発する養老川中流域の養老川と内田川支流石川川とにおいて挟まれた丘陵台地上に存在する。富士台丘陵は鶴舞から牛久方面へ段丘状になり段階的に標高を下げて行く。丘陵の西端部の舌状台地には、金環塚（瓢箪塚）古墳で有名な江子田雪解えごだゆきげ沢遺跡ざわが標高62m前後に位置し、本遺跡は江子田古墳群より一段上の台地上に位置し標高72m前後にある。今回調査した地域は南北幅が200m前後の台地上平坦面にあり、北は石川川の支谷となり、南は養老川旧河道の攻撃面となり分水嶺となっている。西は一段下がって南北に長い舌状台地があり小古墳が点在する。調査区西の同台地上南縁辺部には60m～70m規模の富士台古墳（31号墳）が周溝の形跡を残しながら存在している。またその付近には2基の小円墳（29・30号墳）と、台地北側には方墳（33号墳）それよりやや大きい32号墳が存在しており、いずれも保存状態は良好である。これらは江子田古墳群の富士台支群としてとらえられている。

本調査は歩道増設工事に伴うもので調査区域は幅5～6m、長さ50mとトレンチ的な発掘域であり完掘できたものはない。縄文時代には早期野島式土器がややまとまって出土し、中、後期の土器片が出土している。しかし相当する遺構、遺物の集積がなかった。弥生時代には、溝1条、土壇1、住居跡が5検出され中でも8号遺構（住居跡）からは静岡県地方の菊川式土器と比定される壺形土器が出土している。壺は床より若干浮いた状態で半欠で出土し接合破片はなかった。器面は磨滅しており丹彩部分はトーンに図示した。頸部に菊川式特有のクシの刺突具を用いて羽状効果を出し、擬縄文にしている。また胴下半部の立ち上がりは鋭く屈曲している。胎土は荒い白色砂礫（長石）を含み在地土器のそれとも異なり搬入品の可能性が高い。他の住居跡も弥生後期であり、調査区の東端西端に位置してあるので広く分布すると考えられる。

古墳時代前期五領式期の住居跡は4軒で4軒とも複合もしくは近接している。少なくとも2時期に分かれる。3号遺構は粘土板炉の住居址であり、4号遺構より新しい。4号は焼失家屋で木炭、焼土が覆土に充満していた。一辺9mの大型住居跡で遺物も豊富であった。11号遺構は近世遺構で半壊しているが焼失住居跡で柱痕穴上に柱が炭化して立存しており丸太状で直径が10cmあった。33号墳付近、及び富士台青年館前にも五領式土器が採集されており、五領式期の集落はかなり広く分布していると考えられる。県道南側にも住居跡の断面を観察しているため、古墳時代前期の集落は後の江子田古墳群の母体となったと考えられる。富士台古墳は立地





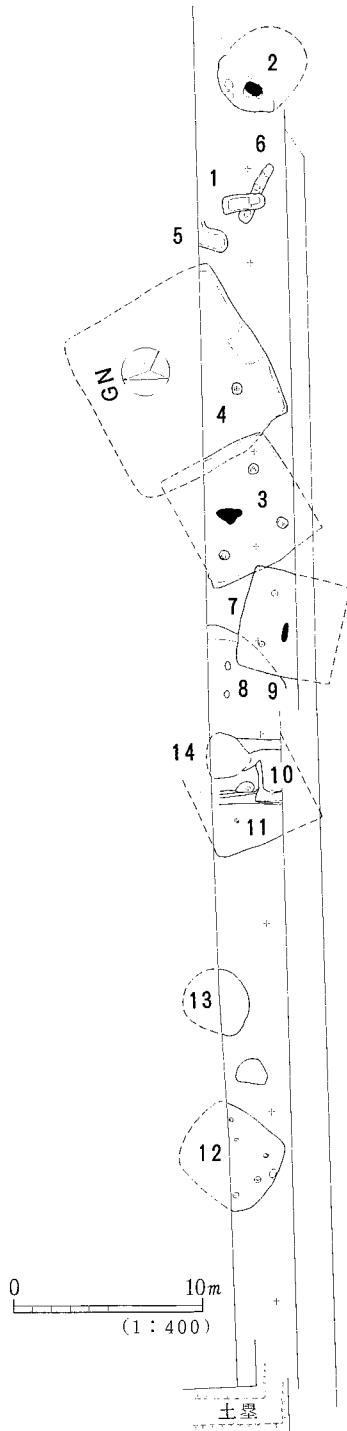
南富士台遺跡周辺地形図

から古く考えられており関連に興味を持たれる。

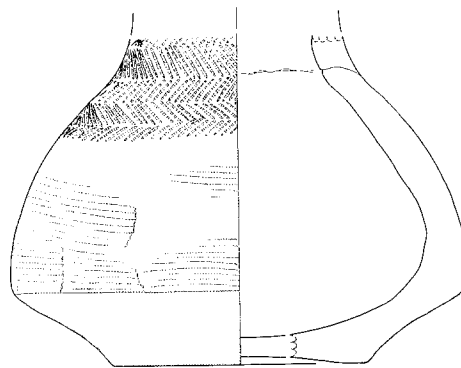
五領式期以後は遺物が当調査域では採集されず、幕末から明治維新後に、浜松からの井上氏転封後の遺構と思われる土塁が各所に存在する。明治十五年の陸軍陸地測量部迅測図、鶴舞村を見ると鶴舞城本郭の土塁はかなり細密に表現してあるが、外郭の街道沿の土塁は記載されていない。地元住民の話では、馬場跡や、井戸が点々と本郭に行く途中の街道沿に設けられているということであり、全体の調査研究は未だなされていない。本調査では土塁の切れる一面に建物状（門）の跡を検出したが、近代以降の炭ガマによって大きく破壊されているので詳しくは不明である。

本調査は 350m<sup>2</sup>と小規模の調査ではあるが、鶴舞丘陵上の野島式土器資料、弥生時代後期の菊川式土器の検出、五領式期の集落の確認と内容が豊富であった。報文は61年度刊行予定であるが、菊川式土器は千葉県初の検出であり、交流の少ない当時にあつて非常に得難い資料であるので報文前に図示した。これからの検討資料になれば幸いである。詳細は報文にて同伴土器と共に報告したい。

(近藤 敏)



南富士台遺跡全体図



8号遺構出土土器

## 12 <sup>しもすず</sup> 下 鈴 野 遺 跡

**事業名** (仮称) 帝京技術科学大学建設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市潤井戸字上清水谷1684他

**調査期間** 昭和60年4月10日～9月30日(本調査)

**調査面積** 32,200㎡

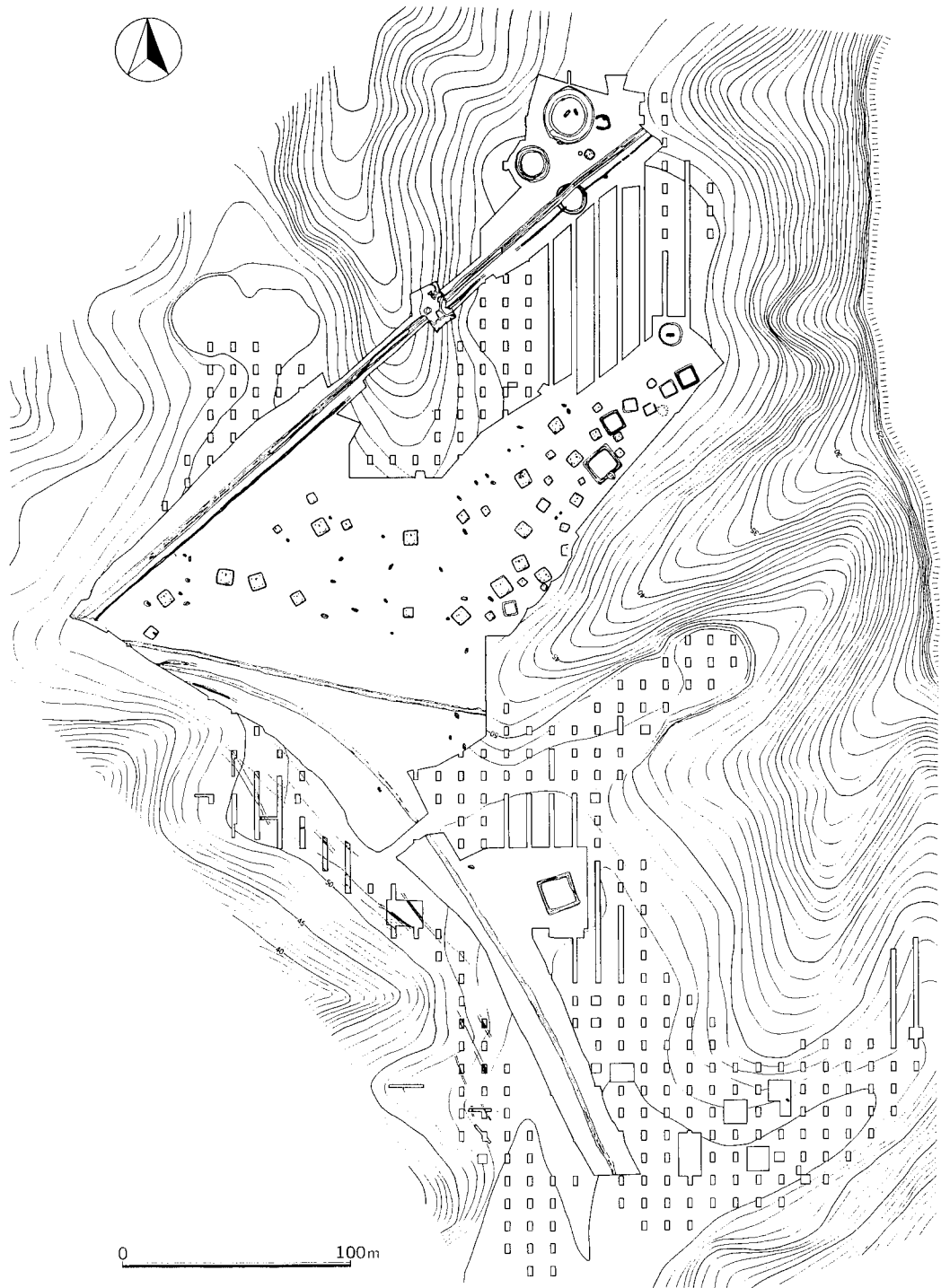
**調査概要** 本遺跡は、村田川中流域左岸に開口する、小支谷に面する台地上にある。調査は昨年度実施した確認調査の成果をうけ、対象地86,700㎡のうち、32,200㎡について実施された。

調査の結果、縄文時代竪穴住居跡3軒、所謂陥し穴43基、小竪穴3基、集石土壇2基、焼土跡1基、古墳時代竪穴住居跡34軒、古墳5基、土壇4基、奈良・平安時代方形周溝9基、溝2条、他に、時期不明の溝状遺構17条が検出された。縄文時代については、住居跡2軒、小竪穴3基、焼土を伴う土壇1基が、加曾利E式期に比定される他、稲荷台式期に所産と推定される竪穴が一軒確認された。ただし、所謂陥し穴については、遺構に伴う遺物は皆無であり、またこれに対応する縄文土器の分布も認められなかった。

本遺跡で主体となるのは、古墳時代五領式期の住居跡群である。34軒の竪穴住居跡は、出土土器から、五領1式期、2式期に分離され、五領1式期には数単位、五領2式期は1単位の小住居跡群が抽出される。ただし、両期における、集落としての継続性については、若干の疑義がある。この点については、村田川流域他遺跡との比較検討が今後必要となろう。本遺跡出土の五領1式土器は、甕形土器口径部に粘土紐積み上げ痕を残すものもみられるなど、久ヶ原式・鴨居上の台式との系列性が明確であり、当該地域における、五領式成立期の好材料を提出できるものと思われる。5基の古墳については、和泉式期を中心とし、集落廃絶直後に造営が開始された可能性が考えられる。しかし、その配列等から、最も先行すると思われる1号墳は、周溝の掘り直しなどから2時期あり、古期に伴う土器は確認されていない。この古期の周溝は、一方が開口し、隣接する4号墳に類似する形態をとるものと考えられる。主体部は、1号墳で2基、5号墳で1基確認され、いずれも、当該期としては小規模な木棺直葬である。副葬品は1号墳1号主体部から、滑石製勾玉、滑石製白玉、ガラス小玉など、5号墳からは、剣形利器、鉄鎌が出土している。

本遺跡では、五領式期以降集落は形成されていないが、奈良・平安時代に比定されるものとして、方形周溝、溝がある。方形周溝のうち6号方形周溝は、地下式横穴墓を伴う。ただし、いずれも出土遺物がなく、年代は確定できない。また、調査区北側、東西に台地を横断する溝については、平安期に比定されるものであるが、性格については、明確に言及できない。

(大村 直)



下鈴野遺跡全体図（1/300）

13 中 閨 ケ 広 遺 跡

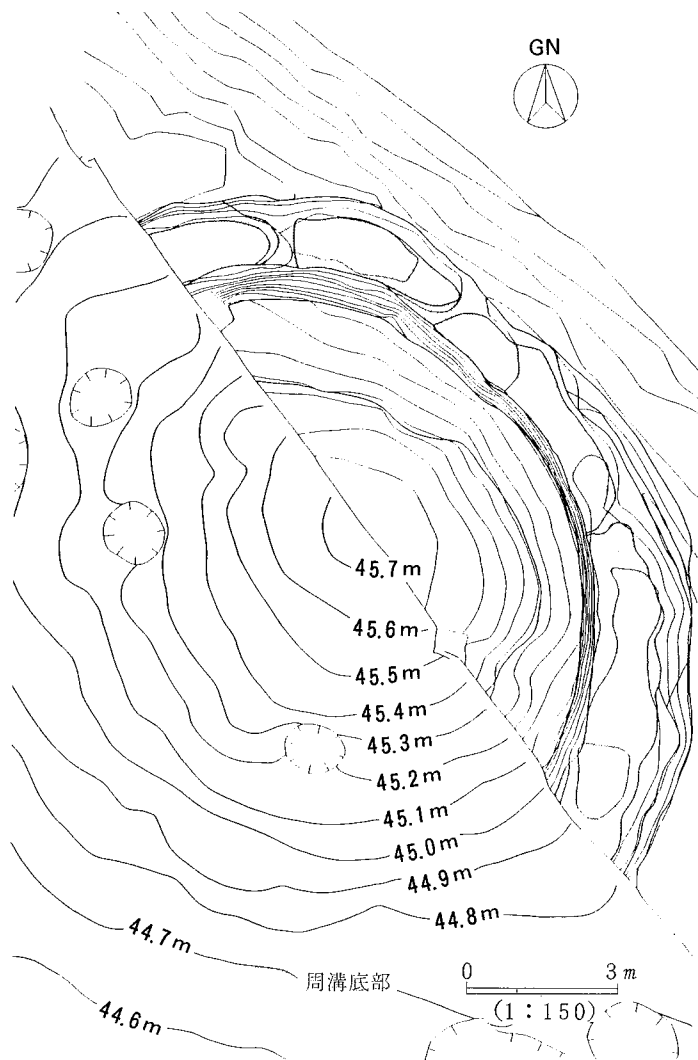
事業名 帝京技術科学大学関連道路（一般道路）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市潤井戸字中閨ヶ広1609他

調査期間 昭和61年1月4日～2月28日（本調査）

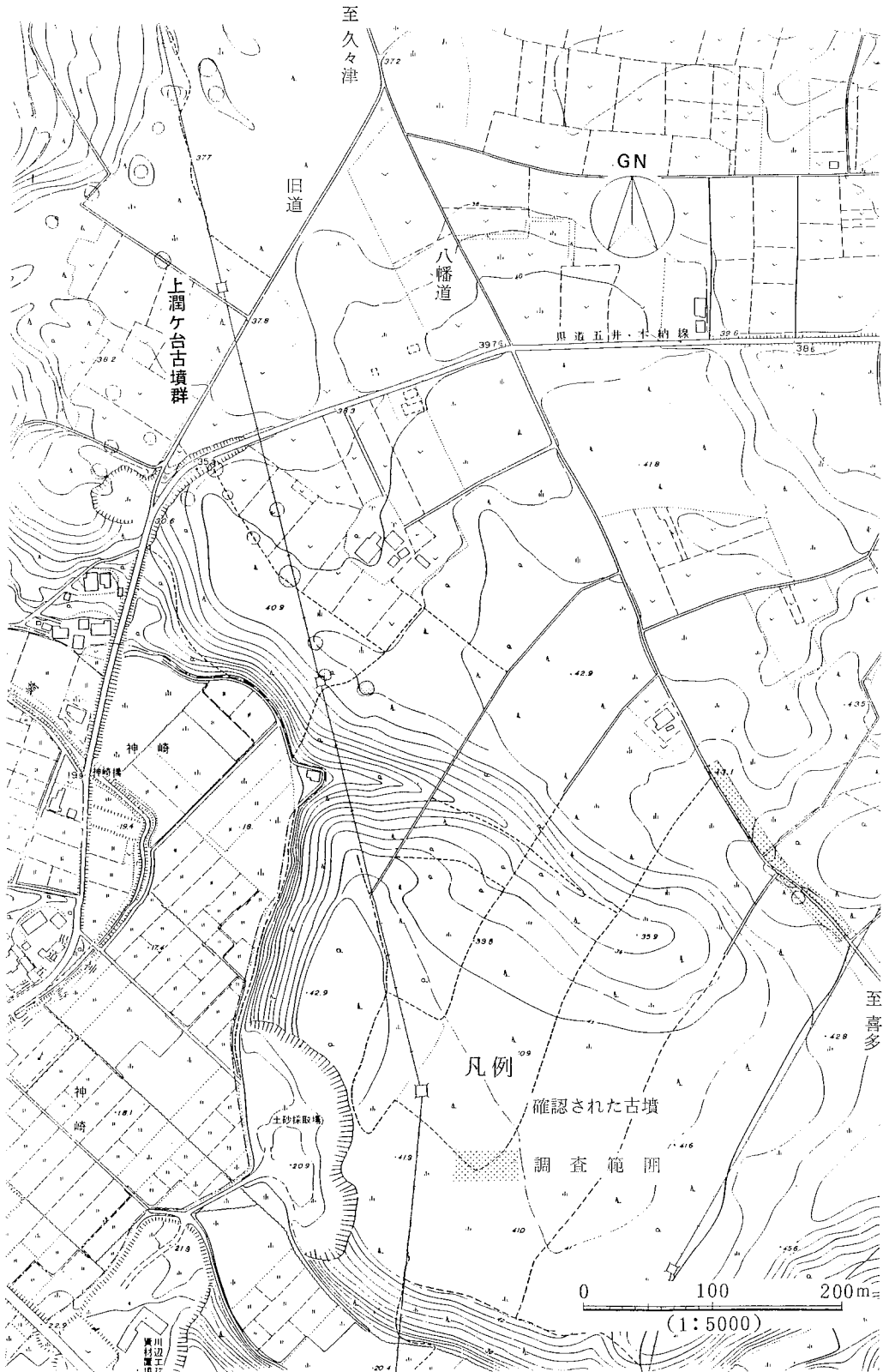
調査面積 1,900㎡

調査概要 本遺跡の所在する台地は東側が村田川中流域に下る支谷に面し、西側は村田川支流である神崎川流域に面する小支谷に挟まれた台地で標高42m前後である。南東方向に近接する下鈴野遺跡は同一台地上であるが一段階高い。遺構は縄文時代と思われる陥穴が1基で遺物は小片が若干散見される程度である。古墳時代後期の円墳1基は路線内に1/3ほど入り、周溝

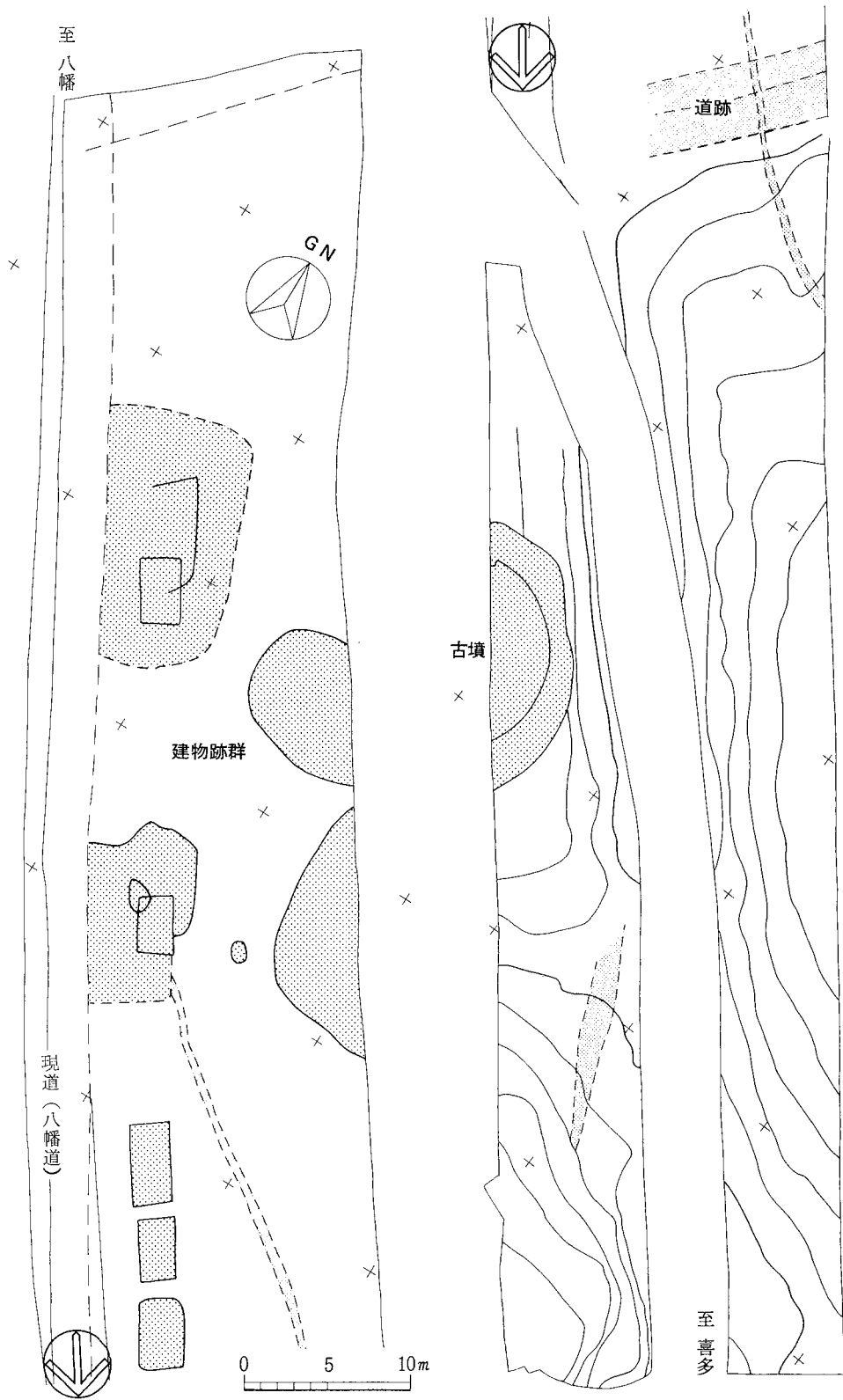


中閨ヶ広遺跡 1号墳

と周溝中より鬼高式期の杯、須恵器片を検出している。外部施設はなく、主体部も検出されなかったが残り2/3側に埋葬されているものと考えられる。周囲200m半径には古墳が確認されないが、上潤ヶ台古墳群かみうりがだいに入れられるものだろう。以後中近世まで遺構がなく、下鈴野遺跡大溝関連の遺構、遺物は検出できなかった。中近世には、喜多きたより八幡宿やわたじゆくへ抜ける茂原街道の間道が通り久々津と喜多の中間地点となったと思われる、調査区内に間道（八幡道）に関連すると思われる遺構がある。それらは基壇状に地固めがあり建物跡と考えられるがいずれも小規模で不明な点が多い。（近藤 敏）



中間ヶ広周辺地形図



中閤ヶ広遺跡全体図 (1:400)

14 おおばねじょうかく  
大羽根城郭跡

事業名 高滝カントリークラブ建設に伴う文化財調査

所在地 市原市本郷字郷堂1630他

調査期間 昭和61年1月16日～3月31日（測量調査）

調査面積 160,887㎡

調査概要 遺跡は、市原市の南部、市原台地から丘陵地帯に移行する地域に位置する。市内を貫流する養老川右岸の上流に近い中流域に属し、旧佐是郡高滝郷内の本郷と飯給の両域にまたがる標高 120mを測る山地に築かれた中世後半期に属する山城である。

調査の対象は、曲輪の集中している内郭に対応する外郭の一部分であり、養老川との間の段丘面から西側斜面中腹にかけて遺存する平場群と山頂尾根を利用した通路などである。この内比較的的に保存の良好な西側部分については現状保存の処置がとられたため、調査の方法は航空及び地上測量と踏査によって行われた。本跡は山城という性質から、城に付する居処又は集落の推定地は、大羽根、養老の両河川によって挟まれた段丘面から西側斜面の中腹に比定されよう。外郭とは単に内郭に対する防衛施設だけではなく、これら生活の場を内包した囲みであり、本来的には、この内外郭をもって一城とみるべきであろう。（鈴木英啓）



大羽根城郭跡の主要部概要図 調査対象は罫線の右上部分ではあるが、実質的な土取り部分は、中央屋根から東側斜面に限られている。



こおり もと  
15 郡本遺跡

**事業名** 市原信用組合郡本支店建設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市郡本4丁目 103番地

**調査期間** 昭和61年2月24日～25日（本調査）

**調査面積** 360㎡のうち36㎡

**調査概要** 郡本遺跡は古くから、地名と八幡神社に散在している巨大な礎石の存在により、市原郡衙の有力な推定地の1つになっている。調査地点は遺跡の中心地域と思われる八幡神社本殿から北西に直線で150mのところにあたる。調査範囲は小面積ながら、弥生時代後期の竪穴住居跡4軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡5軒、土壌3基が確認された。奈良・平安時代の竪穴住居跡の配置には規格性がうかがえる。調査は次年度に継続する予定である。

(石田広美)



ちちゅうしもはら  
16 土宇下原遺跡

**事業名** 東林寺墓地造成に伴う埋蔵文化財調査  
**所在地** 市原市土宇字下原1102-1  
**調査期間** 昭和61年2月27日～3月7日(本調査)  
**調査面積** 250㎡

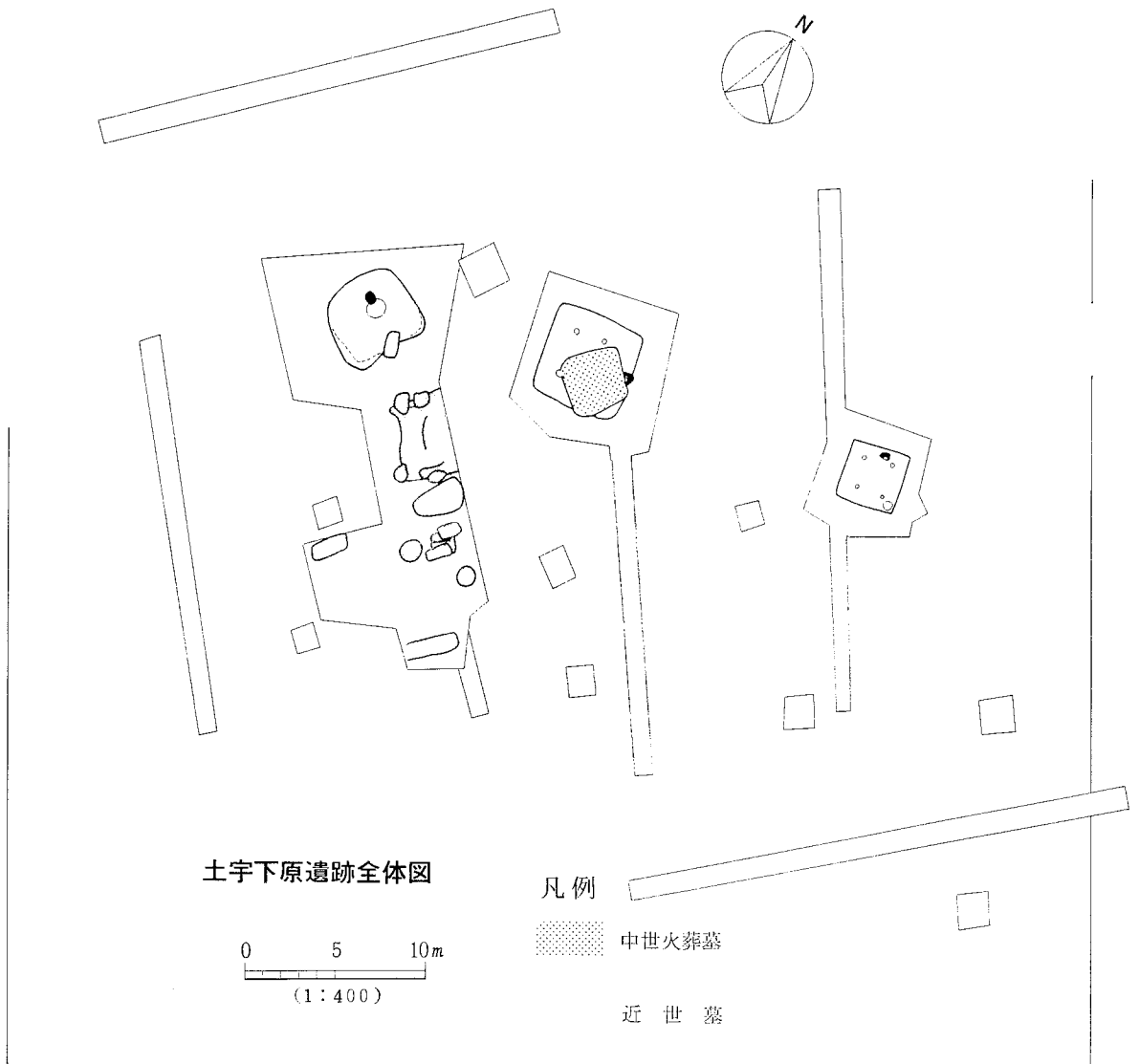
**調査概要** 本遺跡は養老川中流域の右岸にあり、標高37m前後の狭いが平坦な河岸段丘面に存在している。地層断面の観察では粘土層上に火山ガラス(AT)が5cm厚で堆積し後に風成の褐色ロームが堆積している。遺物は縄文中期の加曽利E式の破片が若干見られる。遺構は弥生後期の竪穴式住居跡1軒、古墳時代後期鬼高式期の竪穴式住居跡が2軒検出された。調査域が限られているが他にも存在する可能性が大きい。鬼高期の住居跡を破壊して中世の火葬墓があ



土宇下原遺跡周辺地形図

るが3m程の方形で深さが2m位ある。底面は平坦で中央部に木炭灰と常滑壺があった。常滑壺中には火葬され骨粉化した人骨が入っていた。中世の市内資料として少ないものである。本遺跡の南300mには弥生集落として有名な、土宇遺跡<sup>ちちゆう</sup>No.100地点がある。開析谷を挟んで対峙し標高差が10m位ある。時期的にも近く関連が強いと考えられる。緊急調査のため満足な調査が出来ない状況であったが近い将来隣接地の調査の場合は万全を期したいと考えている。

(近藤 敏)



17 奉免上原台遺跡

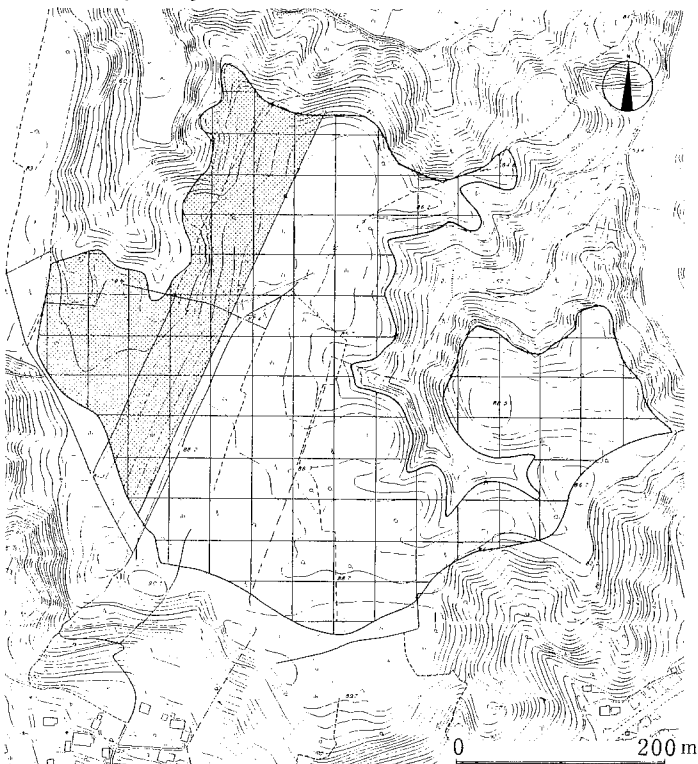
事業名 市原ゴルフ倶楽部増設に伴う埋蔵文化財調査  
所在地 市原市奉免字上原台1130他  
調査期間 昭和61年3月1日～3月31日（確認調査）  
調査面積 40,000㎡のうち 4,000㎡

調査概要 本遺跡は、養老川に南面する、標高80～90mの洪積台地平坦部に位置する。対象地は、総面積 165,000㎡であり、本年度は、対象地西側（図網部），40,000㎡のうち 4,000㎡について確認調査を実施した。調査は、10m方眼に対して2×4mのグリッドを設定し、状況に応じ、これを拡張した。また、可能な限り、IIb・IIc・III各層において遺構の有無を確認した。

この結果、本年度調査範囲において、縄文時代早期炉穴11群、土壇（陥し穴など）7基、奈良・平安時代方形周溝1基、および時期不明の溝7条を確認した。炉穴については、各群複数基が重複しているが、遺構自体の調査を実施していないため、実数は不明である。縄文時代早期の遺物・炉穴の分布範囲は、対象地西縁部に位置し、その範囲は対象地外西側に展開するものと推定される。また、周辺地域の状況から予測された古墳群については、本年度調査区においては、方形周溝が1基確認されたのみであった。

なお、本遺跡の確認調査は、61年度に継続して実施されたが、この結果、縄文時代早期炉穴14群のほか、前期住居跡19軒、中期住居跡1軒、土壇21基、古墳時代およびそれ以降については、竪穴住居跡3軒、方墳・方形周溝35基、円形周溝1基、溝14条などが確認されている。また、凸面布目瓦の散布も認められ、寺院跡の存在も考慮される。方墳・方形周溝は、本年度対象地東側、遺跡最高部に南北に配列されており、本年度の一基は、その最北部にあたる。

（大村 直）



奉免上原台遺跡周辺地形図

## IV 昭和60年度 受贈図書一覧

書 名	寄 贈 者	受 入 日
市原の柳植神事絵巻	市原市文化課	60. 4. 2
鳥取県教育文化財団調査報告書16	勲鳥取県教育文化財団	60. 4. 8
武蔵野公園低湿地遺跡	小金井市教育委員会	60. 4. 11
國學院大學文学部考古学実習報告第9集	國學院大學文学部考古学研究室	60. 4. 16
同 第10集	同	〃
千葉の環境 昭和59年版千葉県環境白書要約	矢島秀朗	60. 4. 17
産業グラフ1985 No123	同	〃
養老川総合開発事業 高滝ダム	同	〃
北九州市立考古博物館 常設展示図録	北九州市立考古博物館	60. 4. 20
「須恵器のはじまり」展	同	〃
九州の装飾古墳	同	〃
古代東国の薨	近藤 敏	60. 4. 24
郷土の城ものがたり 淡路篇	同	〃
同 但馬篇	同	〃
同 丹有篇	同	〃
同 東播篇	同	〃
京都府埋蔵文化財情報 第13号	勲京都府埋蔵文化財調査研究センター	60. 4. 25
國學院大學文学部考古学実習報告第9集	國學院大學文学部考古学研究室	〃
同 第10集	同	〃
上総国分寺台発掘調査概要IV	市原市文化課	60. 4. 30
同 V	同	〃
同 VI	同	〃
同 VIII	同	〃
同 IX	同	〃
同 X	同	〃
同 XI	同	〃
同 XII	同	〃
上総国分寺台調査概報1979	同	〃
同 1981	同	〃
同 1982	同	〃
上総山王山古墳	同	〃
大阪文化誌 第18号	勲大阪文化財センター	〃
総泉寺山横穴群発掘調査概報	鳥取県埋蔵文化財センター	〃
収蔵資料目録 第1集	福岡市埋蔵文化財センター	〃
千葉県文化財センター年報 No.9	勲千葉県文化財センター	〃
千葉県文化財センター 十年の歩み	同	〃
豊田市郷土資料館報告22	豊田市郷土資料館	60. 5. 11
松本市文化財調査報告 No.34	松本市教育委員会	〃
同 No.35	同	〃
同 No.36	同	〃
同 No.37	同	〃
永田, 不入窯跡 2冊	市原市文化課	60. 5. 15
浜町屋敷内遺跡C地点	勲群馬県埋蔵文化財調査事業団	60. 5. 18
荒砥二之堰遺跡	同	〃

書 名	寄 贈 者	受 入 日
研究紀要 — 2 —	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	6 0 . 5 . 1 8
新田目城跡III	酒田市教育委員会	〃
史跡城輪柵跡	同	6 0 . 5 . 2 0
藤岡町文化財報告書第2集	藤岡町教育委員会	6 0 . 5 . 2 2
東方横穴墓群発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
殿屋敷遺跡群C地区発掘調査報告書	同	〃
梶山北遺跡発掘調査報告書	同	〃
すぐじ山下遺跡発掘調査報告書	同	〃
世田谷区立郷土資料館収蔵品目録2	世田谷区立郷土資料館	6 0 . 5 . 2 3
京都市考古資料館年報 昭和58・59年度	京都市考古資料館	〃
東京都埋蔵文化財センター年報4	(財)東京都埋蔵文化財センター	6 0 . 5 . 2 4
研究論集III	同	〃
鹿の子遺跡発掘調査報告書 (第1次)	石岡市教育委員会	〃
常陸国分僧寺跡発掘調査報告II	同	〃
守山の遺跡と遺物	名古屋市博物館	〃
館蔵品図録I	同	〃
埼玉県立さきたま資料館 一要覧一	埼玉県立さきたま資料館	6 0 . 5 . 2 5
史跡埼玉古墳群保存修理事業報告書	同	〃
埼玉古墳群発掘調査報告書 第二集	同	〃
同 第三集	同	〃
各務原市資料調査報告書第4号	各務原市教育委員会	〃
我孫子市埋蔵文化財報告第5集	我孫子市教育委員会	〃
同 第6集	同	〃
上毛野 No.1	相川考古館	〃
群馬考古通信 第8号～第10号	同	〃
太古 第31号	同	〃
利根川流域の自然と文化	同	〃
府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書I	(財)大阪文化財センター	〃
同 II	同	〃
美園	同	〃
赤岸島遺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	6 0 . 5 . 2 7
草戸千軒町遺跡 一発掘調査十年の成果一	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	〃
草戸千軒町遺跡調査研究所 一十年の歩み一	同	〃
埋蔵文化財ニュース 目録 No.1～No.50	奈良国立文化財研究所	〃
同 49	同	〃
同 50	同	〃
日本考古学研究所集報VII	日本考古学研究所	6 0 . 5 . 2 8
栃木県埋蔵文化財調査報告第62集	栃木県教育委員会	〃
埋蔵文化財ニュース 目録 No.1～No.50	宮本敬一	〃
同 49	同	〃
同 50	同	〃
多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度 (第1分冊)	(財)東京都埋蔵文化財センター	〃
同 (第2分冊)	同	〃
同 (第3分冊)	同	〃
同 (第4分冊)	同	〃
同 (第5分冊)	同	〃
同 (第6分冊)	同	〃

書名	寄贈者	受入日
多摩ニュータウン遺跡 昭和58年度(第7分冊)	財東京都埋蔵文化財センター	60. 5. 28
倉敷考古館研究集報 第18号	財倉敷考古館	60. 5. 29
小町田遺跡	財群馬県埋蔵文化財調査事業団	60. 5. 30
女堀	同	//
埋もれていた日用品の美	大田区立郷土博物館	//
NOA No.1~No.3 各2部	鹿児島大学教養部考古学研究室	//
千葉県千潟町埋蔵文化財分布地図	千潟町教育委員会	60. 6. 5
千葉県市原市地名集	市原市文化課	//
日天月天塚古墳調査概報 1984年度	茨城大学人文学部博物館学研究室	60. 6. 6
研究連絡誌 第11号	財千葉県文化財センター	60. 6. 10
同 第12号	同	//
高槻市文化財調査概要IX	高槻市立埋蔵文化財調査センター	//
浦和市立郷土博物館館報 第25号	浦和市立郷土博物館	60. 6. 12
奈良国立文化財研究所年報 1984	奈良国立文化財研究所	60. 6. 13
下本谷遺跡第6次発掘調査概報	広島県立埋蔵文化財センター	60. 6. 14
石鏡権現遺跡群発掘調査報告 一C地点一	同	//
亀山遺跡 一第4次発掘調査概報一	同	//
備後国府跡 一推定地にかかる第3次調査概報一	同	//
秋田城跡 昭和59年度秋田城跡発掘調査概報	秋田市教育委員会	60. 6. 15
鹿島町の文化財 第30集	茨城県鹿島町教育委員会	//
同 第37集	同	//
鳥取県教育文化財団報告書18	財鳥取県教育文化財団	60. 6. 17
わらびて No.24	岩手県立埋蔵文化財センター	60. 6. 24
いわき市埋蔵文化財調査報告書 第9冊	財いわき市教育文化事業団	//
同 第10冊	同	//
先史23 東京・石川天野遺跡5次調査	駒沢大学考古学研究室	60. 6. 25
先史24 東京・石川天野遺跡6次調査	同	//
文化ホール紀要8	松戸市文化ホール	60. 6. 26
愛知県古窯跡群分布調査報告(IV)	名古屋大学文学部考古学研究室	60. 6. 27
桐ヶ崎遺跡調査報告書	成田市教育委員会	//
松崎白子, 大袋台畑・塔之下遺跡発掘調査報告書	同	//
貝塚博物館紀要 第12号	千葉県立加曾利貝塚博物館	60. 6. 29
岩手の遺跡	岩手県埋蔵文化財センター	60. 7. 1
水のはなし 2冊	市原市文化課	60. 7. 2
県道木部野洲線・県道大津能登川長浜線 交通安全施設工事関連埋蔵文化財調査報告書I	財滋賀県文化財保護協会	60. 7. 3
県管かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書II-3	同	//
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書X-5-2	同	//
同 XII-7	同	//
横土井(観音寺)遺跡発掘調査報告書	同	//
湖岸堤管理用道路(南山田工区)建設に伴う埋蔵文化財試掘 調査報告書	同	//
久留米市文化財調査報告書 第44集	久留米市教育委員会	60. 7. 4
千葉県市原市君塚クワノ木古墳発掘調査報告書 2冊	田中清美	60. 7. 5
草戸千軒町遺跡 一第32次発掘調査概要一	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	60. 7. 8
調査研究ニュース第12巻 草戸千軒No.130~141	同	//
奈良の文化財No.3 古墳I	奈良市教育委員会	60. 7. 8

書名	寄贈者	受入日
平城京出土軒瓦型式一覧Ⅰ	奈良市教育委員会	60. 7. 8
奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和59年度	同	〃
奈良市水道局庁舎建設地発掘調査概要報告	同	〃
平城京東市跡推定地の調査Ⅲ	同	〃
市道九条線関係遺跡発掘調査概報(Ⅲ)	同	〃
日本大学文理学部史学研究室文化財発掘調査報告書 第15集	日本大学文理学部史学研究室	60. 7. 9
紀要 5	日上市郷土博物館	60. 7. 10
年報 昭和59年度 [第6号]	同	〃
各務原市史	各務原市教育委員会	〃
日本史	米田耕之助	〃
滋賀文化財だより No94～No102	滋賀県文化財保護協会	60. 7. 12
文化財教室シリーズ [73]～[80]	同	〃
京都府埋蔵文化財情報 第14号	埋蔵文化財調査研究センター	〃
同 第15号	同	〃
小見川町文化財報告 第9集	小見川町教育委員会	〃
同 第10集	同	〃
増田長峰遺跡発掘調査報告書	同	〃
十老山古墳発掘調査報告書	同	〃
図録「古代の住まい」	島根県立八雲立つ風土記の丘	60. 7. 13
八雲立つ風土記の丘 No71, No72	同	〃
年報4 昭和59年度	茨城県教育財団	60. 7. 15
茨城県教育財団文化財調査報告第27集(上)	同	〃
同 (下)	同	〃
同 第28集(上)	同	〃
同 (下)	同	〃
同 第29集	同	〃
埋蔵文化財調査室年報1 昭和58年度	北九州教育文化事業団	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書 第37集	同	〃
同 第38集	同	〃
同 第39集	同	〃
同 第40集	同	〃
同 第41集	同	〃
同 第42集	同	〃
同 第43集	同	〃
「建築文化財とその保護」(抜刷)	丸山 純	〃
ぼくらの祖先達は 一日向遺跡編一	所沢市教育委員会	60. 7. 18
企画展 下総の牧	千葉県立房総風土記の丘	60. 7. 22
昭和59年度「発掘された遺跡展」	同	〃
千葉県立房総風土記の丘年報8 一昭和59年度一	同	〃
千葉県立房総風土記の丘教育利用	同	〃
印旛沼周辺における低地遺跡の研究(抜刷)	原田昌幸	〃
流山市立博物館企画展調査研究報告書3	流山市立博物館	〃
石神製鉄遺跡	徳島県埋蔵文化財調査センター	〃
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 第37集	同	〃
同 第38集	同	〃
同 第39集	同	〃
同 第40集	同	〃



書名	寄贈者	受入日
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書 第41集	勸広島県埋蔵文化財調査センター	60. 7. 22
同 第42集	同	〃
同 第43集	同	〃
同 第44集	同	〃
同 第45集	同	〃
同 第46集	同	〃
年報 I 昭和53年度～昭和57年度	同	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書 第5集	勸千葉県文化財センター	〃
君津市九十九坊廃寺址確認調査報告書	同	〃
千葉県埋蔵文化財分布地図(1)	同	〃
長法寺南原古墳III	大阪大学文学部国史研究室	60. 7. 24
服部遺跡発掘調査報告書V	勸滋賀県文化財保護協会	60. 7. 25
薬師堂遺跡発掘調査報告書	同	〃
余呉町埋蔵文化財発掘調査報告書1	同	〃
字・コード・価格表(姉崎・五井・市津地区)	宮本敬一	60. 7. 27
同(戸田・牛久・内田・鶴舞・平田地区)	同	〃
同(三和地区)	同	〃
同(加茂地区)	同	〃
NOA No.4	鹿児島大学教養部考古学研究室	60. 7. 29
群馬県立歴史博物館紀要 第6号 1985	群馬県立歴史博物館	〃
群馬県立歴史博物館調査報告書 第1号 昭和59年度	同	〃
西の台第2次	船橋市教育委員会	60. 7. 30
中里遺跡発掘調査の概要 I	東北新幹線中里遺跡調査会	60. 7. 31
同 II	同	〃
いちほら'84 市原市市勢要覧	市原市文化課	60. 8. 2
胆沢城 一昭和59年度発掘調査概報一	岩手県水沢市教育委員会	60. 8. 5
岩手県水沢市文化財報告書第14集	同	〃
岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第82集	勸岩手県埋蔵文化財センター	〃
同 第83集	同	〃
同 第84集	同	〃
同 第85集	同	〃
同 第86集	同	〃
同 第87集	同	〃
同 第88集	同	〃
紀要V	同	〃
考古遺物資料集 第5集	同	〃
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第4集	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
名古屋市博物館だより45	名古屋市博物館	60. 8. 8
大崎台遺跡発掘調査概報	佐倉市教育委員会	60. 8. 10
錦木諏訪尾余遺跡	同	〃
大崎台遺跡発掘調査報告 I	同	〃
袖ヶ浦町文化財分布調査報告書1985 2冊	袖ヶ浦町教育委員会	60. 8. 13
とまこまい埋文だよりNo.1	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
さいたまのはくぶつかん 第3号	近藤 敏	〃
同 第4号	同	〃
関東の博物館 第8号	同	〃
秋田県埋蔵文化財センター年報1	秋田県埋蔵文化財センター	60. 8. 19

書名	寄贈者	受入日
秋田県埋蔵文化財センター年報 2	秋田県埋蔵文化財センター	60. 8. 19
同 3	同	〃
長野県埋蔵文化財ニュースNo14	(勸)長野県埋蔵文化財センター	60. 8. 21
長野県埋蔵文化財センター年報 1	同	〃
時間と空間の世界 一遺跡 発掘 考古学—	(勸)栃木県文化振興事業団	〃
(勸)元興寺文化財研究所通信No19	(勸)元興寺文化財研究所	60. 8. 26
埋文あおもり	青森県埋蔵文化財調査センター	〃
埋蔵文化財調査室年報 1	(勸)北九州市教育文化事業団	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告 第63集	栃木県教育委員会	〃
同 第64集	同	〃
同 第65集	同	〃
同 第66集	同	〃
同 第67集	同	〃
同 第68集	同	〃
同 第69集	同	〃
同 第70集	同	〃
同 第71集	同	〃
同 第72集	同	〃
東総用水	(勸)千葉県文化財センター	〃
千葉市養輪遺跡	同	〃
船橋市八木ヶ谷遺跡 (遠山塚群)	同	〃
千葉市村田服部遺跡	同	〃
八千代市北海道遺跡	同	〃
常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ	同	〃
東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ	同	〃
新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ	同	〃
千葉市種ヶ谷津遺跡	同	〃
主要地方道成田松尾線Ⅱ	同	〃
芦田台1・2号塚	同	〃
主要地方道成田安食線道路改良工事 (住宅地関連事業) 地内埋蔵文化財発掘調査報告書	同	〃
栄町大畑Ⅰ-2遺跡	同	〃
主要地方道成田安食線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ	同	〃
佐倉市タルカ作遺跡	同	〃
千葉県文化財センター蔵書目録Ⅰ	同	〃
房総考古学ライブラリー 2	同	〃
研究連絡誌 第13号	同	〃
千葉県文化財センター研究紀要 9	同	〃
わらびて No25	岩手県立文化財センター	60. 8. 27
財団法人大阪府埋蔵文化財協会ニュース第1号	(勸)大阪府埋蔵文化財協会	60. 8. 31
ひろしまの遺跡 第21号	(勸)広島県埋蔵文化財調査センター	60. 9. 2
前方後円墳の成立 (抜刷)	水野正好	60. 9. 4
想青籙記 初叢 (別刷)	同	〃
近世の地鎮・鎮壇 (抜刷)	同	〃
奈良大学考古学研究室調査報告書 第6集	同	〃
長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第2集	(勸)長岡京市埋蔵文化財センター	〃

書 名	寄 贈 者	受 入 日
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅺ-1	勸滋賀県文化財保護協会	60. 9. 5
同 Ⅺ-8	同	〃
県営かんがい排水事業関連発掘調査報告書Ⅱ-1	同	〃
同 Ⅱ-4	同	〃
県営干拓地等農地整備事業関係発掘調査報告書—Ⅱ	同	〃
郡山市文化財研究紀要 第3号	郡山市教育委員会	60. 9. 9
郡山東部Ⅴ	同	〃
県道金屋本宮線改良工事関連宮田B・良耕地C・D遺跡発掘調査概要	同	〃
県営ほ場整備事業関連 本丸遺跡 発掘調査概要	同	〃
広網遺跡 発掘調査概報	同	〃
山陰地域研究伝統文化 1985 Mar. No.1	島根大学附属図書館	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター年報4	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
横浜市港北区山王山遺跡調査の概要	同	〃
年報 一5一 昭和59年度	勸埼玉県埋蔵文化財調査事業団	〃
房総古代のくらし展	西武美術館	〃
とまこまい埋文だよりNo.1	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.19	同志社大学校地学術調査委員会	60. 9. 11
枚方市文化財調査報告 第18集	勸枚方市文化財研究調査会	〃
枚方市民俗文化財調査報告2	同	〃
群馬県立歴史博物館年報第6号	群馬県立歴史博物館	60. 9. 17
埋蔵文化財発掘調査年報Ⅲ 一昭和59年度一	勸愛知県教育サービスセンター	〃
はばたき 第1号	勸岩手県文化振興事業団	60. 9. 18
郭内横穴墓群発掘調査報告Ⅱ	白河市教育委員会	60. 9. 19
道南北遺跡—南堀切地区発掘調査報告Ⅲ—	同	〃
白河 小峰城址	同	〃
南堀切Ⅳ	同	〃
白河市勢要覧	同	〃
59資料編 しらかわ	同	〃
岩波講座 日本歴史 1~23	田所 真	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第4号	福岡市埋蔵文化財センター	60. 9. 21
下総国分尼寺跡Ⅲ	市立市川考古博物館	60. 9. 25
三重県斎宮跡調査事務所年報1984	三重県斎宮跡調査事務所	60. 9. 26
上総 江子田金環塚古墳 3冊	市原市教育委員会	〃
福島県文化財調査報告書第144集	勸福島県文化センター	〃
同 第145集	同	〃
同 第146集	同	〃
同 第147集	同	〃
同 第148集	同	〃
同 第149集	同	〃
同 第150集	同	〃
同 第151集	同	〃
同 第152集	同	〃
調布市郷土博物館だよりNo.20	調布市郷土博物館	60. 9. 30
近藤勇と新選組	同	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告 第62集	栃木県教育委員会	60. 10. 2
同 第63集	同	〃

書名	寄贈者	受入日
栃木県埋蔵文化財調査報告 第64集	栃木県教育委員会	60.10.2
名古屋博物館だより46	名古屋博物館	60.10.3
埋文えひめ(第3号)	勸愛媛県埋蔵文化財調査センター	〃
宮前川遺跡	同	〃
房総のあけぼのII	千葉県教育委員会	60.10.4
ひろしまの遺跡 第22号	勸広島県埋蔵文化財調査センター	60.10.7
掘りだした水上の昔	山武考古学研究所	〃
年報 — 5 — 昭和59年度	勸埼玉県埋蔵文化財調査事業団	60.10.12
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第41集	同	〃
同 第42集	同	〃
同 第43集	同	〃
同 第44集	同	〃
同 第45集	同	〃
同 第46集	同	〃
同 第47集	同	〃
同 第48集	同	〃
同 第49集	同	〃
同 第50集	同	〃
同 第51集	同	〃
鹿島町の文化財第38集	茨城県鹿島町教育委員会	60.10.14
同 第39集	同	〃
同 第43集	同	〃
同 第44集	同	〃
同 第48集	同	〃
同 第49集	同	〃
上並榎南遺跡	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団	60.10.18
大田区立 郷土博物館だより 第12号	大田区立郷土博物館	60.10.21
博物館ノートNo25~No27	同	〃
特別展 大田の職人	同	〃
美沢川流域の遺跡群VIII	勸北海道埋蔵文化財センター	60.10.23
湯の里遺跡群	同	〃
礼文島幌泊段丘の遺跡群	同	〃
登別市 川上B遺跡	同	〃
登別市 千歳5遺跡	同	〃
尻岸内町 中浜E遺跡	同	〃
今金町 美利河1遺跡	同	〃
枚方の遺跡と文化財	勸枚方市文化財研究調査会	60.10.28
わらびて No26	岩手県立埋蔵文化財センター	〃
創立5周年記念 栃木県文化振興事業団のあゆみ	勸栃木県文化振興事業団	〃
茂原市文化財センター調査報告第2集	勸茂原市文化財センター	〃
小川城址	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
糸井宮前遺跡I	同	〃
埋蔵文化財愛知No1	勸愛知県埋蔵文化財センター	60.10.31
研究紀要 第2号 1985	栃木県立博物館	60.11.1
掃源院下やぐら群の調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告9	同	〃
勸大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第1輯	勸大阪府埋蔵文化財協会	60.11.2

書名	寄贈者	受入日
勸大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第2輯	勸大阪府埋蔵文化財協会	60.11.2
信太山古墳群試掘調査結果	同	〃
第7回特別展 北播磨埋蔵文化財展 展示資料出土遺跡の解説	田中新史	60.11.6
第3回特別展 遺跡は語る ここ20年の発掘成果から	同	〃
国指定史跡 蛭子山古墳 加悦町文化財シリーズ3	同	〃
古代の近江 くらし・いのり・まつりごと	勸滋賀県文化財保護協会	60.11.8
古代久留米を探る	久留米市教育委員会	60.11.11
茨城県日立市埋蔵文化財分布地図	日立市教育委員会	〃
なりた No34	成田山霊光館	〃
とまこまい埋文だより No2	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	60.11.13
鳥取県教育文化財団調査報告書17	勸鳥取県教育文化財団	60.11.14
東京都埋蔵文化財センター年報5	勸東京都埋蔵文化財センター	60.11.16
多摩ニュータウン遺跡No.769遺跡 年報 4-1	同	〃
石の文化	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団	60.11.18
長野県埋蔵文化財ニュース No15	市立市川考古博物館	60.11.21
京都府埋蔵文化財情報 第16号	勸長野県埋蔵文化財センター	60.11.22
研究連絡誌 第14号	勸京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
千葉東南部ニュータウン16	勸千葉県文化財センター	〃
千葉県文化財センター年報 No10	同	〃
発掘された考古資料	同	〃
図書目録追録	勸大阪文化財センター	60.11.25
長岡京市文化財調査報告書 第12冊	長岡京市教育委員会	〃
同 第14冊	同	〃
松山市文化財調査報告書15	田所 真	60.11.28
愛媛県総合運動公園関係埋蔵文化財調査報告書III	同	〃
勸元興寺文化財研究所通信No21,22	勸元興寺文化財研究所	〃
椿野遺跡 1985	浜松市博物館	60.12.2
名古屋市博物館だより47	名古屋市博物館	60.12.4
東北大学埋蔵文化財調査年報1	東北大学埋蔵文化財調査委員会	60.12.5
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XII-3	勸滋賀県文化財保護協会	60.12.12
同 XII-9	同	〃
県営かんがい排水事業関連発掘調査報告書II-2	同	〃
吉身中遺跡発掘調査報告書	同	〃
志那・北山田湖底遺跡調査報告書	同	〃
延勝寺湖底遺跡発掘調査報告書	同	〃
図書目録 昭和60年12月	市原市議会事務局	〃
荒砥前原遺跡、赤石城址	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団	60.12.13
太田東部遺跡群	同	〃
埋蔵文化財ニュース51	奈良国立文化財研究所	60.12.14
泉北考古資料館だよりNo22	大阪府教育委員会	〃
三河湾から伊那谷へ 川船と中馬	豊田市郷土資料館	60.12.19
石神台貝塚・戸ノ内貝塚	印旛村史編さん委員会	〃
浦和市郷土博物館館報 第26号	浦和市立郷土博物館	60.12.21
國學院大學考古学資料館要覧 1984	國學院大學考古学資料館	〃
第3回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会資料	勸大阪文化財センター	〃
苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書VII	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	60.12.23

書名	寄贈者	受入日
國學院大學考古学資料館要覧 1984	國學院大學考古学資料館	60.12.24
東京大学文学部考古学研究室研究紀要 第4号	東京大学文学部考古学研究室	60.12.25
戸張一番割遺跡	柏市教育委員会	60.12.26
わらびて No27	岩手県立埋蔵文化財センター	61.1.6
鳥取埋文ニュース No12	鳥取県埋蔵文化財センター	〃
上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第5集	勲群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
埋蔵文化財愛知No2	勲愛知県埋蔵文化財センター	61.1.9
展示ガイド	埼玉県立博物館	61.1.14
三ツ木遺跡	勲群馬県埋蔵文化財調査事業団	61.1.20
武蔵・大井鹿島遺跡	立正大学文学部考古学研究室	61.1.22
財団法人 印旛郡市文化財センター年報1	勲印旛郡市文化財センター	〃
調布の歴史	調布市郷土博物館	61.1.27
埋蔵文化財愛知No3	勲愛知県埋蔵文化財センター	61.1.30
武蔵・大井鹿島遺跡	立正大学文学部考古学研究室	〃
「経塚遺宝」展	北九州市立考古博物館	61.2.3
名古屋博物館だより48	名古屋博物館	61.2.6
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第89集	勲岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	61.2.7
同 第90集	同	〃
同 第91集	同	〃
同 第92集	同	〃
同 第93集	同	〃
勲大阪府埋蔵文化財協会調査事業報告第1冊	勲大阪府埋蔵文化財協会	61.2.10
現地説明会資料3 信太山遺跡発掘調査	同	〃
宮前遺跡第1次・第2次調査報告書 3冊	浅利幸一	61.2.14
天神台遺跡発掘調査概報	同	〃
横浜市戸塚区 坂本遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	61.2.17
川崎市麻生区 大ヶ谷戸遺跡発掘調査報告書	同	〃
滋賀県文化財目録 昭和60年版	勲滋賀県文化財保護協会	〃
砂屋戸 荒川館調査概要	勲いわき市教育文化事業団	〃
いわき市埋蔵文化財調査報告 第11冊	同	〃
松戸市文化財調査報告第11集 2冊	松戸市教育委員会	61.2.21
滋賀埋文ニュース 第70号	滋賀県埋蔵文化財センター	〃
八幡町埋蔵文化財調査報告書 第2集	八幡町教育委員会	〃
埋蔵文化財ニュース52,53,54	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	61.2.26
特別展 かも 展示図録	埼玉県立博物館	61.2.27
滋賀文化財だよりNo103 ~No106	勲滋賀県文化財保護協会	〃
文化財教室シリーズ [81], [82]	同	〃
千葉地東遺跡調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	61.2.28
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告10	同	〃
滋賀埋文ニュース	滋賀県埋蔵文化財センター	61.3.3
なりた No35	成田山霊光館	〃
宮附遺跡発掘調査報告	山武考古学研究所	61.3.3
総社桜ヶ丘遺跡	同	〃
市瀬向山遺跡発掘調査報告	同	〃
赤鳥遺跡	同	〃

書名	寄贈者	受入日
寺向・捕込附遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	61. 3. 3
わらびて No28	岩手県立埋蔵文化財センター	61. 3. 5
郷土博物館だより No21	調布市郷土博物館	〃
長崎遺跡	流山市教育委員会	〃
三輪野山八重塚第II遺跡	同	〃
ひろしまの遺跡 第23号	広島県埋蔵文化財調査センター	61. 3. 10
千葉県の特設教育	市原市文化課	61. 3. 12
滋賀文化財だより2	滋賀県文化財保護協会	61. 3. 13
大山崎町埋蔵文化財調査報告書 第4集	大山崎町教育委員会	61. 3. 14
大阪府の銅鐸図録	大阪府立泉北考古資料館	61. 3. 17
市原のあゆみ	市原市文化課	61. 3. 18
東京の遺跡展 2部	東京都教育庁文化課埋蔵文化財	〃
昭和60年度企画展 原始、古代の装い	千葉県立房総風土記の丘	61. 3. 19
房総風土記の丘だより 第10号 2部	同	〃
市立市川考古博物館 2部	市立市川考古博物館	〃
鳥取埋文ニュース No13	鳥取県埋蔵文化財センター	〃
大熊段遺跡	同	〃
千葉県誉田県立コロニー内遺跡 3冊	同千葉県文化財センター	〃
千葉東南部ニュータウン7 3冊	同	〃
同 8 3冊	同	〃
同 9 3冊	同	〃
同 11 3冊	同	〃
成田新線建設事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書I 3冊	同	〃
同 II 3冊	同	〃
同 III 3冊	同	〃
千原台ニュータウンI 3冊	同	〃
千葉市中野僧御堂遺跡 3冊	同	〃
東寺山石神遺跡 3冊	同	〃
茂原市 山崎横穴群 3冊	同	〃
千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書VII 3冊	同	〃
成台寺	同大阪文化財センター	61. 3. 24
長原(その2)	同	〃
大堀城跡II・III	同	〃
基本マニュアル	同	〃
財団法人 印旛都市文化財センター年報1	同印旛都市文化財センター	61. 3. 25
北大堀・猿楽場遺跡発掘調査報告書	同	〃
埋蔵文化財愛知No.4	同愛知県埋蔵文化財センター	61. 3. 26
大阪市文化財情報 葦火 創刊号	同大阪市文化財協会	61. 3. 27
所報 吉備 第1号	岡山県古代吉備文化財センター	61. 3. 31
民俗資料館目録 民俗資料——千葉県指定文化財	千葉県立多古高等学校	〃

財団法人 市原市文化財センター既刊調査報告書

皿郷田茂遺跡	480 円	(〒 250円)
石川城郭跡	840 円	(〒 300円)
片又木遺跡	1,200 円	(〒 300円)
池ノ谷遺跡・福増遺跡	800 円	(〒 300円)
草刈遺跡	1,050 円	(〒 300円)
永田・不入窯跡	750 円	(〒 200円)
山田大宮遺跡	350 円	(〒 250円)
潤井戸西山遺跡	1,100 円	(〒 300円)
大羽根城郭跡	200 円	(〒 200円)

市原市文化財センター年報

(昭和60年度)

昭和61年12月17日 印刷  
昭和61年12月20日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター  
〒290-03 千葉県市原市馬立817  
TEL 0436 (95) 2755

印刷 三陽工業(株)市原支店  
〒290 千葉県市原市五井5510の1  
TEL 0436 (22) 4348